令和3年第7回山江村議会9月定例会会期日程表

日次	月 日	曜	種 別	場 所	開会時刻	摘 要
1	9月 7日	火	本会議	議会議場	午前10時	・開 会 ・提案理由説明
			休 会	役場 大会議室	午後 1時	・議 案 審 議
2	9月 8日	水	休 会	役場 大会議室	午前 9時	・議 案 審 議
3	9月 9日	木	休 会	役場 大会議室	午前 9時	・議 案 審 議
4	9月10日	金	休 会	村内一円	午前 9時	・現 地 調 査
5	9月11日	土	休 日			
6	9月12日	日	休 日			
7	9月13日	月	本会議	議会議場	午前10時	・一 般 質 問
8	9月14日	火	本会議	議会議場	午前10時	・質 疑 ・討 論 ・表 決 ・閉 会 疑論決会

第 1 号

9 月 7 日 (火)

令和3年第7回山江村議会9月定例会（第1号）

令和3年9月7日
午前10時00分開会
於 議 場

1. 議事日程

日程第 1		会議録署名議員の指名
日程第 2		会期の決定について
日程第 3		諸般の報告
日程第 4		行政報告
日程第 5	発議第 1号	コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書案
日程第 6	議案第 4 2号	山江村過疎地域持続的発展計画の策定について
日程第 7	議案第 4 3号	山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 8	議案第 4 4号	山江村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 9	認定第 1号	令和2年度山江村一般会計決算の認定について
日程第 10	認定第 2号	令和2年度山江村特別会計国民健康保険事業決算の認定について
日程第 11	認定第 3号	令和2年度山江村特別会計簡易水道事業決算の認定について
日程第 12	認定第 4号	令和2年度山江村特別会計農業集落排水事業決算の認定について
日程第 13	認定第 5号	令和2年度山江村特別会計介護保険事業決算の認定について
日程第 14	認定第 6号	令和2年度山江村特別会計後期高齢者医療事業決算の認定について
日程第 15	認定第 7号	令和2年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業決算の認定について
日程第 16	議案第 4 5号	令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）
日程第 17	議案第 4 6号	令和3年度山江村特別会計国民健康保険事業補正予算（第2号）
日程第 18	議案第 4 7号	令和3年度山江村特別会計簡易水道事業補正予算（第2

号)

日程第19 議案第48号 令和3年度山江村特別会計農業集落排水事業補正予算
(第1号)

日程第20 議案第49号 令和3年度山江村特別会計介護保険事業補正予算 (第1
号)

日程第21 議案第50号 令和3年度山江村特別会計後期高齢者医療事業補正予算
(第1号)

日程第22 議案第51号 令和3年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業補正予算
(第1号)

日程第23 議員派遣の件

2. 出席議員は次のとおりである。(10名)

1番 本 田 り か さん	2番 久保山 直 巳 君
3番 中 村 龍 喜 君	4番 赤 坂 修 君
5番 森 田 俊 介 君	6番 横 谷 巡 君
7番 立 道 徹 君	8番 西 孝 恒 君
9番 中 竹 耕一郎 君	10番 秋 丸 安 弘 君

3. 欠席議員は次のとおりである。(0名)

4. 職務のため会議に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 山 口 明 君

5. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村 長 内 山 慶 治 君	副 村 長 北 田 愛 介 君
教 育 長 藤 本 誠 一 君	総 務 課 長 白 川 俊 博 君
税 務 課 長 平 山 辰 也 君	企 画 調 整 課 長 新 山 孝 博 君
産 業 振 興 課 長 松 尾 充 章 君	健 康 福 祉 課 長 迫 田 教 文 君
建 設 課 長 清 永 弘 文 君	教 育 課 長 蕨 野 昭 憲 君
会 計 管 理 者 一 二 三 信 幸 君	

開会 午前10時00分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君） おはようございます。本日の出席議員は10名で定足数に達しております。

ただいまから、令和3年第7回山江村議会定例会を開会いたします。

これより、本日の会議を開きます。

-----○-----

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（中竹耕一郎君） 議事日程に従いまして、日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議規則第124条の規定によりまして、3番、中村龍喜議員、4番、赤坂修議員を指名します。

-----○-----

日程第2 会期の決定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第2、会期の決定についてを議題といたします。

本件につきましては、8月25日、議会運営委員会が開かれ、会期の日程等について協議なされております。議会運営委員長の報告を求めます。

10番、秋丸安弘君。

○議会運営委員長（秋丸安弘君） おはようございます。

令和3年第7回山江村議会定例会につきまして、去る8月25日午後1時30分から議会運営委員会議を開催し、本議会全般について協議し、日程を決定しております。

決定しておりますことをご報告申し上げます。

会期につきましては、本日9月7日から14日までの8日間としております。

本日開会・提案理由の説明を行った後、午後から議案審議となっております。

8日及び9日は休会で、午前9時から議案審議、10日は休会で午前9時から現地調査を行います。

11、12日は休日となっております。

7日目の13日は一般質問で、終了後、散会となっております。なお、6名の議員から通告がなされております。発言の順序はくじ引きにより決定しております。

時間については、質問・答弁含めて60分としております。

8日目、14日に質疑、討論、表決を行い、閉会と決定しております。

以上、ご報告を申し上げます。

○議長（中竹耕一郎君） これで、議会運営委員長の報告は終わりました。

お諮りします。会期の決定については、委員長報告のとおり決定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、会期の決定については、議会運営委員長報告のとおり決定しました。

-----○-----

日程第3 諸般の報告

○議長（中竹耕一郎君） 日程第3、諸般の報告を行います。

1年延長されましたパラリンピックも閉会をしました。この大会も、世界から集まった障がいのある4,400人が個性と能力を発揮して、感動の渦に人々を引き込みました。私たちも、この感動を忘れないうちに、今一度、共生社会について再確認しなければならないと考えたところであります。

そして、急遽、総理大臣の交替により、政治もめまぐるしく変わることが予想されます。地方にあっても、正確な情報をいち早くつかみ、的確に対処をすることが望まれています。

それでは、8月25日以降の諸般の報告を申し上げます。

8月25日、議会運営委員会が行われております。

27日、人吉球磨広域行政組合の議会が、定例会が行われております。関係議員が出席をしております。

議会全員協議会を9月2日に行っております。

以上で諸般の報告を終わります。

次に、一部事務組合の活動報告を行います。

はじめに、人吉球磨広域行政組合議会議員、3番、中村龍喜議員より報告をお願いします。

中村龍喜君。

○3番（中村龍喜君） それでは、人吉球磨広域行政組合議会定例会の報告を行います。

令和3年第3回人吉球磨行政組合議会定例会が、令和3年8月27日午前10時より、人吉球磨クリーンプラザ大会議室において開催されました。

日程の第1につきましては、議席の指定ですけど、先般、五木村議会議員の任期満了に伴う改選により、新たに選出された議員の議席が決定しました。五木村選出の田山淳士議員を22番、西村久徳議員を23番に指定され、併せて欠員が生じていた組合の共同処理に関する事務に関する特別調査委員会に2名が指名されました。

日程の6から11までの提出案件は、一括議題とし、理事会代表理事から提案理由の説明を受け、承認議案3件を一括して、承認議案ごとに質疑、採決を行いました。

た。承認第2号、専決処分の承認を求めることについて、熊本県市町村総合事務組合の規約の一部の変更について、議案第8号、人吉球磨広域行政組合職員定数条例の一部を改正する条例の制定について、議案第9号、令和3年度人吉球磨広域行政組合一般会計補正予算（第1号）の3件を原案どおり、可決、決定いたしました。認定第1号、令和2年度人吉球磨広域行政組合一般会計歳入歳出決算の認定について、並びに認定第10号、令和2年度人吉球磨行政組合人吉球磨ふるさと市町村圏特別会計歳入歳出決算の認定について、これにつきましては、日程を追加しまして令和2年度決算特別委員会が設置され、決算の認定2件の審議については、委員会のほうに付託をされました。

最後に、委員会の閉会中の継続調査並びに審査については、議会運営委員会及び令和2年度決算特別委員会から申し出のあった委員会の閉会中の継続調査並びに審査申し出書は、各委員長の申し出のとおり決定され、閉会いたしました。

以上、令和3年第3回人吉球磨広域行政組合議会定例会の結果について報告をいたしました。終わります

○議長（中竹耕一郎君） 次に、人吉下球磨消防組合議会議員、7番、立道徹議員より報告をお願いします。

7番、立道徹君。

○7番（立道 徹君） それでは、令和3年8月第3回人吉下球磨消防組合議会臨時会の報告を行います。

日時は令和3年8月24日午後2時から開会しまして、場所は人吉下球磨消防組合消防本部会議場にて行われました。

日程第1、仮議席の指定については、副議長のほうから着席の議席を指定され、日程第2、議長の選挙について、五木村議会議員の改選により、前議長であった五木村選出の岡本精二議員の任期満了に伴い、議長が空席となったために選挙が必要になりました。指名推薦により、人吉市選出の池田芳隆議員が選出されました。

次に、追加議事日程でございますけど、日程第3は副議長の選挙について。前期副議長でありました人吉市選出の池田芳隆議員が議長に選出されたことに伴い、副議長が空席となったため選挙が必要になり、指名推薦により、球磨村選出の犬童勝則議員が選出されました。

日程第4、日程第5、日程第6は割愛させていただきます。

日程第7、議案第1号は専決処分の承認を求めることについて、無事に承認されました。

日程第8、議案第2号、令和3年度人吉下球磨消防組合一般会計補正予算（第1号）については、原案どおり可決されました。

日程第9、議案第3号は、人吉下球磨消防組合監査委員の選任につき同意を求めることについてでございます。知識経験者の東憲一監査委員の任期満了に伴い、新たに錦町の高瀬久人氏が選任されました。

日程第10、議案第4号、人吉下球磨消防組合監査委員の選任につき同意を求めることについて、議員選出ですが、人吉市選出の牛塚孝浩議員が選任されました。

それから、消防職員のですね、新型コロナ接種状況についてということで、8月24日現在、全職員110名中107名は1回目、2回目、接種済みということです。未接種の3名の方は、今、消防学校に勤務されているということでございます。

以上で、人吉下球磨消防組合議会臨時会の報告を終わりたいと思います。

○議長（中竹耕一郎君） 以上で、一部事務組合の活動報告は終わりました。

-----○-----

日程第4 行政報告

○議長（中竹耕一郎君） 日程第4、村長から行政報告の申し出がっておりますので、これを許します。

村長。

○村長（内山慶治君） 皆様おはようございます。議長には発言の機会を与えていただきましてありがとうございます。本日、ここに令和3年第7回山江村議会定例会を開催いたしましたところ、議員の皆様には全員ご出席をいただく中に開催できますことを心から感謝を申し上げたいと思います。

さて、議長からも先ほどありましたが、9月3日、先週の金曜日、菅総理が、突如、辞任をされるというニュースが飛び込みました。びっくりもしましたが、菅総理には秋田県の地方のご出身として、地方の課題解決、充実発展のために、さらにご尽力いただけるものと期待をいたしておりましたが、残念に思うところであります。

ただ、人吉球磨の令和2年7月豪雨災害発災以来の災害復旧復興事業に対しましては、今回の予算に計上しておりますとおり、起債を3分の2から全額補助金100%にかさ上げする措置を取られるなど、多大な支援をいただいたところでもあります。この1年間ではありましたが、コロナウイルス感染対策、大規模化する自然災害対策など大変苦慮をされながら、危機管理対策に日本のリーダーとして尽力されましたことに敬意と感謝を申し上げます。

それでは、まず先般の臨時会後の諸般の報告を申し上げます。

8月27日ではありますが、人吉球磨行政組合議会定例会は先ほどご報告があったとおりであります。そして、男女共同参画推進町内委員会を開催をし、委嘱状を交付いたしております。これは、男女共同参画社会の実現のために、庁内として、役

場としてどういうことを果たしていくかというようなことを職員に検討してもらおうというようなこととなります。

8月31日は、人吉球磨地域公共交通活性化協議会、並びにくま川鉄道の取締役会がありまして、いずれもオンライン会議にて参加をしております。

8月31日でございますが、体育部長のスポーツ推進委員の合同会議を開催をされております。ご案内のとおりでありますけれども、ここでの議題は村民体育祭についてどのようにするかというようなことでありましたけれども、中止というふうに決定をさせていただきました。コロナ感染拡大がなかなか止まらないということによる中止ということでございます。

9月1日、辞令交付式は会計年度任用職員お二人に辞令を交付させてもらっておりますし、人材育成基本方針推進委員会についても、役場職員の育成についての委員会でありますけれども、これに委嘱状を交付させてもらっております。

9月2日、定例町村長会議でありましたが、この中で市川海老蔵さんがですね、全国の災害地に森づくりをされているという、その森づくりのための苗木を寄贈されているというような事業であります。これを人吉球磨の実行委員会を組織して受け入れようということになりました。場所は、山江村が植樹祭、万江川水源の森並びに災害復興の森を造ろうとしておりますが、そこにありますので、日にちは異なりますけれども、その事業を行うというようなことを受け入れております。10月31日、市川海老蔵の森として受け入れる。ただ、コロナがどのようになるかですけれども、それによって規模は確認できようかと思っております。

それから、9月3日、自然休養村管理センターの改修検討委員会といたしておりますけれども、自然休養村管理センターをコロナの分散避難対策として、また万江地区には避難所がありませんので、その避難所を目途としてですね、どのように改修していくかという検討会を今やっております。2回目の検討会をしたということでもありますし、設計費は予算をあげておりますけれども、中身につきましては追っでもろもろの補助事業を探しながらまた計上させて、提案させていただきたいと思っております。

それから、少し時間をいただきたいと思います。まずコロナウイルス感染症でございます。昨日の新規感染者は8,000人台と1万人を切り、一時2万人を超えていた頃からすると減少傾向にあらうかと考えております。ただ、医療の分野におきましては、ひっ迫した状態が続いておりますし、政府は緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の延長措置もですね、検討されているということでもあります。引き続き、非常に緊張状態にあるというようなことが言えようかと思っております。

そのような中に、本村のワクチン接種状況であります。昨日現在でございます。

対象者3,040名中ですね、申込者、申込希望者が2,544名おられます。従いまして、4,960名の方、もちろん申し込んでない人がおられるということですが、もちろんですね、どうしても接種できないという方もおられますけれども、できる限りのですね、希望をお願いするというものであります。その2,544名中、第1回目の接種済み者は2,448名で、96.2%の方が第1回目の接種を終えておられますし、2回目の接種者についても2,186名、85.9%の方がもう2回目の接種済みであります。9月が始まったばかりでありますので、今月中には一応ですね、その接種者2回目の方々も、ほとんど終わられるというめどがつくんだろうということを考えているところであります。

ただし、ブレークスルーと言われておりますけれども、2回ワクチン接種した人も感染する事例も出ております。13人に1名は感染するというような統計の結果が出ておりますが、人吉保健所管内においてもですね、お二人の医療関係従事者が2回接種後に感染をされておまして、デルタ株感染力の強さを物語っておりますけれども、引き続きの感染対策取っていきますので、村民の皆さん方、また議員の皆さん方感染対策につきましても、よろしく願いをいたしたいと思っております。

今回、コロナ感染症の予算関係をあげさせてもらっておりますが、感染予防対策として学校及び公的機関でのオンラインの環境整備の予算、及び感染予防としての避難所対策の予算をあげさせてもらっております。それから、暮らしの対策として、昨今ですね、介護認定申請がいわゆる不要不急の外出制限をしておることも一つの起因でもあろうかと思っておりますが、介護認定申請が増えつつございます。そのようなことから、介護予防事業を推進するという立場でそういう課題解決のために、参加者へ交通費、それから参加料等の5,000円の給付事業を行いたいというものでございます。

それから社会、それから経済活動、もう本当に止まっていて、関係者の方大変苦勞をされておられるというふうな意見も聞きますし、私も直接話がありますけれども、商工会のほうにプレミアム商品券を発行することを委託したいと思っております。プレミアム率30%としたプロプレミアム商品券を発行するというを予算化をさせてもらっております。いわゆる財源につきましては、地方創生臨時交付金、これは全額国の給付金でありますけれども、6,221万1,000円の予算を使いまして対策を打ちたいということでございます。

次に、災害の対策でございます。昨年の豪雨災害の発災以来、1年と2カ月が過ぎたということでもありますけれども、球磨人吉の災害の被害総額はですね、5,565億円でございます。この数字が未曾有の災害という大災害を示しておるところでありますけれども、被災をしたそれぞれの市町村で、少しずつではあります、

復旧・復興の歩みが確実に進んでいるということであるあろうかと考えます。

山江村におきましては、昨年来、災害検証及び復興計画策定委員会により策定されました山江村災害復旧・復興計画でありますけれども、これにつきましては、議員の皆様方、3名の議員の皆さんにもですね、委員として計画策定をいただいているということですが、この計画に沿って復旧・復興事業を進めているということでございます。

内容として、まず被災者、人の対策、支援でありますけれども、役場及び社会福祉協議会は被災者支援センターを持っておりますので、被災者の皆様に聞き取りが一応終わったということでもあります。仮設住宅入居者が50世帯、それから自宅生活者の被災者が25世帯、50世帯ありますけれども、自宅生活者の25世帯については、ほぼ問題なく普通の生活に戻られているというような聞き取り結果であります。仮設住宅の25世帯につきましては、まだまだ帰られるための環境整備が、生活をインフラ含めて環境整備が整っておりませんので、来年の8月までの入居退室をめどとして、その聞き取りを含めてその対策を打ってきたいということでもあります。

ただ、ここにきて、いろんな意見が変わってきているということがあります。特に、公営住宅入居者のですね、意向が変わってきました。当初はですね、元あった場所に公営住宅を建設し、帰りたいという強い意向をお持ち、そういう要望書を頂いていたところでありますけれども、安全なところに公営住宅を建設をしてくれないかというようなことが、今回の聞き取りで判明をしております、さらにこのことについてはですね、検討が必要かと、また早急に対応する必要があるかというふうに考えているところであります。

それから、災害復旧の事業についてでありますけれども、工事進捗状況であります。本数ベースではですね、81件中47本の入札が終わって、58%終わっておるところでありますけれども、金額ベースにしますと、28億円中10億円の入札が終わった、35%程度であります。災害復旧費につきましてはですね、先ほどちょっと述べましたけれども、国のかさ上げ措置が取られておりました、今回、補正予算として計上してありますけれども、起債措置3分の2の国の支援措置でしたが、今回補助金として100%、国の予算で全額みるということのかさ上げ措置が取られておりました、5億4,510万円の起債予算を削除し、新たに6億1,605万円を補助金としてですね、今回組み合わせてもらっています。7,095万円増として計上させてもらっています。

ただしですね、今回、山江村だけが不調、不落がないという情報でしたけれども、本村におきましても入札不調が出てきました。今後、大きな事業の発注があります

ので、計画的な災害復旧事業が必要だと思っているところでありまして、人吉球磨全体の課題でもありますので、振興局、土木部を中心に、またいろんな検討をしていきたいと思っているところでもあります。

今回の一般会計補正でありますけれども、7億73万9,000円を追加をしているものですが、主なものはお繰越金が4億6,460万4,000円を計上しておりますし、普通交付税につきましては8,710万3,000円、これは災害関連予算だと思っておりますけれども、増として交付されましたので、その予算を計上させてもらっております。そのほか詳しいことにつきましては、担当のほうから説明をさせていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

本日、村長提案の議案につきましては、条例の一部改正案件が2件、令和2年度決算の認定案件が7件、補正予算が7件の合計16件でございます。どうぞ慎重にご審議いただきまして、よろしくご決定賜りますようお願い申し上げます。

○議長（中竹耕一郎君） これで、村長の行政報告が終わりました。

-----○-----

日程第5 発議第1号 コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書案

○議長（中竹耕一郎君） 日程第5、発議第1号、コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書案を議題とし、提案者の説明を求めます。

5番、森田俊介君。

○5番（森田俊介君） それでは、発議第1号についてご説明を申し上げます。

令和3年8月10日

山江村議会議長 中竹耕一郎様

提出者 山江村議会議員

森田俊介

賛成者 山江村議会議員

中村龍喜

コロナ禍による厳しい財政状況に対処し、地方税財源の充実を求める意見書案

上記の議案を別紙のとおり、地方自治法第112条及び山江村議会会議規則第13条第1項の規定により提出いたします。

提案理由といたしまして、新型コロナウイルスの感染拡大は変異株の猛威も加わり、我が国の各方面に甚大な経済的・社会的影響を及ぼしており、国民生活への不安が続いております。この中で、地方財政は、来年度においても巨額の財源不足が避けられない厳しい状況に直面しているところでございます。

このような状況を踏まえ、令和4年地方財政対策及び地方税改正に向け、強く国に求めていくことが不可欠であるため提案するものであります。

次のページに意見書を添付し、要望事項として5項目を記載しております。各議員におかれましても、意見書の趣旨にご賛同いただきますようお願いいたしまして、説明を終わります。

-----○-----

日程第6 議案第42号 山江村過疎地域持続的発展計画の策定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第6、議案第42号、山江村過疎地域持続的発展計画の策定についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第42号についてご説明申し上げます。山江村過疎地域持続的発展計画の策定についてでございます。山江村過疎地域持続的発展計画を別案のとおり策定するというものでございます。令和3年9月7日提出、山江村長、内山慶治となっております。

提案理由でございますが、山江村過疎地域持続的発展計画の策定については、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第8条第1項の規定によりまして、議会の議決を得る必要があるために提案をさせていただくというものでございます。

内容でございますけれども、ご案内のとおり、旧法、過疎地域自立促進特別措置法の下に、山江村過疎地域自立促進計画を作っていました。前期が5年間、後期が5年間ですが、これが3月末日をもって終了をいたしまして、いわゆる過疎法の特別措置法が終わって新しい特別措置法ができたというようなことであります。その新たな特別措置法は、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法と今回は申します。それが制定されまして、これに向けて計画策定を進めてきていたわけでありまして。

今回、熊本県との協議は終了いたしまして、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法第8条第1項によりまして、当該市町村議会の議決が必要となりますので、今回提案をさせてもらうというようなことであります。

今回の計画の期間につきましては、令和3年から令和7年までの前期5カ年となっております。あまねく事業を取り上げているところでありまして、本計画に記載をしてある事業については、過疎債の対象になるというものでございます。記載していないものについてはですね、過疎の対象にならないということですので、変更等によりその過疎事業の適用になるような措置も取っていくということになりますけれども、この計画にあげてあります事業を全部実施するという意味ではありませんので、申し添えておきたいと思っております。

以上でございます。

-----○-----

日程第7 議案第43号 山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（中竹耕一郎君） 次に、日程第7、議案第43号、山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第43号についてご説明申し上げます。山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例を別案のとおり制定するものとするというものでございます。本日提出でございます。

提案理由でございますけれども、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策の実施に伴いまして、条例の一部を改正する必要があるために提案をさせていただくというものでございます。

1枚開けていただきますと、山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例がありますけれども、いわゆる上位法の改正によります改正でございます。附則として最後のページに新旧対照表を掲載しておりますが、附則としていたしまして、この条例は公布の日から施行し、令和3年4月1日から適用するというものでございます。

-----○-----

日程第8 議案第44号 山江村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（中竹耕一郎君） 次に、日程第8、議案第44号、山江村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第44号についてご説明申し上げます。

山江村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。山江村手数料徴収条例の一部を改正する条例を別案のとおり、制定するというものでございます。令和3年9月7日、本日提出でございます。

提案理由でございますが、デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴いまして、条例の一部を改正する必要があるために提案するというものでございます。

1枚開けていただきますと、一部を改正する条例がありますし、その次のページには新旧対照表をつけておりますが、これはいわゆる上位法の一部改正に伴います

条例の改正ということでありませけれども、デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律によりまして、行政手続きにおける特定の個人の識別のための番号の利用等に関する法律の一部が改正をされております。地方公共団体情報システム機構がマイナンバーカードを発行するものとして明確化されました。これに伴い、現在、本村において徴収しているマイナンバーカードの再交付に係る手数料については、地方公共団体の情報システム機構が徴収をするということになりました。これに伴いまして、当該再交付に関わる手数料に関する規定を削除いたしまして、手数料条例の一部を改正するというものでございます。附則といたしまして、この条例は公布の日から施行し、令和3年9月1日から適用するをいたしております。

以上でございます。

-----○-----

- 日程第 9 認定第 1 号 令和 2 年度山江村一般会計決算の認定について
- 日程第 10 認定第 2 号 令和 2 年度山江村特別会計国民健康保険事業決算の認定について
- 日程第 11 認定第 3 号 令和 2 年度山江村特別会計簡易水道事業決算の認定について
- 日程第 12 認定第 4 号 令和 2 年度山江村特別会計農業集落排水事業決算の認定について
- 日程第 13 認定第 5 号 令和 2 年度山江村特別会計介護保険事業決算の認定について
- 日程第 14 認定第 6 号 令和 2 年度山江村特別会計後期高齢者医療事業決算の認定について
- 日程第 15 認定第 7 号 令和 2 年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業決算の認定について

○議長（中竹耕一郎君） 次に、日程第 9、認定第 1 号から日程第 15 号、認定第 7 号まで、令和 2 年度山江村一般会計及び特別会計決算の認定となっております。

ここでお諮りをします。山江村議会会議規則第 36 条の規定により、一括上程をしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。それでは、一括上程をいたします。

日程第 9、認定第 1 号、令和 2 年度山江村一般会計決算の認定について、日程第 10、認定第 2 号、令和 2 年度山江村特別会計国民健康保険事業決算の認定について、日程第 11、認定第 3 号、令和 2 年度山江村特別会計簡易水道事業決算の認定

について、日程第12、認定第4号、令和2年度山江村特別会計農業集落排水事業決算の認定について、日程第13、認定第5号、令和2年度山江村特別会計介護保険事業決算の認定について、日程第14、認定第6号、令和2年度山江村特別会計後期高齢者医療事業決算の認定について、日程第15、認定第7号、令和2年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業決算の認定についてを議題とし提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、認定第1号についてご説明を申し上げます。令和2年度山江村一般会計決算の認定についてでございます。令和2年度山江村一般会計決算を別案のとおり、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するというものでございます。本日提出でございます。

提案理由でございますが、地方自治法第233条第3項の規定によりまして、議会の認定に付するために提案をさせていただくというものでございます。

次に、認定第2号でございます。令和2年度山江村特別会計国民健康保険事業決算の認定についてでございます。令和2年度山江村特別会計国民健康保険事業決算を別案のとおり、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するというものでございます。本日提出でございます。提案理由は、前議案と同様でございます。

次に、認定第3号でございます。令和2年度山江村特別会計簡易水道事業決算の認定についてでございます。令和2年度山江村特別会計簡易水道事業決算を別案のとおり、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するというものでございます。本日提出でございます。提案理由は、前議案と同様でございます。

次に、認定第4号、令和2年度山江村特別会計農業集落排水事業決算の認定についてでございます。令和2年度山江村特別会計農業集落排水事業決算を別案のとおり、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するというものでございます。本日提出でございます。提案理由につきましては、前議案と同様でございます。

次に、認定第5号でございます。令和2年度山江村特別会計介護保険事業決算の認定についてでございます。令和2年度山江村特別会計介護保険事業決算を別案のとおり、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するというものでございます。本日提出でございますし、提案理由につきましては、前議案と同様でございます。

次に、認定第6号、令和2年度山江村特別会計後期高齢者医療事業決算の認定についてでございます。令和2年度山江村特別会計後期高齢者医療事業決算を別のとおり、監査委員の意見をつけて議会の認定に付するというものでございます。本日提出でございます。提案理由は同様でございます。

次に、認定第7号でございます。令和2年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業

決算の認定についてでございます。令和2年度山江村特別会計テーブル事業決算を別案のとおり、監査員の意見をつけて議会の認定に付するというものでございます。本日の提出でございますし、提案理由は前議案と同様でございます。

内容につきましては、会計管理者が説明を申し上げます。

○議長（中竹耕一郎君） 一二三会計管理者。

○会計管理者（一二三信幸君） それでは、認定第1号から認定第7号まで、令和2年度一般会計及び特別会計の決算につきまして、主に実質収支に関する調書にてご説明申し上げます。お手元の令和2年度歳入歳出決算書綴をご覧ください。

はじめに、56ページをお開き願います。令和2年度一般会計の実質収支に関する調書でございます。1、歳入総額49億5,191万2,569円、2、歳出総額43億1,493万2,277円、3、歳入歳出差引額6億3,698万292円、4、翌年度繰り越すべき財源、2の繰越明許費繰越額2,307万6,000円、よりまして、5、実質収支額6億1,390万4,292円となります。

次に、57ページをお開きください。歳入歳出決算比較分類図表でございます。科目ごとの割合を円グラフで示しています。歳入におきましては、地方交付税が19億8,702万6,000円で全体の40.13%を占めています。前年度と比較しますと、コロナ感染症予防対策事業、令和2年7月豪雨災害の災害復旧事業の実施によりまして、国庫支出金の割合が27.31%と大きくなっております。歳出におきましては、総務費が最も多く、11億1,807万963円で全体の25.91%を占めています。前年度よりも災害復旧費の割合が増え、令和2年度は4億6,541万2,716円で10.79%を占めています。

次に、58ページをお開き願います。財産に関する調書でございます。公有財産（1）土地及び建物でございます。土地、建物の増加につきましては、くま中央森林組合所有の旧山江森林組合事務所並びに倉庫及び土地を購入したことによる増加でございます。

次に、59ページをお開きください。3、有価証券及び、4、出資による権利でございます。前年度からの増減はございません。

次に、60ページをご覧ください。基金でございます。一般会計基金の状況につきましては、新規積立金2億5,193万3,094円、取り崩しが2億170万円、利子の総額が215万7,487円で、決算年度中5,239万581円の増となり、年度末現在高は21億1,445万1,802円となっております。右側に、その他の基金がありますが、利子合計が157円、及び延滞金が4万3,680円の増加で、決算年度末残高は6,743万5,702円でございます。貸付金につきましては、株式会社やまえからの償還金100万円があり、決算年度末現在高は400万

円の残となっております。

以上が一般会計でございます。

次に、77ページをお開き願います。国民健康保険事業会計でございます。1、歳入総額4億7,694万233円、歳出総額4億3,909万4,267円、歳入歳出差引額3,784万5,966円、実質収支額3,784万5,966円となっております。

次に、78ページをご覧ください。財産に関する調書でございます。基金、国民健康保険財政調整基金でございます。決算年度中の増減高は2,000万6,991円の増で、新規積立額が2,000万円、利子が6,991円となっております。決算年度末現在高は9,009万5,636円となっております。

次に、90ページをお開きください。簡易水道事業会計でございます。歳入総額2億1,196万3,063円、歳出総額2億946万5,059円、歳入歳出差引額249万8,004円、実質収支額249万8,004円となっております。

次に、91ページをお開きください。財産に関する調書でございます。基金、簡易水道事業財政調整基金でございます。年度中の増減高は1,604円の利子による増で、決算年度末現在高は1,600万5,648円となっております。

次に、102ページをお開きください。農業集落排水事業会計でございます。歳入総額1億7,356万8,808円、歳出総額1億6,562万3,387円、歳入歳出差引額794万5,421円、実質収支額794万5,421円となっております。

次に、120ページをお開きください。介護保険事業会計でございます。歳入総額4億6,103万9,237円、歳出総額4億1,627万5,163円、歳入歳出差引額4,476万4,074円、実質収支額4,476万4,074円となっております。

次に、121ページをお開きください。財産に関する調書でございます。基金、介護保険事業財政調整基金でございます。決算年度中の増減高は8,430円の利子による増で決算年度末現在高は7,425万715円となっております。

次に、131ページをお開き願います。後期高齢者医療事業会計でございます。歳入総額3,888万1,793円、歳出総額3,737万642円、歳入歳出差引額151万1,151円、実質収支額151万1,151円となっております。

次に、142ページをお開き願います。ケーブル事業会計でございます。歳入総額6,829万1,554円、歳出総額6,064万9,625円、歳入歳出差引額764万1,929円、実質収支額764万1,929円となっております。

上記のとおり清算したところ、相違ありません。令和3年7月1日、山江村会計

管理者、一二三信幸。

審査の結果、相違ないものと認める。令和3年8月11日、山江村監査委員、木下久人、同じく山江村監査委員、西孝恒。

上記のとおり監査委員の審査に付したところ、不都合がないので議会の認定に付します。令和3年9月7日、山江村長、内山慶治。

以上で、令和2年の山江村一般会計及び特別会計の決算の説明を終わります。

○議長（中竹耕一郎君） お諮りします。ここで暫時休憩をしたいと思います。ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。

-----○-----

休憩 午前10時54分

再開 午前11時05分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君） では、休憩前に引き続き再開をいたします。

-----○-----

日程第16 議案第45号 令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第16、議案第45号、令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）を議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） 議案第45号についてご説明申し上げます。令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）でございます。令和3年度山江村の一般会計補正予算（第5号）は、次に定めるところによるものでございます。歳入歳出予算の補正でございます。

第1条、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ7億73万9,000円を追加をいたしまして、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ63億1,556万7,000円とするものでございます。

2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表、歳入歳出予算補正」によるものでございます。地方債の補正でございますが、第2条、地方債の変更は「第2表、地方債補正」によるものでございます。令和3年9月7日提出でございます。

内容につきましては、総務課長が説明いたします。

○議長（中竹耕一郎君） 白川総務課長。

○総務課長（白川俊博君） それでは、議案第45号について説明をいたします。

1 ページをご覧ください。第1表、歳入歳出予算補正、歳入、主なものについて説明いたします。8、地方特例交付金、交付決定によるものでございまして、194万7,000円を減額するものでございます。9、地方交付税、こちらも交付決定によるものでございまして、8,710万3,000円を増額するものでございます。14、国庫支出金、公共土木施設災害復旧に係ります国庫負担率かさ上げに伴う預金など、6億8,607万2,000円を増額するものでございます。17、寄附金、一般寄附金600万円を増額するものでございます。18、繰入金、特別会計介護保険事業からの繰入金283万6,000円を増額するものでございます。19、繰越金、令和2年度からの確定いたしました繰越金4億6,460万4,000円を増額するものでございます。20、諸収入、県道災害復旧に係る電柱移転補償及び建物災害共済保険料など、1,356万1,000円を増額するものでございます。21、村債、公共土木災害復旧費補助金の国費かさ上げに伴います災害復旧費債など、5億5,750万円を減額するものでございまして、歳入合計、補正前の額に7億73万9,000円を追加しまして、63億1,556万7,000円とするものでございます。

2 ページをご覧ください。歳出、主なものについて説明いたします。2、総務費、役場庁舎及び避難所への公衆無線LAN整備、またふるさと応援寄附の謝礼、それから財政調整基金への積み立てなど、2億415万2,000円を増額するものでございます。2、民生費、障がい者及び児童福祉の国・県への返還金、またコロナ禍における介護予防推進交付金など、1,104万3,000円を増額するものでございます。4、衛生費、簡易水道事業特別会計への操出金、合併浄化槽の補助など、533万5,000円を増額するものでございます。5、農林水産業費、森林資源確保に係る委託料など、386万5,000円を増額するものでございます。6、商工費、プレミアム商品券発行補助及び温泉ほたる水源掘削に係る工事請負費など、1,866万円を増額するものでございます。7、土木費、村管理河川に堆積します土砂の浚渫工事請負費など、966万円を増額するものでございます。9、教育費、社会教育施設の空調設備工事費など、5,410万8,000円を増額するものでございます。

3 ページをご覧ください。10、災害復旧費、災害復旧に係る工事請負費の県委託費の組み替えによります委託料344万9,000円を増額するものでございます。12、予備費3億8,905万9,000円を増額しまして、歳出合計、補正前の額に補正額7億73万9,000円を追加しまして、63億1,556万7,000円とするものでございます。

4 ページをご覧ください。第2表、地方債補正、1、変更、起債の目的、臨時財

政対策債の補正前の限度額 8,400 万円を補正後の限度額 6,380 万円とするもの、河川浚渫事業、補正前の限度額 3,390 万円を補正後の限度額 4,070 万円とするもの、公共土木施設災害復旧事業、補正前の限度額 5 億 6,200 万円を補正後の限度額 1,690 万円とするもの、公共施設災害復旧事業、補正前の限度額 1 億 3,500 万円を補正後の限度額 1 億 3,150 万円とするものでございまして、補正後の起債の方法、利率、償還の方法については、記載してあるとおりでございます。

以上で説明を終わります。

-----○-----

**日程第 17 議案第 46 号 令和 3 年度山江村特別会計国民健康保険事業補正予算
(第 2 号)**

○議長（中竹耕一郎君） 次に、日程第 17、議案第 46 号、令和 3 年度山江村特別会計国民健康保険事業補正予算（第 2 号）を議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第 46 号についてご説明申し上げます。令和 3 年度山江村特別会計国民健康保険事業補正予算（第 2 号）でございます。令和 3 年度山江村の特別会計国民健康保険事業補正予算（第 2 号）は、次に定めるところによるとするものでございます。

歳入歳出予算の補正でございますが、第 1 条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ 3,168 万 9,000 円を追加をいたしまして、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ 5 億 2,599 万 1000 円とするものでございます。

2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第 1 表、歳入歳出予算補正」によるものでございます。本日提出でございます。

内容につきましては、健康福祉課長が説明いたします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、議案第 46 号につきまして説明いたします。

1 ページをご覧ください。第 1 表、歳入歳出予算補正、歳入につきまして説明いたします。款 10、繰越金、前年度決算額確定に伴う繰越額 3,168 万 9,000 円を追加するものでございます。歳入合計、補正前の額に 3,168 万 9,000 円を増額しまして、5 億 2,599 万 1,000 円とするものでございます。

2 ページをご覧ください。歳出、主なものにつきまして説明いたします。款 10、予備費、3,160 万 5,000 円を追加するものでございます。歳出合計、補正前の額に 3,168 万 9,000 円を増額しまして、5 億 2,599 万 1,000 円とす

るものでございます。

以上、説明を終わります。

-----○-----

日程第18 議案第47号 令和3年度山江村特別会計簡易水道事業補正予算（第2号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第18、議案第47号、令和3年度山江村特別会計簡易水道事業補正予算（第2号）を議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第47号についてご説明申し上げます。令和3年度山江村特別会計簡易水道事業補正予算（第2号）でございます。令和3年度山江村の簡易水道事業補正予算（第2号）は、次に定めるところによるものでございます。

歳入歳出予算の補正でございますが、第1条、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ2,495万円を追加をいたしまして、歳入歳出予算の総額を算出それぞれ1億9,429万9,000円とするものでございます。

2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表、歳入歳出予算補正」によるものでございます。地方税の地方債の補正でございますが、第2条、地方債追加は、「第2表、地方債補正」によるものでございます。令和3年9月7日、本日提出でございます。

内容につきましては、建設課長が説明いたします。

○議長（中竹耕一郎君） 清永建設課長。

○建設課長（清永弘文君） それでは、議案第47号についてご説明いたします。

1 ページ目をお開きください。第1表、歳入歳出予算、補正、1、分担金及び負担金、管路延長に伴う工事負担金として、15万円の追加、6、繰入金、一般会計からの繰り入れとして320万2,000円の追加、7、繰越金、前年度決算額の確定に伴い320万2,000円の減額、6、村債、工事に伴う起債の借り入れとして2,480万円を追加しまして、歳入合計、補正前の額に2,495万円を追加し、1億9,429万9,000円とするものでございます。

2 ページ目をお開きください。歳出、1、総務費、公用車の名義変更に伴う手数料として9,000円、2、簡易水道事業費、施設修繕、県道坂本人吉線の管路工事に伴い2,530万円の追加、5、予備費35万9,000円を減額しまして、歳出合計、補正前の額に2,495万円を追加し、1億9,429万9,000円とするものでございます。

3 ページ目をお開きください。地方債でございます。第2表、1、追加、起債の

目的は簡易水道事業でございます。限度額は2,480万円、起債の方法、利率、償還の方法につきましては、記載のとおりでございます。

以上、説明を終わります。

-----○-----

**日程第19 議案第48号 令和3年度山江村特別会計農業集落排水事業補正予算
(第1号)**

○議長（中竹耕一郎君） 日程第19、議案第48号、令和3年度山江村特別会計農業集落排水事業補正予算（第1号）を議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第48号についてご説明を申し上げます。令和3年度山江村特別会計農業集落排水事業補正予算（第1号）でございます。令和3年度山江村の特別会計農業集落排水事業補正予算（第1号）は、次に定めるところによるとするものでございます。

歳入歳出予算の補正でございますが、第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ617万3,000円を追加をいたしまして、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億5,017万3,000円とするものでございます。

2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表、歳入歳出予算補正」によるものでございます。本日提出でございます。

内容につきましては、建設課長が説明いたします。

○議長（中竹耕一郎君） 清永建設課長。

○建設課長（清永弘文君） それでは、議案第48号についてご説明いたします。

1 ページ目をお開きください。第1表、歳入歳出予算補正、歳入、1、分担金及び負担金、管路接続に伴う負担金として40万円の追加、5、繰越金、前年度決算額の確定に伴い577万3,000円を追加しまして、歳入合計、補正前の額に617万3,000円を追加し、1億5,017万3,000円とするものでございます。

2 ページ目を開きください。歳出、1、総務費、人件費など12万3,000円追加、農業集落排水事業、施設修繕並びに管路延長に伴う工事として565万円追加、4、予備費を40万円追加しまして、歳出合計、補正前の額に617万3,000円を追加し、1億5,017万3,000円とするものでございます。

以上、説明を終わります。

-----○-----

日程第20 議案第49号 令和3年度山江村特別会計介護保険事業補正予算（第1号）

○議長（中竹耕一郎君） 次に、日程第20、議案第49号、令和3年度山江村特別会計介護保険事業補正予算（第1号）を議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第49号についてご説明申し上げます。令和3年度山江村特別会計介護保険事業補正予算（第1号）でございます。令和3年度山江村の特別会計介護保険事業補正予算（第1号）は、次に定めるところによるというものでございます。

歳入歳出予算の補正でございますが、第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ4,637万1,000円を追加をいたしまして、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4億7,837万1,000円とするものでございます。

2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表、歳入歳出予算補正」によるものでございます。本日提出でございます。

内容につきましては、健康福祉課長が説明をいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、議案第49号につきまして説明いたします。

1ページをご覧ください。第1表、歳入歳出予算補正、歳入につきまして説明いたします。款8、繰越金、前年度繰越金確定に伴う繰越額4,345万6,000円を追加するものでございます。款9、諸収入、前年度給付費実績によります国及び県負担金等の追加交付でありまして、291万5,000円を増額するものでございます。歳入合計、補正前の額に4,637万1,000円を増額しまして、4億7,837万1,000円とするものでございます。

次に、2ページをご覧ください。歳出、主なものにつきまして説明いたします。款5、支出金につきましては、前年度の地域支援事業の確定によります国・県社会保険診療報酬支払基金への返還金及び給付費、事務費等の確定によります一般会計への操出金、合わせまして643万8,000円増額するものでございます。款8、予備費3,987万2,000円を通過するものでございます。歳出合計、補正前の額に4,637万1,000円を増額しまして、4億7,837万1,000円とするものでございます。

以上、説明を終わります。

-----○-----

日程第21 議案第50号 令和3年度山江村特別会計後期高齢者医療事業補正予算（第1号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第21、議案第50号、令和3年度山江村特別会計後期

高齢者医療事業補正予算（第1号）を議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第50号についてご説明を申し上げます。令和3年度山江村特別会計後期高齢者医療事業補正予算（第1号）でございます。令和3年山江村の特別会計後期高齢者医療事業補正予算（第1号）は、次に定めるところによるとするものでございます。

歳入歳出予算の補正でございます。第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ105万3,000円を追加をいたしまして、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4,085万3,000円とするものでございます。

2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表、歳入歳出予算補正」によるものでございます。本日提出でございます。

内容につきましては、健康福祉課長が説明をいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、議案第50号につきましてご説明いたします。

1ページをご覧ください。第1表、歳入歳出予算補正、歳入につきまして説明いたします。款4、繰越金、前年度決算額確定に伴う繰越額105万3,000円を追加するものでございます。歳入合計、補正前の額105万3,000円を増額しまして、4,085万3,000円とするものでございます。

2ページをご覧ください。歳出につきまして説明いたします。款4、予備費105万3,000円を追加するものでございます。歳出合計、補正前の額105万3,000円を増額しまして、4,085万3,000円とするものでございます。

以上、説明を終わります。

-----○-----

日程第22 議案第51号 令和3年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業補正予算（第1号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第22、議案第51号、令和3年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業補正予算（第1号）を議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第51号についてご説明を申し上げます。令和3年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業補正予算（第1号）でございます。令和3年度山江村の特別会計ケーブルテレビ事業補正予算（第1号）は、次に定めるところによるものとするものでございます。

歳入歳出予算の補正でございますけれども、第1条、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,424万1,000円を追加をいたしまして、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ7,124万1,000円とするものでございます。

2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表、歳入歳出予算補正」によるものでございます。本日提出でございます。

内容につきましては、企画調整課長が説明いたします。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、議案第51号について説明をいたします。

1ページをお願いいたします。第1表、歳入歳出予算補正でございます。歳入でございますが、主なもののみ説明をいたします。款3、繰入金1,760万円を追加するものでありまして、坂本人吉線災害復旧事業によります施設変更等に伴う一般会計からの繰入金であります。款4、繰越金664万1,000円を追加するものでありまして、前年度の繰越金の確定によるものでございます。歳入合計、補正前の額に2,424万1,000円を追加しまして、7,124万1,000円とするものでございます。

2ページをお願いいたします。歳出でございますが、款2、ケーブルテレビ事業費1,466万5,000円を追加するものでありまして、番組自動送出設備更新委託料及び県道坂本人吉線災害復旧事業、設備変更委託料等の追加でございます。款3、災害復旧費420万円を追加するものでありまして、村道岩ヶ野下払線の災害に伴うケーブル配線施設の復旧委託料の追加であります。款4、予備費を537万6,000円追加しまして、歳出合計、補正前の額に2,424万1,000円を追加しまして、7,124万2,000円とするものでございます。

以上でございます。

-----○-----

日程第23 議員派遣の件

○議長（中竹耕一郎君） 次に、日程第23、議員派遣の件を議題といたします。

会議規則第126条の規定により、手元に配付しております内容で議員を派遣するものです。

これで、提案理由の説明は終わりました。

また、6月議会定例会以降、熊本県商工団体連合会より陳情書が1件提出され、議会へ届いております。この件については、事前にそれぞれ議員各位へ資料を配付しております。内容をご確認いただきますようお願いを申し上げます。

以上で、本日の日程は終了いたしましたので、散会といたします。ありがとうございました。

ございました。

-----○-----

散会 午前11時33分

第 2 号

9 月 1 3 日 (月)

令和3年第7回山江村議会9月定例会（第2号）

令和3年9月13日

午前10時00分開議

於 議 場

1. 議事日程

日程第1 一般質問

2. 出席議員は次のとおりである。（10名）

1番 本 田 り か さん	2番 久保山 直 巳 君
3番 中 村 龍 喜 君	4番 赤 坂 修 君
5番 森 田 俊 介 君	6番 横 谷 巡 君
7番 立 道 徹 君	8番 西 孝 恒 君
9番 中 竹 耕一郎 君	10番 秋 丸 安 弘 君

3. 欠席議員は次のとおりである。（0名）

4. 職務のため会議に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 山 口 明 君

5. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村 長	内 山 慶 治 君	副 村 長	北 田 愛 介 君
教 育 長	藤 本 誠 一 君	総 務 課 長	白 川 俊 博 君
税 務 課 長	平 山 辰 也 君	企 画 調 整 課 長	新 山 孝 博 君
産 業 振 興 課 長	松 尾 充 章 君	健 康 福 祉 課 長	迫 田 教 文 君
建 設 課 長	清 永 弘 文 君	教 育 課 長	蕨 野 昭 憲 君
会 計 管 理 者	一 二 三 信 幸 君		

開議 午前10時00分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君） おはようございます。ただいまから会議を開きます。

本日の出席議員は10名で、定足数に達しております。

-----○-----

日程第1 一般質問

○議長（中竹耕一郎君） 本日は、会期日程日時第7、一般質問となっております。

本日は傍聴の方もいらしています。大変お世話になります。

お手元に配付しておりますとおり、本日6名の議員から一般質問の通告がなされております。通告の順に従いまして、許します。

なお、会議規則による発言時間は、質問・答弁合わせまして60分といたしますが、質問される議員におかれましては、通告の内容に沿った適切な質問をしていただきますよう要望をいたします。一方、執行部におかれましても、簡潔にわかりやすく答弁いただきますようよろしくお願いをいたします。

それでは、はじめに3番、中村龍喜議員より、1、農業行政についての通告が出ております。

中村龍喜議員の質問を許します。3番、中村龍喜君。

中村龍喜君の一般質問

○3番（中村龍喜君） それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告に従い、3番、中村から一般質問を行います。

まずはじめに、農業行政の中で、本村の農業後継者、担い手の育成対策について、どのような考えを持っておられるのかを質問いたします。よろしくお願いいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、中村議員の質問にお答えをいたします。

今、質問された内容につきましては、以前も別の議員の方から質問がっておりますので、答弁内容が重複するかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

まず、農業の現状といたしまして、昨年に実施されました農林業センサスの速報値が熊本県のホームページに掲載されております。その数値から、本村の農業の現状について、まずはご説明したいと思います。

本村の農家戸数は、239戸となっております。前回の調査より14戸減少をしているということでございます。専業農家、兼業農家数はまだ公表されていません

けれども、前回の調査でも専業農家数は約26%となっておりましたので、今回も変わらないか、やや減少しているのではないかとこのように思っております。

経営主の状況では、先ほど言いました239戸のうち、64歳以下が86戸、36%、65歳以上が153戸、64%となっております。また、この239戸の経営主への質問で、「後継者を確保しているか」という項目がありますが、「後継者を確保している」と回答された方が45戸、19%、「確保していない」170戸、71%、「経営を引き継がない」「もう農業を辞める」と回答された方が24戸、約10%という調査結果となっております。また、後継者を確保されている方でも、親族と回答をされている方がほとんどでございまして、二世帯等々ですね、二世帯等で同居されている方が後を引き継がれる方がほとんどじゃないかというような結果が出ております。

一方、農地の貸し借りの状況につきましても、耕作ができなくなり、農地を貸される方も高齢となって、なかなかもうできないから農地を貸したいという方も高齢者、最近では農地を借りて耕作をする、いわゆる担い手のほうもですね、高齢者という案件が多くなってきておまして、担い手が元気なうちは耕作されると思いますが、その担い手も高齢を理由に耕作できなくなると、「来年ぐらいからもうできなくなるから返したい」というような相談もですね、産業振興課、農業委員会のほうに幾つか寄せられているということでございます。

そのようなことが生じるとですね、また新たな方に農地を貸さなければならないということで、新たな担い手を確保しなければならないというようなこともですね、懸念されているというところでございます。

少子高齢化が進む中で、後継者、担い手の確保対策は、農林業が基幹産業である本村はもとより、多くの農村自治体ではですね、長年の懸案事項であります。様々な対策を講じてはいますが、なかなか効果が現れないのが現状です。しかしながら、本村では若い方の新規就農も出始めておりますし、就農の相談も複数寄せられております。また、若手農業者グループの活動もですね、活発でケーブルテレビ等でも活動の状況が紹介されておりますし、そういった明るい兆しがあるのも事実でございます。農地の集積化、営農組織法人化の対策も一つとして考えられますし、他の自治体でも導入されております外部人材の活用、移住・定住施策と併せた就農の斡旋など、人手不足の解消策としてはですね、考えられているというところでございます。

また、就農支援といたしましては、認定農業者に対しまして、農地流動化の助成、規模拡大のための機械導入、施設整備などの助成制度がありますので、効果的に活用をしていくながら、貢献者対策を推進していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 中村龍喜君。

○3番（中村龍喜君） 今、課長が説明いただきましたけれども、この件につきましてはですね、令和元年の6月の、それこそ私が初めて一般質問をしたときの内容とほぼ同様なことでございますけれども、本村に限らず他の市町村においてもですね、農業をする人が少なくなっておるといようなことです。高齢化が一つの大きな問題だとは思いますが。そうして耕作者が少なくなりますと、農地は荒廃していくばかりで、なかなか後継者の問題というのも、先ほど課長が申されましたように、いろんな施策はされておられますけれども、これといった根本的な問題解決にはなっていないというふうにも思います。

ただ、やはり山江村におきましては、農林業というか大変重要な産業でございますので、難しい中ではございますが、後継者の問題、担い手の育成については、今後とも行政のほうでもしっかりと頑張ってもらいたいというふうに思います。

今、私も農業をちょっとやっておりますけれども、「田んぼを貸してくれ」というふうな時代じゃないと。「買ってくれ」というふうな時代、買ってくれもよくよくすれば、「もう、買うてくれ」といような話が出ております。これからも、本当に限られた農地ではございますけれども、しっかりと行政のほうでも指導をしていただきながら、後継者並びに担い手の育成については頑張ってもらいたいというふうに思います。この農業後継者、担い手の育成の対策については、以上で質問を終わります。

次に、有害鳥獣被害の状況と電気柵の共同利用の維持管理についてということで質問をしておりますけれども、収穫の秋を迎えていますが、栗をはじめとして農作物への被害が多くなっているように思います。今までも、鳥獣害被害についてはほかの議員さん方からも質問がっておりますが、間近に控えた稲刈り等が水田の電気柵の共同利用の中で、畦畔の草刈りが行われず、漏電により効果がなくなり、田んぼの中にイノシシ等が入って、被害を被っているといようなことでございます。

これは、農家の方から「本当、何とかならんだろうか」といようなことでございます。田んぼの草刈り等については、個々の問題だといふうには思っておりますけれども、やはり共同ということであれば、補助等の支出もなされているんじゃないかなというふうに思います。なかなか、隣の人に「お前んげんとは、草の茂とって刈ってくれ」といのは言いにくいといようなことも聞きますので、できることであれば行政のほうからも、そのような指導をしていただければというふうに思って質問をしているところでございます。よろしく願いいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、中村議員の質問にお答えをいたします。

まず、有害鳥獣の被害状況ということでございますけれども、昨年度の山江村のですね、有害鳥獣捕獲頭数をまずは述べさせていただきます。ニホンジカ737頭、イノシシ251頭、ニホンザル12頭、アナグマ80頭、カラス7羽、総数が1,087となっております。これは、令和元年度と比較してみますと、190頭ほど減少をしております。これは、生息数が減少したというのではなく、昨年7月豪雨によりまして林道や作業道などが被災し、狩猟活動区域が制限されたものだと課のほうでは考えておりますので、むしろ生息数におきましては、増えているのではないかとこのように推測をしております。

お尋ねの被害状況等につきましてははですね、令和2年度で被害面積が3.1ヘクタール、被害額が109万円となっております。この数値は、あくまでも農家の方から役場に寄せられた申請によるものでございまして、家の栗とかですね、今収穫を迎えておりますけれども、獣害に食べられたとか枝が折られたとかですね、議員が申されました水田等が獣害によってちょっとやられたというようなお話をそれぞれの生産者等々でお話をされている分は含まれておりませんので、農作物の被害額につきましては、今申しました109万円の数倍程度はあるのではないかとこのように考えております。

議員がお尋ねのですね、防護柵等につきましては、防護ネット、ワイヤーメッシュ柵、電気柵等の設置をされております。議員が申されましたとおり、国の補助をですね、活用して事業を進めておりまして、対象が3戸以上の農家の方の申請となっております。ただし、隣地にですね、ない場合は、1戸からでの申請も受け付けておりますけれども、概ね3戸以上ということで役場のほうは受け付けをさせていただいております。

また、共同利用でございまして、1戸の方がですね、畦畔等の草払い等々を丁寧になさっておられても、「うちはよかたい」とか、「うちは、もうちょっと作らんでよかたい」ということで除草作業等をされない場合は、議員が申されましたとおり、漏電等がありまして、せっかくの獣害のですね、防護にならずにそこから侵入して、ほかの方の樹園地や水田にも被害を被ることがございますので、せっかくの補助事業で整備した施設でもございますので、除草作業等、適切な管理をお願いしたいというところでございます。

議員からお尋ねがありました件につきましては、せっかくの収穫の時期を迎えておりますので、広報誌やですね、またケーブルテレビ等でも呼びかけを行っていきたいというふうに考えておりますので、生産者の方のご理解もよろしくお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

○議長（中竹耕一郎君） 中村龍喜君。

○3番（中村龍喜君） 今、松尾産業振興課長から言われたとおりですね、大体の状況もわかりました。しかしながら、やはりせっかく今まで生産してきた中で、この収穫の秋を迎えてですね、被害に遭うというのは農家の人にとっても大変頭の痛いところだというふうに思います。

この一つ、共同利用の中においてはですね、先ほども言いましたけれども、畦畔等の草刈り等については、個々の問題だというふうには思っておりますけれども、課長が言われましたように、広報等なり、そういう面ですね、よくよく連絡を取り合っただけ収穫がスムーズに、またよくできるようにお願いしたいというふうに思います。今後の産業振興課の一生懸命の努力に対して敬意を払いますとともに、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしく願いしまして、私の質問は終わります。

○議長（中竹耕一郎君） 次に、8番西孝恒議員より、1、マイナンバーカードの普及促進について、2、行政のデジタル化推進についての質問が出ております。

西孝恒議員の質問を許します。8番、西孝恒君。

西 孝恒君の一般質問

○8番（西 孝恒君） 8番議員、西です。議長より質問の許可をいただきましたので、通告に従いまして、一般質問をいたします。よろしく申し上げます。

本日の質問内容は、ただいま議長からありましたように、マイナンバーカードの普及促進について、2、行政のデジタル推進についての2点であります。

まず、マイナンバーカードの普及促進についてであります。マイナンバーカードの通知が届きましたのは、平成27年10月頃かと思いますが、翌年、平成28年1月からこの制度が始まったようです。当初から、マイナンバーカードの申請ができるように申請書も入っていましたが、まだ何となく安全性や信頼性、そしてセキュリティの対策など、プライバシーの保護も必要で、面倒なものできた、始まったという印象でしたから、マイナンバーカードの申請はそのうちにと考えていたところでした。

それから、5、6年くらいたちますが、私とそのカードを申請しようと思いたしたのは、健康福祉課より村内の放送で、マイナンバーカードの申請をされてカード受け取りに関するお知らせやはがきが届いた人に対するカード受け取りの対応を役場にて、平日はもちろんですが、日曜日でも第4日曜日に行っているという放送を聞きまして、担当課ではマイナンバーカードの普及率を上げるためにも、また村民の

皆さんへの業務サービスとしても、さりげない努力を続けられていることに気づきまして、ならば私もとようやくカード申請を出しまして、それから1カ月ぐらいしてから、先月、カード受け取りに関するお知らせが届いているところです。

その頃、カードの普及率について担当課へ伺ったのですが、30%ぐらいということだったようです。それで、この際、マイナンバーカードの必要性、安全性、利便性について話していただき、改めて村民の皆様の普及啓発になりましたらということで質問いたしますが、まずは通告しています1番目のマイナンバーカードの現時点の普及率を含めて、交付状況やセキュリティ安全性等について伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） まず、私のほうからお答えをさせていただきます。

マイナンバーカードは、全国的にですね、普及促進をしている国の政策であります。従いまして、その事務を役場が担っているというようなことでありますし、役場が主体となっいろいろな政策を打ちながらをやっているわけではありません。従いまして、国のいろいろなセキュリティや活用についてですね、その指示に従って、仕様に従って別に進めていくということをもまず申し上げておきます。

内容につきましては、健康福祉課長がお答えします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

マイナンバー制度は、行政の効率化、国民の利便性向上、公平公正な社会を実現するための社会基盤として導入され、国内で住民票を有する全ての個人に12桁の個人番号が割り振られました。

本村のマイナンバーカード交付状況につきましては、マイナンバーカードを総括している地方公共団体情報システム機構が集計している通知によりますと、直近の令和3年7月末の累計保護交付枚数は1,236枚、交付率35.9%となっております。増減を比較しますと、令和元年度末の交付枚数563枚、交付率16%、令和2年度末の交付枚数948枚、交付率27.5%で、毎月の交付率も着実にアップしていると考えており、県内でも10位の位置にあります。

マイナンバーカードには、所得情報や資産情報などのプライバシー性の高い個人情報記録されてないほか、無理に利用しても暗証番号を一定回数誤るとロックがかかり、不正に情報を呼び出そうとするICチップが壊れるようになっているなど、偽造防止のため、様々なセキュリティ対策が施されており、暗証番号が知られない限り悪用は難しいと考えております。また、マイナンバーカードは発行日から申請者の10回目の誕生日、マイナンバーカード発行時に20歳未満の方は5回目の誕生日で有効期限を迎えます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 西孝恒君。

○8番（西 孝恒君） 村長からもありましたように、全国的な取り組みということでですね、熊日新聞にもですね、ちょっと先日の新聞でしたか、一面、半紙ですね、が全部マイナンバーカードのことで、全国的にですね、進めているということが載っておりました。

今、ご答弁のように、交付率も上がっているということですね。安全性、セキュリティ対策については、万全というところのようですね。マイナンバーカードは、今後、政府のデジタル推進の中心に位置づけられて、普及率のアップと行政のデジタル化推進の同時進行で、カードの利便性もアップにつながるようであります。

そこで、本村におけるマイナンバーカードの利用によって、現時点で受けられる行政サービスや利便性についてありましたらお願いします。

続けて、次の質問ですが、今後ですね、本村独自の取り組みや住民サービス提供など、マイナンバーカードの新たな利活用のお考えがありましたらということで、この2点は類似していますので、続けてお願いします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

マイナンバーカードは公的な身分証明書として活用できるカードでございます。村民の方にとっては、行政での手続きにおきまして、添付が必要とされる住民票や課税証明などの書類が省略できることが挙げられます。また、行政側においては、各行政機関の間で情報が連携されることにより、情報の照合等要する時間や労力の削減など事務の効率化が図られるとともに、不正受給の防止など公平・公正な行政事務が実施できることとなります。

本村では、窓口で本人確認書類として提示してもらっております。オンライン申請を行うためには、オンラインシステムを導入する必要があることから、マイナンバーカードを利用した行政サービスの提供は今のところ行っておりません。今後、国の動向を注視し、国の方針、デジタル化に合わせて、制度の効果や影響などを調査し、セキュリティ対策の強化も含め、効率的な活用を検討してまいりたいと思います。

続きまして、本村独自の新たな住民サービスの提供とマイナンバーカードの利活用についてでございます。マイナンバーカードには、ICチップが搭載されており、その空き領域を利用することで、例えばポイントカードや印鑑登録書としてなどいろいろなマイナンバーカードの方法が考えられます。マイナンバーカードを独自に活用するには、提供するサービスに合わせてハードウェアの調達やソフトウェアの

開発等、新たにシステムを構築する必要があり、それにかかる経費が必要となります。

運用にあたっては、地方公共団体情報システム機構が提供するカードアプリケーション搭載システムを無償で利用できますが、その一方で村独自のサービスに伴うシステム維持に係る様々な維持管理費、費用が発生する見込みでございます。また、マイナンバーカードに搭載された電子証明書を利用して、コンビニで住民票や戸籍謄本等を取得できるサービスがありますが、試算ではランニングコストが収入額を上回る結果となっております。

申しあげましたように、マイナンバーカードを使った独自サービスを村単独で実施する場合、システムの構築や維持に伴う費用が多額となりますので、現時点では費用対効果が低く、本村での導入は難しいのではないかと考えているところでございます。

しかし、先進の事例や費用対効果等を研究、検討してまいりたいと考えております。また、行政手続きの中には、より適したサービスを提供できるよう申請時に細かい聞き取りを行うなど、オンライン上の申請のみで完結しない手続きや本人以外の代理人である手続き等、一人一人に応じたきめ細やかな対応が必要であり、オンライン申請を行うには課題が残されているものもでございます。

今後、国の制度に対して、こういった形で取り組みができるのか、サービスの構築が必要な場合、その費用対効果など財政措置等も検討しながら取り組みを検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 西孝恒君。

○8番（西 孝恒君） 現時点ではですね、今ご答弁いただきましたが、写真付きの身分証明書が必要なときにですね、運転免許証がない人にはですね、非常に有効かと思えます。今後の利活用についてはですね、全国では各自治体のですね、マイナンバーカードの普及、利活用に係る積極的取り組み事例もこちらにあるようですので、伺いましたが、本村ではマイナンバーカード使用による利便性への取り組みについては、今のところ予定はないようですけれども、課長、お話のように、人口数などから使用頻度も少なく、そのための費用対効果もとても合わない状況であるということも理解できます。

最後に、さらなるカード普及率向上に向けて、各自治体は集まりでございますので、これまで担当課による日曜日の対応もですね、その一貫と思えますが、行政サービスなど取り組みがありましたらお願いします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

令和2年3月から月1回、日曜日に、マイナンバーカードの交付申請サポートを実施しており、毎月20枚程度を交付しています。ご本人による手続きが難しい高齢者の方については、申請のサポートを窓口で受け付けており、少しでも村民の方の負担軽減に努めながら、カードの取得促進を図っていきたいと考えております。今度も、休日交付や申請サポートを継続しながら、国や自治体での取り組みについて研究し、その中から本村に合った住民サービスの活用を検討していくとともに、引き続きマイナンバーカードの普及に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 西孝恒君。

○8番（西 孝恒君） 毎月ですね、20枚程度ですね、交付しているということで、思っていたより多いなと思います。担当課の努力であると思います。

マイナンバー制度は、次の質問のですね、行政のデジタル化推進とも非常に関連があるわけですが、そのような状況が整いますと、全国的、また都市部ではですね、いつでもどこでも各証明書の取得など、コンビニ交付サービスが大変利用しやすくなって、マイナンバーカードの便利さを実感できると、中央では言われていますが、今のところ、本村では課長よりありましたように、確かに使用頻度も少なく、利活用サービスのその対策の費用がかかりまして、厳しいところではあります。そのような中でも、できる範囲でのサービスに努められることは感じました。

例えば、日曜日の対応とかは、これはもう本当の献身的サービスだろうと思います。そのようにして、マイナンバーカードの普及率がアップしていきますと、今後の行政のデジタル化推進にも弾みがつくと思います。以上で、マイナンバーカードの普及促進についての質問を終わります。

次に、行政デジタル化推進についてであります。これは、最初の質問と関連していますが、それはマイナンバーカードや次の押印廃止についても、そのハード面として行政のデジタル化の推進が期待されているようです。デジタル化によって、行政運営の効率化や住民の利便性向上の効果が高まることが目的かと思いますが、最近、行政のデジタル化が政府からも急務と言われるほど推進されているようです。

デジタル化の改善が急がれるのは、新型コロナウイルス感染拡大を防止する一環としても期待されるようであります。デジタル化も範囲が広く、自治体の行政手続きのオンライン化やテレワークの推進、情報システムの標準化や共通化、セキュリティの徹底、そしてAIやRPAを活用した大幅な効率化、飛躍的なサービス向上などがあるようですね。本村においては、そのような様々な内容面について、デジタル化推進の現状について伺います。

この質問につきましては、各課において、それぞれ例規整備事業など含めて対応があるようではありますが、最も専門的な分野として企画課のほうからまとめてお願いしたいと思いますが、この質問を通告しましたその後のですね、今月2日の議会、全員協議会の折に、企画課長より頂きました資料「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業一覧」であります、その中にデジタル化推進事業についても各内容、説明してありましたので、多少状況はつかめました、その点含めまして今後のデジタル化の中間状況になるかと思いますが、概要などその範囲でお願いしたいと思います。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

国では9月1日デジタル庁が発足しました。誰一人取り残されないデジタル化社会の実現のため、民間のノウハウを活用しながら、遅れている行政オンラインにですね、取り組むことのようにございます。

まず、山江村のデジタル化の推進であります、議員お尋ねの内容から若干外れるかもしれませんが、山江村では山江村地域づくり研究所を軸として、デジタル機器を使った情報化の推進として、特にいち早くICTを活用した教育ICTへの取り組み、電子黒板、児童・生徒へのタブレット端末一人1台の整備、また各区にも情報化推進員へタブレットを貸与し、ICTの活用を行ってきております。また、タブレットを使った公民館事業への活用や、GIS、地理的情報システムといいますけども、を導入し、空き家の場所や農地情報などを地図上に落とすなどの活用をデジタル化として進めてきたところでございます。

さて、デジタル化を進める上で、マイナンバー制度の普及は欠かせないものであります。行政手続き等における特定の個人を識別するためであります、行政機関の情報連携により、各種の行政手続きにおける添付書類の省略などが可能となります。また、マイナンバーカードは、民間サービスでの本人の確認等にも利用できます。現在、マイナンバーカードの申請は役場窓口のほかに個人の携帯電話などからでも申請が可能となっております。

ご質問の新型コロナウイルス感染症の拡大の対応として、テレワークの推進のことではありますが、村でも職場の過密を防ぐため、昨年よりテレワークや分散業務を活用するテレワーク用のパソコン20台を整備し、実践を行っているところでございます。また、今までは会場まで足を運んで行われておりました国・県等の会議の説明会等では、最近はですね、ほぼオンライン会議を中心としており、タブレット端末やWeb会議用パソコン5台を整備しておりますけども、用いた会議形式というように変わってきている状況でございます。

セキュリティ対応について、現行のシステムにおきましては、随時対応しているところでございます。しかしながら、国が示す自治体情報システムの標準化、共通化や、国が設定した高いセキュリティ対策、マイナポータルと自治体の基幹システムのオンライン接続など、現時点ではまだまだ進んでいない状況でございます。今後、デジタル基盤改革を計画的に取り組んでいくことが重要であると思われま

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 西孝恒君。

○8番（西 孝恒君） 企画課長よりありましたように、今月からですね、デジタル庁が発足して改革推進へということになってきたようです。ご答弁のように、オンラインとかWeb会議とかセキュリティ、現在のところでのですね、本村でも早い対応がですね、なされるようであります。

次に、行政手続き文書において、押印廃止の取り組み状況についてですが、これは内閣府から昨年12月に地方公共団体における押印見直しマニュアルが出ているようでありまして、先ほどのコロナの感染拡大を防止するためにも、デジタル時代を見据えて、書面主義や押印原則、対面主義からの決別が課題のようではありますが、そのためのデジタル化の技術も整理される必要があると思いますので、政府の地方公共団体の押印廃止の勧めにはどのようにお考えかと、現在のところ、中間状況や方針がありましたら、お願いしたいと思います。

そして、続けてですが、次の最後の質問になっています。押印廃止の場合ですね、オンライン申請等の課題についてであります。これは、行政手続きのオンライン化にあたって本人確認であります。現時点ではまだそのようなデジタル化がもう少し整ってからかとも思いましたが、そのためのガイドラインなど課題をお考えでありましたらお願いします。

以上、2番目と3番目、これも類似していますので、続けてお願いします。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） このことについてもですね、お聞きしておりますと、山江村独自の動きがあるように聞こえますけれども、あくまでも国の動きに合わせながらですね、各市町村、その動きを、その業務を行っているところでもありますから、その付近のところはご理解の上、あとは企画調整課が詳しく答えます。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

国は、オンライン利用促進指針の中で、令和2年7月に地方公共団体における書面規制、押印、対面規制の見直しの取り組みを各自治体へ通知をしております。併せて、新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大の防止から行政サービスを効率

的に取り組むために、現在の行政手続き等を進めている事務の煩雑部分もわかりやすく義務化していくこととしております。

このことから、先ほど議員が質問されておりますけれども、本村におきましては、書面、押印、対面規制等の処理手続き等を見直しをして、オンライン化を実現するために条例、規則等の整備を行うよう、今月の今回の9月の議会のですね、補正へ予算化を提案しているところでございます。

続きまして、押印廃止の場合のオンライン申請等の課題はということでございますけれども、議員が申されますとおり、現段階ではまだデジタル化が整っておりませんので、行政手続きの簡素化が挙げられます。具体的に申し上げますと、オンラインの申告、申請が可能になることで、窓口に向いて申告書等をですね、記入する手間や窓口での待ち時間がなくなり、役場に行くこともなく、住民一人一人が自らライフスタイルに合わせて行政手続きができることが挙げられます。これにより、住民の利便性の向上や窓口の混雑解消につながっていくものと思われま

す。しかし、行政手続きの中には、より適したサービスを提供できるよう、申請時に細いを行うなどオンライン上の申請のみで完結しない手続きや、申請者が多くの本人が以外の代理人である手続き等、一人一人に応じたきめ細やかな対応が必要であり、オンライン申請を行った場合でもセキュリティやサーバダウン等の問題、高齢者が対応できない、また何らかの本人確認等は必要になってくるなど課題はあると思われま

す。まずは、役場内でどのような申請のですね、手続きについて押印廃止ができるか、各課横断的に仕分けをすることが重要であろうかと思ひます。また、システムの構築や移行、維持に伴い、先ほど健康福祉課長のほうも申し上げましたけれども、多額の費用がですね、必要となりますので、現時点では国の補助金等を活用しない場合は費用対効果が低く、小さな自治体では導入が難しいものではないかというふうに考えております。

今後、住民サービスの手続きの簡素化など、国の動向を勘案した上で、推進自治体とも事例等も研究しながら、国の補助金を活用するなど検討してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 西孝恒君。

○8番（西 孝恒君） 押印見直しでですね、オンライン化へ向けて行っていくということ、大変、企画課とされましてもですね、本当に今後、国の状況から見て難しい面もあるかと思ひます。これまでも押印は重要なことではありますが、デジタル化においてはネックの部分のようです。その押印廃止へ向けての取り組み状況、そして

オンライン、その申請等も課題など、デジタル化の整備へ向けての計画的な説明をいただきました。コロナ対応のためにも、また少子高齢化の進行で働き手不足の対応にも、デジタル化は急速に進んでいくようであります。

そういう中でも、本村は先ほど企画課長からもありましたように、ICT活用など先進地として、コロナ禍では特に技術が発揮されていますので、今後の行政のデジタル化についても、内容ある充実した対応がなされるのではと思います。

通告しました質問は以上ですので、これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中竹耕一郎君） では、お諮りします。ここで感染予防のための関係を含め、暫時休憩をしたいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。

-----○-----

休憩 午前10時46分

再開 午前10時50分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君） 休憩前に引き続き再開をいたします。

次に、6番、横谷巡議員より、新型コロナウイルス感染症対策について、2、村民の声から、通告が出ております。

横谷巡議員の質問を許します。6番、横谷巡君。

横谷 巡君の一般質問

○6番（横谷 巡君） 議長のお許しをいただきましたので、6番議員、横谷巡から、通告に従い、一般質問を行います。

本村の特産であります栗の収穫も始まり、色づき始めた稲穂の風景は初秋の匂いを感じさせる季節となりました。先が一向に見えない新型コロナウイルス感染拡大も、季節が変わるように、早く終息することを願うものであります。

通告しています質問事項は、1点目が新型コロナウイルス感染症対策について、2点目に村民の声からとして、5項目について質問をいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか止まらず、感染力の強いデルタ株により、若い世代、特に子どもたちへの感染が今増えてきております。そのような中、本村におきましては、県内唯一、小・中学校の夏休みを短縮、学校再開をされましたが、コロナ禍にあって独自の取り組みの判断はマスコミも注目し、テレビ取材が

あったところでございます。

そこで、教育長にお尋ねをいたします。夏休みを短縮されました意図、そして今増えつつあるコロナウイルス感染に伴う子どもたちを守るための学校現場における感染症予防対策についてお伺いをします。

○議長（中竹耕一郎君） 藤本教育長。

○教育長（藤本誠一君） それでは、お答えしたいと思います。

新型コロナウイルス感染症につきましては、先ほど議員が申されたとおりでございますけれども、昨年度の感染流行以来、文部科学省、それから熊本県教育委員会並びに山江村の感染防止対策指針の下ですね、子どもたちや教職員の感染防止に向けまして万全のですね、対策を取りながら子どもたちの学びを止めない取り組みを行っているところでございます。しかし、これまでに経験したことのないような爆発的な感染拡大の局面を迎えておりますし、教職員、児童・生徒の感染者数が全国的に増加しているというような状況でございます。

そんな中でございますけれども、本村では、地域の感染状況、それから学校の実情を踏まえながらでございますけれども、4月当初もですね、この計画の教育課程の計画に沿いまして、8月23日に2学期を開始したというところでございます。特に、そのコロナが感染してきたから始めたということではございませずに、当初の計画で感染状況をみながら、今のところ大丈夫だという判断を行いまして、学びを止めないという観点から、8月23日に開始をしたところでございます。

もちろん、毎日の検温、それからマスク着用、3密回避、換気などですね、そういうのを万全の感染対策を講じながら教育活動を行っていくこととしておりますけれども、今後、感染のさらなる拡大、あるいは感染者等が判明した場合などは、指針に沿いまして、休校措置、あるいは分散登校、あるいは本村の得意としますオンライン学習、いつでも準備ができておりますので、すぐに対応できます。そういうふう切り替えるなどの対応を行って、まずは子どもの命を守るということを最優先としながら、学びを止めない教育活動を行っていきたいと考えているところでございます。

また、他市町村よりも2学期を早く始めたということによりまして、今後の感染拡大によります一斉休校等の不測の事態にも、スムーズに対応ができるかなと思っております。いずれにしましても、子どもたちの学びをしっかりと保障していきたいというふうなところで取り組んでおるところでございます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 今、教育長から答弁いただきました。確かにですね、今年の夏

休み期間中には、子どもへの感染が拡大する傾向がありました。そして、8月には大雨等、長雨といますか、非常に雨が多うございました。そのようなことを考えると、このままいくと、一時的な休校もあり得るかなということも考えておりました。

しかし、夏休みの短縮ということの大きな理由が、子どもたちの学習時間の確保ということが一番の課題であるということから、その事前対応ですか、事前対応された授業時数を確保するということでの短縮はですね、これは評価すべき判断なんだと私は思います。なかなか、県内どこの町村も足並みをそろえる。本村だけがリーダーシップを取られて、このような夏休みを短縮された。今後のいろんな意味での事態が出てきたときに、きちんと学習の授業時間が保障されるということから、私は英断だというふうに思います。

今、子どもたちは長引くコロナ禍にあって、夏休み期間中も楽しみの野外活動ができませんでした。そして、学校行事等も制約をされて非常に、学びの場である学校生活にやはり影響が出てきているのかなとは感じます。そこで、ぜひですね、その中であって、子どもたちが元気に明るく楽しく充実した学校生活を送れるよう学校行事の工夫をしていただけたらというふうに思います。

それから、村民へ向けた新型コロナウイルス感染症防止対策については、対策協議会、あるいは特に保健師からの懸命な感染症予防対策についての啓発、呼びかけを聞くたびに、頭の下がる思いでおりました。しかし、村民を守るべく行政、役場職員からコロナ感染者が出たということは、本当に残念でなりません。このことについて、村長の見解を伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 白川総務課長。

○総務課長（白川俊博君） 県内の新型コロナウイルス感染者は、7月後半から感染拡大傾向が続きまして、熊本県が警戒レベル5に引き上げたのに合わせまして、本村もレベル5の厳戒警報に引き上げ、村内の施設の使用についても人吉球磨管内の在住者のみとしまして、感染が人吉球磨管内はもちろん、村内においても発生しないように警戒をしておりましたが、8月に入りまして、県内発生者が急激に発生をしまして、人吉球磨管内でも感染発生がみられるようになったところでございます。

国内のコロナ感染者は、東京などで爆発的に増加をし、いずれは都会から地方へと感染拡大が広まる恐れはることから、3密を避けた感染防止対策、不要不急の外出、会食の感染リスクを下げる四つのステップなど、感染リスクを避ける行動を心がけるよう、常日頃から役場職員へは課長会等や部長会等で周知を行っていたところでございます。

そのような中、本村職員から新型コロナウイルス感染者が発生したことについて

は、現実と受け止めまして、その後の感染拡大防止に努めるため、保健所の指導の下、関係職員の検査、さらに役場庁舎内の消毒作業を徹底するため、2日間の役場閉庁としたところでございます。その間、村民の皆様方には、大変ご迷惑をおかけしたところでございます。

新型コロナウイルスによります感染症は、身近でも発生をし、感染拡大へと増加する可能性もございますので、今後も基本的な感染防止対策の徹底はもちろんのこと、感染防止に努めてまいりたいと思っておりますのでございます。

○議長（中竹耕一郎君） ここで一つ、議長のほうからお願いしたいと思えます。傍聴をされている方で、町村議会の傍聴規則の中に、帽子、外套等は着用しないでくださいということですが、よろしくお願ひしたいと思えます。

村長。

○村長（内山慶治君） 私のほうからお答えします。

これまで、1波、2波、3波、今5波であります。特にデルタ株、驚異的な感染拡大を招いたということでございました。何度か申しておりますとおり、東京で5,000人を超えるということは、1,200万人の5,000人ですから、人吉球磨では毎日4、50人の感染者が発症するというような計算になるわけで、非常に警戒感を強めているいろんな対策を打ってきたということでもあります。

インフルエンザ等対策本部会議と申しますが、実はコロナ本部会議ですけれども、度々開催しながら、どのような対策を打っていくかということを決めてきた。もう十数回ほど開催しておりますけれども、刻々と変わるコロナ感染状況に合わせて本部会議、これは課長会がほとんどであります。どういう呼びかけを村民の方にするかというようなことについても、健康福祉課のほうに指示をしてきたというようなことでもあります。

ただ、何とかですね、山江村、感染者は今2名でありますけれども、よく頑張っていたかきながら、協力いただきながら、ここまでたどり着いたということではありますが、ただ役場庁舎内から感染者を出したということには、私自信も非常に残念でならないということでありました。日頃から、その本部会議でも言っておりますし、課長会でも言っておりますし、それから朝会でも何度となくですね、3密の回避、そしてこれが一番大事だと言っていることは、「濃厚接触者に自分にならないようにしてください」と、「自分がまず感染しないようにしてください」と言っております。濃厚接触者というのは、密閉された場所で、2メートル以内にマスクを外して、15分以上過ごす、これは濃厚接触者の三つの要件でありますから、そういうふうにならないように過ごしてくれというようなことでありましたけれども、家でバーベキューをしながらということでありましたけれども、非常に残念な結果

です。

ただ、これは誰も感染し得る可能性はあるというようなことでありますし、本人も非常に反省をしているところでもあります。また、このウイルス対策本部会議においてもですね、人格否定になるような言動とか行動は慎むようにと申しております。

ただ、村民の皆さん方には、3日の夕方5時半頃、本人から連絡があつて、早急に対策本部会議をやりながら、また監督官庁が保健所ですから、保健所の指示を待ちながら、いわゆる協議をしながら進めてきたということでもあります。2日間閉庁しましたけれども、翌朝が役場全庁を消毒するというような作業に入りまして、また濃厚接触者はいなかったということでもありますけれども、接触者とみなされる人が30人いましたので、30人のPCR検査をしたと、翌々日にですね。全員陰性ということが判明し、業務を再開したということでありました。

ただ、非常に申し訳なかったのは、2日間業務を閉庁せざるを得なかった。感染症でありますから、ある意味では感染拡大を避けたというようなことでもありますけれども、その付近については村民の方々には、各種会議等でですね、私も話しておりますけれども、非常に申し訳なかった、また十分気をつけたいというようなことでもあります。ただ、この感染症対策、感染症という本当にデルタ株厄介でありまして、どこでどのように誰が感染するかわからないという状況の中ですね、またしっかり感染症対策を役場も含めてですね、村民の方々にもご協力をお願いしたいと思っております。

今90%以上、希望された方ですね、熊日に出ておりました76%は、全村民を対象として76%の方が済んでいるということですが、議会で申しました97%を超えているというのは、希望された方はもう97%を超えたということでもありますから、2回目接種もおいおい、その数字になっていくということでもあります。ただ、あと、ラムダ株というのが新株が出てきました。また、ミュー株というのが出てきました。ワクチン接種との関連がよくわかりませんが、引き続き十分注意が必要だというようなことでもありますので、感染予防対策には自ら、また村民の皆さん方にも引き続きよろしくご協力をお願いして、感染拡大を防いでいきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 村民に向けて感染防止に努力されているのにも関わらず、足元から感染者が出たということは、より一層、行政内部でもですね、気を引き締め、感染予防の意識を図っていただきたいというふうに思います。

コロナウイルス感染者が役場から出たということですが、これはもう、いつ誰がかかるとはわかりませんが、2日ほど役場を閉庁されました。このことについて、村民への周知方法はどうか伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 白川総務課長。

○総務課長（白川俊博君） それでは、まず大まかな経緯をご説明いたします。

8月4日午後5時頃、本人及び保健所からPCR検査にて陽性であったとの報告を受けまして、ただちに情報を共有するとともに、今後の対策を検討するために、山江村新型インフルエンザ等対策本部会議を開催しました。

翌日の8月5日は役場閉庁、村内施設は使用不可、単なる接触者となる関係部署の職員30名をPCR検査、検査結果が出るまで自宅待機としたところでございます。また、公表については、県発表後に企業・事業所の情報を公表することが多いということでしたが、本村は積極的に情報を早く伝えるべきとしまして、8月4日の午後10時、22時ですね、に職員の陽性者概要と役場閉庁を役場ホームページにして公表をしたところでございます。なお、その日は保健所の指導の下、役場庁舎内部の消毒も実施したところでございます。

翌日の8月5日にも、対策本部を開催しまして、PCR検査結果判明がまだなにと、庁舎の消毒を実施するため、明日の8月6日まで役場閉庁するとして内容を村長自らケーブルテレビに情報を伝えたところでございます。

ご質問の役場閉庁の周知についてでございますけれども、防災無線による広報も検討しましたが、職場の特定がなされまして、感染者の個人情報となるなど庁舎に来庁されない方へも情報が届き、混乱を招くことから、また人吉保健所からの指導もあっておりましたので、対策本部会議において、防災無線での広報はせず、役場ホームページ及びケーブルテレビにて周知としたところでございます。

来庁者については、役場玄関へ一時閉庁のお知らせとして看板を設置し、呼びかけをいたしましたところでございます。議員申されましたように、情報が届かない村民の方もおられますので、今後は緊急的に閉庁を行う場合は、個人情報等に配慮をした内容での防災無線による周知も検討してまいりたいと思っております。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 役場がですね、閉庁していて用件が済まされない方が結構おられたようです。役場に来て、初めて張り紙によって閉庁していたという方がおられたようです。このコロナウイルス感染症、これは医療災害ともいえる緊急措置なんですね、人吉保健所あたりはこういうコロナウイルス感染ですから、あまり広く広めたくない、やはり個人情報等もあるからなるべく避けるのが私は保健所の考えだ

と思いますが、私は役場は村民のためにあると思うんですよ、村民のためにあるべきと。それで、役場ホームページ、ケーブルテレビ等では、時間的にも見られる方、わからない方が相当数おられたと。

やはり、ここは私は、村長のトップダウン、村長の決断で保健所にあるけれども個人の特定情報には配慮しながら、こういうことで感染しましたから、役場を閉庁しますということで、理解をお願いしますということを言われたならば、村民皆さん納得されたと思います。例えば、万江の奥からわざわざ来られたけど、役場に来てびっくりされたと。半日かかるんですよ、やっぱし。役場に用事のある方は。そういう地域性もありますし、やはりこの防災無線の目的ということから、医療災害と緊急を要するというところから、今回はやはり多く開かれた役場としての義務を果たすために、村民へは周知すべき事案ではなかったかというふうに私は感じております。

それから、長きにわたるコロナ禍で、一人暮らし高齢者等の心の疲れによる健康状態や暮らしの状況が心配されます。現在における弱者の見守りの状況について伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

新型コロナウイルス感染症感染拡大により、見守り活動や公民館事業などの地域福祉活動やボランティア活動は、休止や延期等の活動自粛を余儀なくされ、閉じこもりによる高齢者の虚弱化の進行、社会的孤立、虐待等が深刻になり、最近では新たに、コロナ差別による社会問題も起こっているという状況です。

高齢者は、加齢による免疫力の低下や基礎疾患を併せ持つ場合が多いため、感染の際に重症化しやすいため、積極的に外出を自粛することは感染予防には有効といえますが、外出を控える期間が長くなりすぎることにより、運動機能の低下や認知能の低下から、心身機能全体が低下する生活不活発病を招く恐れが考えられ、また要介護状態になるリスクが増加してしまうなどのリスクも増加させます。そして、自宅から外出しない時間が増えることは、高齢者への見守りの目が行き届かないことにもつながります。

本村の介護申請につきましては、9月1日から8月31日までの新規認定者は、昨年と同じ時期、期間で比べますと、15件増えております。しかし、全体の数字からみますと、住民異動により認定者数は横ばいとなっております。また、包括支援センターへの支援件数も、昨年と比べますと増加しております。

そのような中、本村では山江村新型インフルエンザ等対策本部を開催し、新型コロナウイルス感染症対策等について協議を行い、また保健所の指導の下、感染対策

の徹底、3密を避ける、換気、手洗い、消毒、マスクを行い、状況をみながら、サロン活動及び公民館活動を行っております。事業の参加者からは、「みんなと会うと元気が出る」「元気になる」という声も聞いております。

また、これまで行ってきた介護予防事業等の効果が低下しないよう、今回、補正でも計上させていただいておりますが、コロナ禍において、引きこもり、運動機能の低下や認知機能の低下を予防するため、既に参加されている高齢者の事業参加費及び交通費の負担軽減と、新規に多くの方が介護予防事業に参加いただくため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、コロナ禍における介護予防事業等推進交付金事業を計上させていただいております。

コロナ禍にあっても、高齢者一人一人が健康で生きがいを持ち、高齢者が主体的に介護予防に取り組むことができるよう、感染対策を徹底し、状況を確認しながら介護予防を行ってまいります。今後も、日常生活の暮らしに健康不安等がないか、日常の見守りも重要であることから、民生委員や地域見守りネットワーク協力員の方々に協力いただきながら、また緊急通報装置貸与による安否確認等の見守りを行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 本当にですね、長引くこのコロナ禍で、やはり孤独、ストレス、暮らし、そして健康面が心配されます。見守りしていただくと、本当に弱者というのは安心され、本当にいろんなことを相談され、安心されるんですよ。ですから、平常時より一段ギアを上げて、足を運んで、見守り活動の取り組みをお願いしたいと思えます。

次の、今後の感染症拡大に対する防止対策については、総務課長、それから村長から答弁いただきましたので、この件については割愛させていただきます。

それから、次です。新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の商品券についてであります。この商品券については、全国の市町村にそれぞれコロナ対策の臨時交付金として配布をされておりますが、村内の高齢者等、一般的な人に聞くとですね、「そんなには、生活する上においての食料品とか直結するものが買えない」と、「限られたお店だからなかなか買えない」という意見を聞きます。

村内で発行するプレミアム券は、これは村の活性化、経済の活性化、企業の助成等もありますから、これは十分に存続して必要がありますけれども、人吉球磨の未来のあるべき姿、連携を考えたときに、今、村長が町村会長として、リーダーとして頑張っておられますけれども、たまには人吉球磨連携して、どこの町村でも使える商品券、山江でも球磨村でも人吉でも錦でも相良でもこれを使えたら、本当に今、

災害とコロナで経済が停滞しています、人吉球磨は。

その中で、こういったことをすることによって、広域的に連携が深まり、ありがたいというような雰囲気も出てくるし、これはしょっちゅうやったらいけませんけれど、1回でもいいから村長の音頭を取っていただいて、この人吉球磨を連携してこういう商品券、コロナウイルス対策臨時交付金を使ってされたらどうかなど。これはもう提案ですけどね、そういうことを考えます。そういう広域での商品券の発行について伺います。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、私の町村会長としての立場でのご質問でありますから、私のほうからお答えをさせていただきますけれども、コロナウイルス対策事業についてはですね、本当に様々なメニューが用意されて。ただ、私いつも言っておりますのは、三つに大体分けられると言っております。一つが感染予防対策、一つは暮らしを守る対策、そしてもう一つは社会経済活動を活性化する対策、この三つです。当然、国は国の立場で、例えば10万円の給付金を配られましたけれども、あの事業を含めて国の対策、そして県は県で宿泊の助成や飲食の助成をやって、今は止まっておりますけれども、やっておられますし、市町村はその国・県のいろいろな対策に当てはまらない課題をそれぞれの市町村が抱えておりますので、その課題についての対策を交付金をもらいながら、交付金を充てながらですね、事業をやっている、事業メニューを考えているということであります。

本村においても、コロナウイルス対策事業をどう進めるかというようなことで、本部会議で何回ともなく会議をしながら、いろんなメニューを、課題を、それぞれ出し合いながらですね、検討してきた。今回、出しております交付金事業はその事業の結果でありますし、村民の方々の課題解決、また何とかこのコロナ禍を乗り切るための事業として打ち出しておるということでもあります。

そういう中での、今回の商品券の話ですけども、課題を集める上ですとですね、例えば山江村の課題と人吉市の課題、当然違ってくるわけですね、これは、あさぎりとか錦も違いますし。というのは、商工業、商店をいっぱい持ったところと、山江村、そんな商店持っていないところの課題、違うわけでありますから、やり方が違ってくるということはおわかりいただきたいと思いますが、今回、配りました1万円の件はですね、暮らしの応援というよりも、社会経済活動を活性化させたいというような形で、村内の企業、交通、飲食も含めてですね、交通業、非常に苦しい立場の方、たくさんおられますので、そういう方々を村民の皆さん方みんなで応援しようというような商品券であります。

従いましてですね、暮らし応援券と違いまして、暮らし応援券とするならどこで

も使っていていいですよということになるわけですが、ただそれはそれでまた各町村やっておりますので、あながちそうやりますと、勢い、それをやってしまうとですね、山江村で消費されずに他町村で山江村のその交付金が使われてしまう、山江村でほとんど使われないということにもなりますし、その付近のことを非常に注意しながら商品券は計画した。商工業の苦しい方々をどう救うかということで、今回計画をしたということでもあります。

お尋ねの広域的な取り組みということではありますが、観光地域づくり協議会が手を挙げた飲食店に対して、その交付金事業をやるといようなことをやっております。また、その付近のことを見渡しながらですね、ただこれは全人吉球磨の住民に配るということではなくて、プレミアムの購入した人はどこでも手を挙げたところでいろんな買い物ができるというようなものでありましたが、そういうことも含めて必要とあればですね、今後ともそういう機会を捉えながら、暮らしの応援ですね、それから社会経済で苦しんでいる方々の応援もしていかなければいけないというふうに考えているところであります。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 今後、人吉球磨が一体となってですね、発展していくためにできれば検討をしていただければというふうに思います。

次に、ワクチン接種状況についてであります。この接種状況については、議会開会冒頭で、行政報告で村長も説明されておりますし、このワクチン接種状況については、割愛させていただきます。

非常に、ワクチン接種後ですね、副反応がひどい方もいらっしゃるし、どうにもない人もおられるようです。この副反応が大変ひどい場合の対応、かかりつけ医との連携、この点についてお伺いします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

副反応につきましては、接種部位の局所の副反応も、発熱や倦怠感、頭痛などの全身性の副反応も、高齢者より若年者のほうが少し頻度が高いことが報告されております。また、1回目より2回目のほうが、頻度が高いと報告されております。これらの症状の大部分は、接種後2日以内に回復するといわれております。

一般的に、ワクチン接種では、一時的な発熱や接種部位の腫れ、痛みなどの比較的よく起こる副反応以外に、アナフィラキシーショックなどの副反応による健康被害が生じることがあります。極めてまれなものではあるものの、予防接種と健康被害との関連が認定された場合に、迅速に対応するため、国では救済制度が設けられております。

現在、副反応についてのお問い合わせ等はあっておりませんが、各病院で対応されているかと考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 今、若年層への感染が増えていますが、本村における若年層へのワクチン接種の状況、それから都市部ではどうもワクチンの供給が十分でないような気がします。本村におけるワクチンの供給状況についてお尋ねをいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

接種券につきましては、60歳から64歳を第1弾、16歳から59歳を第2弾で、6月中に発送しております。また、12歳から15歳は保護者の同意が必要であり、慎重に接種を促すため、人吉医師会や小児科医の意見を元に、評議委員会、村内小・中学校を通じて、文書による案内を行いました。保護者の方が同意された場合においては、健康福祉課に申し出ていただき、質問等を受けながら保健師が対応を行い、接種券を発行しております。夏休み期間にできる限り接種していただくよう、近隣市町村や医療機関との調整も行いましたが、接種者が集中する医療機関では終了できないところもあります。

今後は、医療機関によっては接種が進み、申し込みがなければ終了しようとしているところもあります。本村では、ワクチン供給についての要望に係る人数を把握するため、8月20日をめどに、回覧、防災無線にて一旦申し込みを終了することを周知しております。しかし、期日が過ぎても申し込みはできますが、ワクチンの廃棄防止として、ワクチン定数に満たない場合は接種をお待たせしたり、希望する医療機関で受けられない場合が出てきます。また、小学6年生で12歳の誕生日以降でない接種ができない子どもさんにつきましては、希望される方については、接種できる体制を整えていく考えでございます。9月10日現在、64歳以下の申込者の1回目終了96.1%、2回目終了78.1%の進捗状況となっております。

続きまして、ワクチンの供給状況につきましては、人吉医師会との話し合いでは、9月末までに接種終了予定と聞いております。しかし、医療機関によっては、10月以降に終了するところもあります。ワクチンの供給状況につきましては、山江村としては十分なワクチン配分はあっておりますが、人吉市の医療機関に委託していることから、山江村のワクチンは人吉市が受け入れを行っております。よって、人吉市に配分されたワクチンを山江村も使用していることとなります。

全国で新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大を受け、都市部へ重点的に配分されており、国から届くワクチンの県内配分量が減少しました。山江村においては、

概ね終了に近づきつつありますが、人吉市が要望するワクチン量が分配されず、今後、必要量を分配されない場合、接種スピードが鈍化する恐れが考えられ、当初の予定から遅れることも予想されます。確認しましたところ、現在のところでは、在庫があるため、今回のワクチン供給状況に左右されることはないということで連絡を受けております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 今ですね、ワクチンの予防効果性、あんまり聞かないということから異なるワクチンの交差接種、それから3回目の接種が検討されているようです。そして、国産ワクチンが、今年度中、来年の3月までには国内生産のワクチンができるだろうと、接種が可能だろうというようなことがテレビ等と言われておりました。そういったことで、新たな情報がありましたときには、早めの情報提供をお願いしたいというふうに思います。

次に、2点目の村民の声からということでございます。このことにつきましては、議員活動の一環として、地区、地区を回らせていただきました。そのときに多くの意見をいただきましたが、その中から何点か伺ってまいります。

まず、村道の時間規制通行についてであります。下払、大平地区に通じる2本の村道、岩ヶ野下払線、西川内下払線は、一方が災害発生、一方が県の治山工事とどちらとも通行止めですが、この状況について伺います。

村長。

○村長（内山慶治君） 私、訂正を含めて先に答弁させていただきますけれども、先ほど役場職員の感染発生がわかったのは8月3日と言いましたが、総務課長のほうから8月4日ということでありました。8月4日が正確な情報でありますので、訂正させていただきます。

それから、議員おっしゃったワクチンがあまり効かないという話されましたけれども、厚労省発表ではですね、95%の効果が認められております。いわゆる13人に1人は感染リスクがあるということで、2回接種した人も感染しているというような状況でありますので、重症化を防ぐという意味、また申し込みされていない方もおられますので、ぜひたくさんの方がですね、申し込みしていただきながら接種していただきたいというのが、やっぱり何と言ってもですね、この感染症対策だと思っておりますので、よろしくお願いします。

それから、下払から通じる村道ですが、西川内へ通じる村道、それから岩ヶ野へ通じる村道、いわゆる下払地区は半孤立状態で、今、新屋のほうに回られながら生活しておられるということでございます。

このことについては、県のほうにもですね、球磨川流域の協議会の中においても、山江村の最重点課題だとして、県のほうに治山工事を急ぐようにということで、再三要望をしてきました。岩ヶ野下払線については、災害村道を直す前に治山工事をしないとですね、村道工事に移れないという状況でありますし、また西川内下払線におきましても、落石工事、治山工事がなかなか進まないというなことであります。西川内下払線については、発注をしながら、業者及び等々でですね、熊本県も発注者の等々で、説明会を開催しながら進めさせていただいているということですが、内容については建設課長のほうから答弁をさせたいと思います。

○議長（中竹耕一郎君） 清永建設課長。

○建設課長（清永弘文君） それでは、お答えいたします。

村道西川内下払線の落石が発生したのは、令和元年9月でございます。当時の調査の中で、山腹に引き続き落石の可能性のある石が確認されたため、現在まで長期にわたり通行止めを行い、地域の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

現在、熊本県の治山工事は始まっておりますが、これまでに2回の説明会を下払地区で開催しております。地元説明会の開催に向けて、事前に熊本県と打ち合わせを行った際に、工事期間の通行について、時間帯通行についても村から要望を行ってきたところですが、通行工事区間を通行しているときの安全が確保できないとの回答があったため、その旨を説明会の際にご説明しております。

6月に開催しました地元説明会では、地域の皆様から多数のご意見をいただきました。時間帯通行に関しても意見がございました。しかし、「工事には地域の協力も必要」という意見もあり、最終的には工事完了まで全面通行止めという対応にご理解いただいたと考えております。併せて、工事期間中迂回路となる村道下払椎谷線についても、安全対策や離合箇所の整備、支障木の伐採、緊急車両の通行の確認など要望がございましたので、7月までに完了をしたところでございます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 下払と大平地区の皆さんにとっては、本当に幹線道路が2本とも通れないということから非常に困っておられます。できればですね、この治山工事でも県と協議いただいて、安全確保をした上で、朝、昼、夕方ぐらい通れたらどうかなとも思いますが、県がどうしても工事の危険度から通行できないというならば仕方がありません。片方が工事が終わって、片方通すというような配慮も、地区住民にとっての生活道路ですから、検討すべきではなかったかなとは思っています。

ただ、迂回路が下払から椎谷越えの村道があります。これを今の状況からすると

通らなければなりません、まだまだ離合箇所、あるいは法面の危険なところには、ポールが10個ほど打ってありますけれども、ここにガードレールを設置するかしないと、女性の方、高齢者の方、障がい者を施設に送り迎え、非常に狭いところを通られますから、半年以上通行止めということでここを通られますから、しっかりと安全対策をお願いしたいというふうに思います。

それから、次にですね、地区からの要望対応であります。下城子地区から急傾斜地の崩壊対策事業の要望があり、要望のその日には、もう、「できません」との返答であったとお聞きしました。そのところのですね、経緯について伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 清永建設課長。

○建設課長（清永弘文君） それでは、お答えいたします。

令和2年度に、熊本県が土砂災害警戒区域の追加調査を行っております。調査の結果、下払地区につきましては、城山1、城山2が追加され、令和3年5月25日に告示がされております。

今回、相談箇所は城山2で民家の裏で発生しました崩土につきましては、令和2年5月に発生したものでございます。発生から約1年後の今年の6月に、地域の代表の方から熊本県の急傾斜地崩壊対策事業に要望したい旨の相談がございましたので、ご対応をしたところ、6月28日に陳情書の写しを預かりましたので、改めて熊本県に確認したところ、5月25日に告示した城山1、城山2の2カ所を合わせても、熊本県の対象事業戸数となる5戸に満たないという回答でありましたため、事業対象外となりました。

このことにより、当初提出予定でありました熊本県への提出ができなかったことから、陳情書の内容を改める必要があったため、その旨をお伝えしたところ、引き続き、地区の代表である区長からも相談がございましたので、7月9日と8月18日に、現地の状況確認と地域住民への聞き取り調査を行い、状況把握に努めたところでございます。

今後も、区長とともに地域に寄り添いながら、現状把握に努めたいと考えておりますので、地域の皆様のご協力をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） この地区はですね、宅地の裏側の土砂崩壊が発生しております。また、隣接する住家の周辺も、水が吹き出たりとか危険な箇所があり、本村の総合防災マップでは急傾斜地の警戒危険区域になっております。

確かに、今回の事業は県への要望事業であったと思いますが、その日にできないと返答されるのは、少し冷たいような気がいたします。もう少し時間をおいて、地

区住民にとっては切実な災害に対しての願いですから、村においても、時間をかけて検討をすべき案件ではなかったかなというふうに思います。今後、区長、地元と協議されて、いろんな対策をしていただければというふうに思います。

次に、防災無線による広報についてであります。長期にわたる合戦峰物産販売所の朝の市開催についての呼びかけ広報であります。このことについて、村民の声をお聞きになっておられますか。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

合戦峰物産販売所は、本村における地方創生の拠点事業として平成30年7月に落成、9月から開館、販売所を中心とした地域振興を図るため、地元第1区、合戦峰物産販売所管理組合と運営管理の業務委託を毎年結んで運営をしている施設でございます。

この合戦峰物産販売所は、合戦峰観音堂を核に、観光交流の増加により地域に元気と活性化を図るため、地元等の農作物販売による所得の向上を図るなど、地方創生拠点整備交付金を活用して整備したものでございます。合戦峰物産販売所につきましては、春秋の彼岸の時期に多くの参拝者が訪れる相良三十三観音めぐりの販売、現在は毎週日曜日午前9時から正午までをですね、日曜朝市として、農家直送の旬の野菜や季節のお花、それから工芸品など、地元で販売されております。

しかしながら、世界でですね、猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年からの感染予防のため、お彼岸での販売や朝市の中止を行っておられるなど、状況をみながら販売を行っておられます。このような状況ではございますが、昨年度の報告では、7月から12月までに店数等は約150人程度となっております。

防災無線を使った放送については、整備をした施設でございますので、村民の多くの方々に周知、お越しをいただくよう、物産販売所管理組合のほうからですね、依頼を受けまして、毎週開館日の前日の土曜日、それから当日の朝を防災無線を使って放送を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） この件で地区を回ると、本当に意見があります、これは。ぜひ聞いてほしいというふうに私は思います。

日曜日の朝とか特に夕方かな、企画調整課からという「またか」と。「何でここばかり延々と長期間にわたってされるんですか」と。あるいは、「どこの施設ですか」とかいろんな不信感を持っておられます。私は、周知することはいいこ

とだと思いますが、やはり周知の効果があれば、ある一定の区切りが必要ではないかと。これが防災無線のですね、この役割っていうのもちょっとあるんじゃないかなと思いますよ。

ですから、これは村民の声ですから、ここは本当、真剣に行政として考えてください。ですから、一定の効果があればもう区切りはしないと、本当に長々と長期間にわたって同じことを言ったら、やはり人というのは本当にいろいろな考えが出てきますので、ぜひ防災無線の目的、在り方について再考をお願いしたいと思います。

それから、村の行政回覧の在り方について伺います。民間業者の季節従業員募集のチラシが行政の回覧と一緒に回ってきました。時期的に、猫の手も借りたいほどの作業内容であり、地場産業の育成面から規制緩和された対応かなと思いましたが、この民間、誰でも役場に依頼すると行政サービスの一環として、今は回覧していただけるのか伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 白川総務課長。

○総務課長（白川俊博君） まず、今回の回覧のチラシについてご説明いたします。

今年の7月上旬に村内の民間業者からの依頼を受けまして、各区長様へ配布したものでございます。その民間業者は、本村の特産品など加工等を行う企業でもありまして、村内からも従業員を雇用している事業者でございます。また、回覧内容も、本当の特産品の栗の皮むき、季節限定の募集チラシで、季節的な一時雇用ということで、回覧を行ったところでございました。

しかし、依頼を受けたといえ、民間企業でもありますので、今後も相談等があった場合は、慎重に協議をし、検討して判断してまいりたいと思っております。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） この行政の回覧というのはですね、行政に関わる情報を広く村民に情報伝達をする手段なんです。それで、行政職員というのは官民公私、この区別ができないと大変なことになります。一業者だけして、また次きたとき、断ることはできませんよ、これは。やはり、私は組織の緩みじゃないかなと思います。担当課が、民間から配ってくださいと。

民間は、普通、新聞の折り込みの中にチラシをしてされていますよ、従業員募集とか、物品販売のチラシは。このところをよく行政の在り方として、職員としてもですね、この官民というのをしっかり区別しないと、今後大変なことが予想されます。

最初は、回覧が回ってきましたとき、地元だから、7区だけお願いされた回覧かなということで、頑張っておられるなという思いでしたけれども、あちこちからど

んどん連絡が来るわけですよ。「頑張って始めてみました」って、「今、頼めばうちもでくつかな」と言われますから、「いや、それはできませんよ」で。「このようなことは、行政はできません」と、この在り方から、そここのところですね、ぜひ考えて、今後は総務課長が言ったように考えていただきたいというふうに思います。

最後の交通安全対策については、次回に回します。

新型コロナウイルス感染拡大がなかなか収まらず、いつどこで感染してもおかしくないような状況です。一人一人が自分の命、健康は自分で守ると意識を持ち、感染予防に努めていくことが大切ではないでしょうか。また、村の発展につながる諸施策の展開や行政の推進にあたっては、村民、住民に寄り添った行政対応をお願いして、以上にて一般質問を終わります。

○議長（中竹耕一郎君） では、お諮りします。ここで暫時休憩をしたいと思います、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。

-----○-----

休憩 午前 11時50分

再開 午後 1時15分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君） では、休憩前に引き続き再開をいたします。

次に、5番、森田俊介議員より、1、特用林産物振興協議会の検証について、2、株式会社やまえ温泉と物産館、加工施設についての通告が出ております。

森田俊介議員の質問を許します。5番、森田俊介君。

○5番（森田俊介君） 議長のお許しがありましたので、通告に従いまして、令和3年9月定例議会一般質問を行います。

まず、特用林産物振興協議会の検証について。1、特用林産物振興協議会で行った竹林の有害鳥獣柵、鉄製の防護柵ですが、クロワラ地区の現状と管理について、2、今後の竹林整備とタケノコ生産や特用林産物の生産計画について、3、交付金によって加工品である山の幸、ご飯の友の商品化と販売拡大戦略についてにお伺いいたします。

山江村特用林産物振興協議会の事業の検証については、3年間の事業が終わりました。特用林産物振興協議会の取り組み事業について、検証すべき事項としてお伺いいたします。山の恵みで豊かになることを目標に、林業の活性化、所得の向上を目指して設立された協議会であります。山江村活性化支援交付金3,000万円を

活用して、特用林産物など新しい商品開発を目指し、1年間1,000万円ずつを3年間にかけて、特産物作りを行うことを目標にスタートされました。特用林産物振興協議会での商品開発にも取り組んでこられました。

その過程で、「山の幸たっぷりご飯の素」として炊き込みご飯、混ぜご飯の素を商品化し、販売業もやまえ堂に委託されているところでもあります。当初、1年目に現在の、原材料の素になるタケノコ生産に、メッシュ製の約1丁周りの竹林の整備として鉄製の有害鳥獣防護柵を設置されましたが、ここの竹林管理意欲の薄さ、また地元や林産する所有者の方々から、鉄製有害防護柵を見られ、「竹林よりも栗園に設置してもらったほうがよい」という意見もありました。「このようなものを竹林に設置して、議会は何をしてるんだ」と強いお叱りを受けたこともあります。

現在、竹林の現状は、手入れがされておらず荒れ放題、交付金であればタケノコ生産ができるように所有者が管理、整備するものだと考えます。この事業の途中において、会計検査院から事業の指導事項で、有害鳥獣柵のリースなどの事業継続に支障があるとの説明でもありました。

その後、事業の変更、見直し等は怎么样了のか。今後の有害鳥獣防護柵及び竹林の維持管理は協議会、村、所有者の誰がどのようにするのかをお尋ねをいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、森田議員のご質問にお答えいたします。

まず、村の特用林産物協議会で行いました事業について、簡単に概要を説明したいと思います。山江村特用林産物振興協議会の事業は、議員も申されましたとおり、国の山村活性化支援交付金を活用いたしまして、平成30年度から令和2年度までの3年で実施しております。事業の目的も、議員が申されましたけれども、特用林産物、タケノコ、シイタケ等を軸とした地域資源を有効に活用し、販路拡大及び新たな商品開発を行い、農林家の所得増大や山間地域の活性化を図るということになっております。

議員が申されました鉄製の鳥獣害の防護柵につきましては、平成30年度にどの場所に設置するかというのを協議会で検討をされまして、令和元年度に柵を設置をされております。この柵につきましては、会議の中で場所が幾つか設定されておりましたけれども、今回設置した場所が、一番タケノコ等も採れるんじゃないだろうかということで、協議会の中で検討され、令和元年度に設置をされております。

当然、圃場の整備はですね、土地所有者の方がするものというふうに思っております。令和2年度、昨年度は、タケノコの生産等も、収穫量も非常に多いということで報告を受けておりましたけれども、今年度は生育が、そこまでではなく全体的

にと聞きしておりますけれども、あまりよくなくですね、実証地での圃場でも、ほとんど収穫ができなかったというふうに聞いております。また、私も現場を度々訪れておりますけれども、議員が申されますように、村道沿いから見るとですね、ちょっと外から見ると、竹林等も倒れておまして、鉄製にもですね、ツル等が覆いかぶさっているという状況で、外から見るとちょっと整備がされてないのかなというふうに思いましたけれども、中のほうにちょっと入らせてもらいますと、一応木を切った後、竹林をですね、伐採した後も、今年されたのが去年されたのかはちょっと不明でしたけれども、整備されているような形跡も残っておりますので、今後におきましてもですね、せっかくの補助事業で整備をされた場所でございますので、先ほどの中村議員のご質問でもお答えしましたけれども、せっかくの鳥獣害の防護柵となっておりますので、所有者の方ですね、管理をしていただきますように指導のほうを行ってきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） 私が見る限りでは、ちょっとタケノコの収穫もできてないし、整備もできてないという感じがいたしました。

それから、炊き込みご飯、混ぜご飯の友の商品化に伴い、原材料の生産現場の育成状況について、2、商品化において、林業の活性化と所得の向上現況について、商品化の継続した販売戦略についてお尋ねします。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、お答えをいたします。

まず、今後のですね、タケノコをはじめとする特用林産物の生産計画についてでございます。竹林の整備は先ほど申しましたとおり、所有者の方に適正な管理をお願いしていただくということにしておりますけれども、今回の特用林産物につきましては、タケノコばかりではなくてですね、季節の山江村の特産物、タケノコをはじめとしてシイタケや梅干し、乾燥ワラビ、ゆずごしょう、野菜、米、栗、ニオイヒバ、ちょっと林産物とは外れていきますけれども、そういったものをですね、都市部へ発送する取り組みを行っております。「四季の山江便」として発送をいたしておりますし、実際に展示会等にですね、出展をして実演販売も行っておりますし、都市部ではモニターということで、都市部の方に実際に食べていただいて、アンケートも取ったということでございます。

令和2年7月、昨年の豪雨災害やコロナウイルス感染症でですね、影響などもありますけれども、特産品発送に意欲のある店舗経営者もおられますので、展示のみならず、特用林産物の生産収穫量が増えていくような体制、支援策も検討していき

たいというふうを考えております。

また、支援交付金で作りました山の幸ご飯の素ということですが、商品名は「山の幸ごろごろ炊き込みご飯の素」と「春の恵みわらびの香る混ぜご飯の素」ということになっております。こちらのほうもですね、製造されております店舗で販売しているほか、山江郵便局でもですね、ゆうパックの商材としても採用されておまして、数十セット発送したというようなことも聞いております。

また、こちらのほうもですね、都市部向けの販売というふうに販売戦略を持っておりますので、本年2月に東京都で実施されましたマッチングの商談会、コロナウイルスの感染症の影響で村のほうからは行けなかったわけですが、東京の事業者のほうにお願いをしたわけですが、こちらのほうでマッチング商談会に参加させていただいたところ、70%を超える方がですね、商品をちょっと興味があるということで回答をいただいております。なかなか、コロナ禍におきまして、都市部への販路拡大、例えば催事等の提供、またスーパー等でのですね、実演販売等ができない中で、大変もどかしいところではございますけれども、地元企業をはじめ、物産館等のですね、販路を活用しながら、販路拡大に努めていきたいというふうに考えておりますし、状況が改善いたしますれば、また職員等ですね、一緒に出向いて都市部への販路拡大に努めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） 商品の加工に対しては、全商品、山江の産物ということで理解してよろございますでしょうか。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、お答えいたします。

原材料につきましては、この振興協議会でとれたということじゃないですけども、山江村産を活用しているというふうに聞いておりますので、特定の場所だけじゃなくて山江村で生産された方が商品に持ち込んでいらっしゃるというふうに聞いておりますので、間違いはないと思っております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） 全体的にですね、山江の生産を使われるということで、大変喜ばしいことですが、まず最後にですね、この商品の販売業は、始めは物産館の予定だったのだろうと聞いておりますが、なぜ、やまえ堂に委託されたのか、その経過と協議会との業務委託の契約内容についてお尋ねいたします。

村長。

○村長（内山慶治君） 山村活性化支援交付金事業についてお尋ねであります。

委託業務内容等の具体的な事務手続きはですね、後ほど課長がお答えしますが、先ほど、栗の話も出ましたし、ちょっとその付近のところ、誤解なきようですね、私のほうから山村活性化支援交付金事業について、ご説明をさせていただきたいと思えます。

この事業は、山村振興の指定された町村が手を挙げて申請する事業であります。球磨郡で言いますれば、錦町と湯前町は山村に指定されておりませんので、残り7町村が手を挙げている。のうち、今事業やっているのは6町村で事業をやっているというようなことであります。内容は、先ほど課長が言いましたとおり、100%国の交付金事業、毎年1,000万円ずつ。非常に重宝する事業として考えているというところでありまして、この事業を活用するのは2回目であります。

それこそ、1回目は、山江栗の振興として、この事業を活用しながら、栗まつりやいろいろな山江栗の振興をしてきたと。一応、3年の終わり、山江もずいぶんいろんなところで活用できてきたというふうを考えております。

加えてですね、第2回目は、もちろん栗もそうですけれども、林業地ですね、所得の低さというのが非常に目立ってきているということです。これは、税務課の資料ですけれども、令和2年で山江村の農業総生産高、総収入は3億5,200万円です。昔はですね、農業で8億円から10億円あったと覚えております。そして、林業で20億円程度あったということですが、今、林業が単独で出てきておりません。営業事業の収入として、11億円、この中に含まれていると思えます。生産高は1億円から2億円じゃなかろうかというような話も聞いておりまして、本当に林業従事者の方のなりわいがなかなか成り立たないというようなことであります。

比較して申しますとですね、公的年金は12億6,000万円の山江村収入があるわけでありまして、いわゆる農業収入の3倍ですね、4億円弱ですので、3億5,000万円ですから、4倍ぐらいあるわけでありまして、実はこの数字が非常に気になるということで、やはり総生産高を、農業の総生産高をどうやっていくかが政策として打つべき話になってくるいし、林業においてもそうであります。

従いまして、その林業を木材のみに頼ることなく、短期収益作物としてですね、山村活性化支援交付金を活用しながら、いわゆる特産林産物を作り、林業家の所得の向上を図ってきたいということで始めた事業であります。これをしなかったということになると、まさに何も起こってないわけでありまして、この事業を行いながら、国の支援を行いながら、何とか一つの商品化にもこぎつけておりますし、この商品の消費拡大についてですね、努力していこうと、生産者の方たち地域と努力していこうというような事業でありますので、よろしくご理解をお願いしたいと思

ます。

契約内容につきましては、産業振興課長が答えます。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、お答えいたします。

議員が申されました商品のですね、委託業者が変わったのではないかなというご質問ですけれども、この振興協議会の内容につきましては、全て福岡のコンサル会社のほうにですね、この内容を委託しておりまして、資源調査とかですね、パッケージ、試作品開発、技術開発の業務委託を締結しております。その中で、村内事業者、議員が申されました業者以外にもですね、加工業者の方は委員会に入っておられますけれども、それぞれ話し合いをされて、一番最初の試作品をですね、個人名を申し上げてよろしいのかどうかはわかりませんが、株式会社やまえのほうで作成をされたというふうに聞いておりますので、その後の内容、今、販売されてる会社とですね、違うということがございますけれども、その内容につきましては、委託会社のほうが協議検討されて決定されたというふうに伺っております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） 言わせれば、物産館から最初はしてあったけれども、業務提携のほうではメーカーさんのほうが、やまえ堂がよかろうということで、やまえ堂に決まったという理解でよろしいでしょうか。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、お答えいたします。

私、ちょっと回答を間違えておりまして、メーカーさんと村内の業者さん、最初に話し合いをされて作られたところが、今、製造をされている業者になっているということでございますので、当初から今販売されている業者が製造されたということで訂正をさせていただきたいと思っております。大変申し訳ありません。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） となれば、言われれば、物産館は名を上げなかったということではよかですね、理解していいですね。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、お答えいたします。

今回の加工費につきましては、レトルトパッケージの商品ということでございまして、また個人名を言っていないのかわかりませんが、株式会社やまえではそのような技術を持っていないということと、今、販売されている業者のほうがですね、そういった芸術的なお菓子ですね、パッケージと、パックをされている技術が

ございますので、今、販売されている業者のほうが、当初から作られたということ
でございます。

以上です。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） わかりました。山江の製品を使っただいて、加工をするところをケーブルテレビも流してもらったりして、販売から生産の所得が上がるように期待いたしたいと思います。

続きまして、株式会社やまえ温泉と物産館、加工施設についてのお尋ねです。これは、お客様の声としてお聞きいただきたいというふうに思います。

温泉施設の内外の庭木の剪定や美化運動など、洗い場のシャワー、水道などのメンテナンス、サウナ室の戸の下板の腐食などの取り替えや掃除、修理はどうされているのかをお聞きいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

まず、山江村は村内外の住民及び観光客の利用を供し、温泉を通じ健康保持、増進及び地域振興拠点として山江温泉ほたるを設置しております。

今、議員が言われましたとおり、その管理についてということでございますが、山江温泉ほたるの管理運営につきましては、現在、令和3年4月1日から令和8年3月31日まで5年間、指定管理者として株式会社やまえと管理及び運営に関する業務の提携を締結して、契約等が行われております。また、温泉浴場関係のですね、保守管理につきましても別の会社の方のですね、業務委託契約を結びながら保守管理を行っているところでございます。

先ほど申しましたように、施設のですね、管理運営につきましては、株式会社やまえにおいて、日々行っただいていただいているところでございます。施設内の除草、れから清掃、先ほどありましたとおりサウナ室とかですね、というのは別として、定期的に休館日を利用してですね、職員等で現在行っておられるような状況でもございます。また、先ほど言われましたとおり、サウナ室、シャワー等のですね、老朽化などによる修繕、それから改修工事につきましては、施設自体はですね、村の普通財産ということでございますので、役場担当課のほうで計画的に予算化を行いながら、議会の予算決定をいただきながらですね、改修を行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） これはいつやったかな、現場の議会でですね、ご飯を食べに行

ったんですけれども、見てみたところが、葛は巻いたり、ツツジの剪定はしてないし、全然荒れ放題の状況で、これは掃除、剪定なんかはしてあっとかなというようなことを私は見受けました。

また、現在温泉センターに雇用されている人は、何人いらっしゃるのでしょうか。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

温泉ほたる、それから物産館ということでございますが、8月末現在で従業員は正社員10名、それからパート19名、これは8時間と5時間ということに分かれておりますが、パートが19名、それからアルバイト7名の計36名です。

以上です。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） それで、物産館の栗まんじゅうとペースト工場についてお尋ねいたします。今年4月頃、栗まんじゅう製造に関わった方々が4名から5名の退社があったと聞きましたが、物産館の栗まんじゅう製造には支障はなかったのか、お聞きいたします。それと、栗まんじゅうの販売戦略はあるのでしょうか。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

雇用された方が辞められたということですね、現在は雇用者はですね、5名辞められたとありますけれども、現在は6名就職をされております。

それから、影響はなかったかということでございますが、まず山江のですね、加工施設は平成30年に建設をしたものでございますが、この施設は山江村のさらなるですね、事業拡大と村内の雇用創出を目的として整備をされております。ペースト工場の製造は、栗の加工品として令和元年度製造量が979.45キロが製造して稼働をされているということでございます。令和2年度では、製造をですね、1,185.45キロでありますので、今後もですね、洋菓子等の栗のペーストを需要が多くなってきくと聞いておりますので、本年度におきましても、従来どおりのですね、取引先に加えて新規の取り引きを増やすなど、加工品のですね、生産目標を1,200キロとしておりますので、従業員の方もですね、入られておりますので、問題ないかと思っております。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） また近頃、コロナ感染の対策はどのようにされているのか。それと、栗まんじゅうの不良品でクレームがあったと聞いていますが、取引先も減少しているのではないのでしょうか。お聞きいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

コロナ感染のですね、対応ということでございますが、これにつきましては、国・県のコロナ感染症の対策につきましても、村、それから会社のほうでもですね、取り組みは十分されております。館内のほうもですね、行っていただければ、特に森田議員はよく行かれると思いますけども、ちゃんとしたですね、対応、それから職員のほうもですね、対応をしております。それから、和室においてもですね、先般議会の現地調査の折にもでしたけれども、大広間をですね、途中で区切りました施設等ですね、感染対策のほうは十分やっていると思っております。

コロナのですね、認証ということで、今回、熊本県のですね、認証も確認をしておられますので、それについてはですね、ちゃんとした対応されているというふうに思っております。

それから、ちょっと栗のクレームということでございますけれども、ちょっと私のほうでは、そこは確認をしておりません。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） これ、クレームはなかったという確認ができてないということですが、私の耳にしたところ、ちょっと不良品が出たというクレームもあったというふうに聞いております。クレームがあったというなれば、取引先もですね、なかなか減少するんではなかろうかなというふうに感じているところでございます。

物産館のペースト製造加工場は稼働してないというふうに私はみます。3年前、地方創生交付金で4,000万円の交付金で設置されましたが、はじめは栗ペーストを作る機械として導入しましたが、その後はペーストをカボチャやカンショも作っていかないという案も出ていました。ところが、水分調整で難しいということでしたが、その後、実際に試験的製造をされたのか、これ、副村長が前にお答えになったというふうに思いますが、お尋ねいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 北田副村長。

○副村長（北田愛介君） ペースト工場でのカボチャと、あとサツマイモですかね、そういったものの加工ができないということで検討しとるということでございました。実際ですね、作っておりました。最近ですね、それが前担当者の作ったですね、試作品が見つかっております。それを出しまして、現在の従業員のほうで試食をしたところがですね、なかなか食べられるような状態ではなかったということでございます。かなりですね、試作にしては、大量に作ってございまして、それも最近ですね、処分をしたということをちょっと聞いております。

以上が状況でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） 試験的に難しいということで理解しますけれども、現在、その責任者といえますか、技術者といえますか、そのペーストを作る方はいらっしゃるのでしょうか。

○議長（中竹耕一郎君） 北田副村長。

○副村長（北田愛介君） 物産館のほうですね、当時から従業員として担当しておりました者がおまして、そちらのほうは全てですね、製造のほうは熟知しております。先ほど言われましたように、昨年12月に加工をされとった方が5人も辞められたということで、一時は大変心配いただきましたけれども、現在は支障なく運営をいたしておまして、現在、注文には全て対応ができていうふうな状況でございます。

先ほど課長からもありましたように、元年度と比較しますと、2年度においては、数量もですね、取り引き量も多くなっております。最近では、京都のほうのですね、ジェラートの会社もですね、山江栗をぜひとも使わせてくれということで、新たに今年の秋からですね、取り引きなども始めております。

以上のような状況でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） それでは、今真っ盛りの栗の時期なんですが、本年度のですね、物産館での栗の買い付け量と加工品の生産目標、それと逆に言えば、多分、借入金もあろうというふうに考えますけれども、どのくらいかお聞きいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

本年度の栗の買い付けということでございますけれども、約、むき栗が5,000キロ、5トンですね、それから、生栗約1万4,000キロ、14トンでございます。約19トンを予定されているようでございます。購入にあたっては、今年も村内のですね、栗生産者の方々へ、7月30日にですね、村内の回覧等で買い取りの周知を行っておられております。

なおですね、村内では約、むき栗が4,000キロ、生栗が2,000キロということでございますので、足りない分につきましてはですね、JA等からでも購入を計画されているようでございます。

加工品の計画目標ということでございますが、ちなみに昨年度が栗まんじゅう約22万3,000個、それから、びっ栗だんご18万2,000個でありました。令和3年度においては、栗まんじゅう約22万5,000個、びっ栗だんご約18万3,000個を計画目標としておられるようでございます。

借入金ですかね、ちょっとそこ…。すいません、以上です。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） 借入金のお尋ねでございますけれども、銀行のほうから根抵当
というか、3,000万円の動かしはいつまでもできるというふうにしております
ので、その範囲内でやるということでもあります。いずれにしろ、買い付けは投資で
ありますから、その投資して、それが2倍、3倍の価格で売れていくということ
ありますので、それ以内でやるということです。あとはそうですね、ということ
でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） 借入金が3,000万円内ということ、その倍すれば6,0
00万円ぐらいの売り上げになるというふうに考えております。

昨年まではですね、買い付けやら皮むきなど、物産館が一体となって山江栗とし
て、新聞や広告などでPRをしていましたが、現在は新聞社等が記載して、よく見
ますと、民間一企業のPRに見えるが、どのように物産館のPRを考えてられる
のかお聞きいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） 山江栗はですね、先ほど申し上げましたとおり、随分取り引き
が多くなってきております。もちろん青果で出す分と、加工して出す分があります。
先ほどちょっと言い忘れましたけれども、加工物産館の加工場がですね、株式会社
やまへの稼ぎ頭であります。あそこで稼ぐということで、どこの市町村も第三セク
ターには2,000万円、3,000万円持ち出しをしておりますが、山江の第三セ
クターだけはですね、一銭も議会のほうにお願いしたこともありませんし、自力で
頑張っているというところでもあります。

そういう中で、青果、それから加工をやりながらですね、自力で頑張っている
ということですから、その付近はご理解をいただきたいと思います。そういう
ことの中でPRしているということでもあります。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） 山江栗といたら、やっぱり物産館の新聞とかですね、写真と
かを楽しみにしているんですけど、見てみれば民間の会社が載っているというよう
なことで、非常に残念と言いますか、物産館も大変だろうなというふうに考えてお
ります。

それでは、本年度のですね、計画では、山江温泉の水道新設に伴い、ボーリング、
配管などの計画、または大型冷蔵庫の設置を考えられていますが、9月9日に指定
管理者の経営状況説明をちゃりリンクやまへ、そうすると株式会社やまへの2団体

でありました。NPO法人かちやリンクやまえは、令和3年度通常総会の資料など1年間の活動方針、コロナ感染などの対策対応や未来に向かっての活動の計画状況をお聞きしましたが、やまえ温泉と物産館の資料は令和元年の説明もなく、令和2年度の経営状況、この1枚だけでした。

それと、かちやりのご説明はちゃんと資料も作っていただいて、年間の報告とかいろいろな報告も詳しくやっていただきましたが、コロナウイルスの補助金や給付金などの金額の説明もありませんでした。月に1回の取締役会もあることから、全議員、経営状況の説明に納得がいかない考えでした。

令和3年度の経営計画と対応の説明をお願いいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

先般のですね、指定管理者の報告につきましては、会社のほうの資料ということで私も事前にちょっと見ておりませんでした。大変申し訳ございませんでした。

中身をですね、説明を聞きながら、やっぱり言われたとおりですね、資料が不足をしていたということでございます。この内容につきましては、今後ですね、取締役会、総会等のですね、資料もございますので、その辺りでまた説明させていただければというふうに考えております。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） 私のほうから社長としてお答えしますが、まずですね、通告ありませんので答える必要ないということでもありますけれども、元年はですね、経常繰越利益剰余金、ずっと今まで赤字だったり、黒字だったりしながら、通算の金額は黒字になりました。やっとな、一時はですね、何千万の赤字だったのが黒字になったということでもあります。

ただ、2年、3年と続きますコロナで高速道路が止まる、今も止まっていますけれども、今も止まっているというか、まん防がかかってですね、大変苦しい状況にあるというのは確かであります。赤字もちょっと膨らんできつつあるということでもあります。ただ先ほど申し上げましたとおり、自力でですね、再建しようと、この危機を乗り切ろうということで頑張っておるところでありますし、一時は、コロナが落ち着いた頃には、若干経営状況も上向きつつあったということでもあります。ただ苦しい状況はまだ変わっていないということでもあります。

説明が足りなかったということは、先ほど企画調整課が申しましたとおりですね、私どういう資料が出たかわかりませんが、ちゃんと現場のほうに伝えておきたいと思っております。

以上です。

○議長（中竹耕一郎君）　ここで注意を申し上げます。以後、通告に従って質問をされるようお願いいたします。

森田俊介君。

○5番（森田俊介君）　わかりました。村長、通告がなかったということですが、お約束していただければですね、議員が納得する回答をですね、もう一回、全協のほうでご説明をしていただくというお約束、できますでしょうか。

はい、わかりました。あと1回聞きたかったんですけど、通告はしていませんので終わります。

○議長（中竹耕一郎君）　ここでお諮りをいたします。暫時休憩をしたいと思います、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君）　異議なしと認めます。

-----○-----

休憩　午後　1時59分

再開　午後　2時10分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君）　では、休憩前に引き続き再開をいたします。

次に、7番、立道徹議員より、1、荒廃した森林の整備について、2、草鹿倉・万江保育園の施設民営化について、3、避難所について、4、復興むらづくり推進についての通告が出ております。

立道徹議員の質問を許します。7番、立道徹君。

立道　徹君の一般質問

○7番（立道　徹君）　それでは、議長のお許しをいただきましたので、7番議員、立道が通告書に従いまして、一般質問をさせていただきます。

まず、始めに、荒廃した森林の整備についての質問でございます。1点目は、人工林の間伐等、適切な計画的経営の推進についてです。戦後、植栽された人工林が伐期を迎えていますが、近年の厳しい林業情勢から、間伐等の手入れが行き届かず、荒廃したままの山林が多くみられております。荒廃した山林は、大きな河川氾濫、災害の原因ともなっており、間伐等の計画的な手入れによって、良質な木材を生産することが林業経営に欠かすことのできないものであり、大きな課題となっております。

そこで、森林を守り、林業振興を図るため、人工林の計画的な整備の推進につい

てどのように考えておられるか、お尋ねをいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、立道議員のご質問にお答えいたします。

まず、山江村の林業の助成でございますけれども、熊本県の林業統計要覧というのをみてみますと、山江村の林野面積は1万509ヘクタールとなっております。村有を含む民有林は9,324ヘクタール、その中の人工林は5,268ヘクタールで、林野面積全体の約50%を占めているというような状況になっております。

昨年の7月豪雨時も、大量の土砂や木々が河川に流れ込み、被害が拡大している状況は、皆さんご承知かというふうに思っております。上流部で発生した流木は下流域を経て、やがて八代海や流れ出し、地元の漁業等にも大きな被害を与えております。これは、森林の手入れが行き届かないほか、有害鳥獣の活動による荒廃等の原因も一つとして考えられます。

そのようなことから、山江村復興計画の基本理念として親山鎮水を掲げ、三つの基本方針の一つとして、道路、河川、農地、森林の強靱化が挙げられております。議員お尋ねの人工林の間伐、下刈り等の適切な手入れを計画的に実践することが、荒廃を防ぎ、森林の水源涵養機能を発揮させることができると思っております。人工林の間伐、下刈り等につきましては、私有林、村有林の林班を集約した団地ごとに森林経営計画、これは5年の計画になりますけれども、これを策定し、国・県の補助金を活用しながら計画的な手入れの実践をしております。

なお、計画を策定していない団地等におきましては、森林環境譲与税の活用も視野に入れた管理を推奨できるような整備を進めておりまして、一層の林業振興に努めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） いろいろ計画されているみたいで、ありがたいと思います。

次に、2点目ですけど、搬出道や切り捨て材等の伐採ルール作りについてございますけれども、村内のあちこちで大規模面積の山林伐採が見られております。採算性からか、作業搬出路の開設、伐採木の切り捨て材等の放置が行われ、豪雨時の災害発生の原因になっております。

このことから、森林環境を守り、国土保全からも伐採のルール作りが必要と考えられますが、本村だけではできない森林行政の大きな課題でもあり、実現に向けて、県・国の関係機関に要望していく考えはないかお尋ねしたいと思います。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、お答えいたします。

人吉球磨の林業事業者40者と熊本県人吉球磨の10市町村では、「球磨地域の100年後の森林を考えよう！次世代につながる球磨の森づくりルール」というルールブックを平成31年3月に策定をいたしております。こちらは、伐採、搬出、施工後の現場整理、安全の作業などがルール化されており、定期的にパトロールを実践しております。こちらは、年に数回、事業者と県と市町村が合同でパトロールをしているということでございますので、ルール作りは人吉球磨管内ではされているということでございます。

搬出道につきましては、熊本県森林作業道作設指針に基づき、路線計画、施工、周辺環境への配慮、生態系と環境保全への配慮、切土・盛土と法面の処理、排水の処理等を適切に行うと明記してあります。また、施工後の環境に配慮した現場整理として、枝が残ったですね、枝条残材を現場に残す場合は、出水時に河川等に流出したり、雨水をせき止めない場所に集積するほか、大量な枝条残材の山積みは避けることが記載されておりますので、ルールブックを遵守し、施業をされている事業者がほとんどだというふうに思っております。

パトロールは合同でも実施しておりますけれども、村でも林政係、私も一緒に随行することもありますけれども、定期的に巡回しております。その中で、先ほど説明いたしました枝条残材等が放置されている現場もあるのは事実でございますので、そういった際には、現在されている事業者のほうにですね、電話をしてルールブックに基づいた適切な管理をしていただくように指導をしているということでございます。

議員が申されました森林環境、国土保全の観点からも、ルールブックを遵守してですね、施業をしていただくように、まずは伐採届け等が提出された際にも注意喚起をするように呼びかけておりますので、国・県へのルール作りというのは今のところ考えておりません。

以上でございます。

○7番（立道 徹君） 今、課長の答弁で、人吉球磨管内ではルール作りがあるということで、一応、パトロールですね、合同パトロールもされるということですけど、くれぐれもですね、伐採届け時にですね、厳重な、何ていうか、もしパトロールでそういうことが見つかった場合は、厳重な処分をしますという、山江村、村内、特別にそういうルールも作ってもいいんじゃないかと思っております。

次に、3点目ですけど、自然林の積極的交流についてでございます。国土保全や水源かん養、地球温暖化など、多面的機能を持つ森林、特に自然林の価値が見直されてきております。また、一方では林業の低迷や高齢化による維持管理の困難さから、山林を手放す所有者も増えつつあります。

そこで、CO2環境対策として、土砂流出、洪水対策として、新たな山林資源と水資源の在り方として、有害鳥獣と共生するすみ分けを図る対策として、多面的機能を持つ森林、自然林を積極的に購入し、森林保全を守る考えはないかお尋ねします。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、お答えいたします。

森林には、議員が申されましたほかに、保健・レクリエーション活動、文化の維持及び継承、生物多様性の保全、そして木材等の生産など、住民生活や経済を支える多面的な機能があります。その役割には、人工林、天然林、自然林のですね、区別はないかというふうに思っております。

村が民有林を購入する際の基準につきましては、山江村民有林購入事業に係る運用基準、これは平成24年4月1日から適用されておりますけれども、こちらのほうが定めてあります。山林面積の規模などがうたっており、天然林においては水源涵養機能など公的な機能を十分果たし得るものと記載してありますし、購入する際は山江村有財産審議会の意見を得ることとなっております。

自然林の積極的な購入につきましては、その目的、財源の確保をはじめとする様々な課題もありますので、この場で私のほうから購入を勧めるという回答はできませんけれども、その自然林等の管理につきましても、先ほど言いましたとおり、森林環境譲与税のですね、活用ができないか検討を行っているところであります。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） 財政も大変な時期ですから、すぐにですね、購入することはできないと思いますけれども、将来的にはですね、やっぱり自然林のほうが災害にも強いし、CO2の環境対策もいいと思いますので、前向きなご検討をよろしく願いしたいと思います。

4点目はですね、作業道の補修整備の推進についてということで、山を買うなら道を買えと言われるように、林業を営む者にとっては道は不可欠なものであります。しかし、昨年7月豪雨災害において、作業道が至るところで災害に遭い、通行ができない状況にあります。木材価格が、今年は少し上がったということですが、搬出ができず、泣き寝入りしなければならない状況でございます。早急な復旧が望まれます。作業道のこれから先ですね、復旧の見通しについてお尋ねします。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、作業道の復旧状況についての見通しについてお答えいたします。

昨年の7月豪雨災害では、道路、河川、農地をはじめ、甚大な被害を受けており

ますけれども、林道作業道においても同様でございます。特に、作業道については、いまだに全容がつかめてないというような状況でございます。こちらは、林道のほうが復旧が進んでおりませんので、その先にある作業道に行けないというのも、原因の一つかと思っております。

作業道の復旧、補修の費用は、原則、個人もしくは管理組合での負担となります。大規模な復旧につきましては、管理組合などから、自己負担分についてめどが立っている路線、村有林内に開設してある路線については、国・県へ補助金を申請し、一部路線は測量設計も始めているところでございます。

しかしながら、先ほども言いましたけれども、作業道に通じる林道が崩落し、山頂部へ通行できない路線も複数箇所あることから、復旧については相当の時間がかかるというふうに考えております。現時点で、例えば1年後とか2年後とかというのは、なかなか答えが見いだせない状況でございます。作業道に通じる林道の災害復旧状況におきましても、入札会を今月上旬に実施しましたけれども、林道につきましては2路線3箇所を入札いたしましたけれども、入札に応札する業者がなく、不調、不落ということで、またスケジュールのほうが遅れているというような状況でございますので、そちらに通じる作業道もまだ改修がいつになるかというのは、まったくの未定ということになっております。

一方、作業道のですね、軽微な補修、管理されている方でちょっと手を加えれば改修できるというような場合につきましては、球磨川流域復興基金を活用した補助を受けることができます。こちら、若干ですけれども、自己負担金が発生しますけれども、球磨川流域復興基金の補助金を活用することができます。

本年6月の議会で補正予算を計上いたしまして、可決決定後、広報誌等でもお知らせをしております、既に補修をしたから補助を申請したいということで、補助の申し出も複数件あっております。今一度、作業道をご確認いただき、軽微な補修等です、できると判断ができる場合は、産業振興課の林政係までお問い合わせをいただければというふうに思っております。

議員も申されましたとおり、木材のですね、施工業者、林業施行者をはじめ、作業道林道を通行されている方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願ひしたいというふうに思っております。現時点でいつまでということがなかなか回答できず、申し訳ありませんけれども、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

以上です。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） 課長の答弁の中で、やっぱり林道から先ということで、林道

もですね、何箇所も本当に路肩が崩壊して大変な状況でございます。この作業道の復旧の管理組合、また個人、一応、前みたいに10%ぐらいの負担でよろしいんですかね。

○議長（中竹耕一郎君） 松尾産業振興課長。

○産業振興課長（松尾充章君） それでは、お答えいたします。

個人管理組合の方のですね、負担につきましては、国・県の補助残、補助金の残がありますけれども、補助金の残の9割を村が負担しまして、その残りの1割となりますので、実質割合といたしましては数パーセントということになっておりますので、必ずしも100万円、工事がかかったから10万円払うということではございませんので、その点をご理解いただきたいと思います。村が負担する分の1割を払っていただくということですので、必ずしも10%ということではございません。再度申し上げますけれども、ご理解のほどお願い申し上げます。

以上です。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） 作業道は、先の先になると思いますけど、地域の皆様にはですね、大変ご迷惑をおかけすると思いますけど、まずは林道からということでご理解をいただきたいと思います。

それでは、次の質問に入りたいと思います。章鹿倉、万江保育園の施設民営化についてでございますけど、現在の両保育園の運営状況について伺いたいと思います。運営といっても、行政からはですね、詳しいことは回答できないと思いますので、わかるだけのことを答弁していただければいいと思いますので、よろしく願います。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

令和3年4月1日時点で、章鹿倉保育園40名、万江保育園20名の方が入所されております。5年前の平成28年度と比べると、2保育園全体で27名減となっております。保育所に関する指導は、県が施設の認可権を有する立場から、村が保育費を給付する立場から、それぞれに保育園の適正な運営確保のために定期的な指導を行っております。日頃から密接に連携することによって、保育園の運営状況の把握に努め、適切に指導してまいりたいと考えています。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） 今ですね、八代とか坂本町ですかね、コロナがまん延している状況でございますけど、保育園あたりにも。この辺の対策としては、ご指導のほう

はされておりますか。コロナ対策で。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） コロナ対策についてです。

この新たな感染症とともに、社会で生活していただければならない中で、保育所等におきましても、まずは基本的な感染対策に努めているところでございます。密閉、密集、密接の3密の回避、手洗いなどの手指の消毒等、基本的な感染対策を徹底していただいております。

また、村では感染症対策の支援といたしまして、山江村保育環境改善事業新型コロナウイルス感染症対策分の補助金として要項を制定し、感染拡大防止に必要な費用を交付しております。感染拡大を防止するため、マスク、消毒液、ハンドソープ、体温計等の消耗品をはじめ、密を避けるために必要な物品として、机、パーティション、空気清浄機、加湿器等が導入されております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） コロナ対策もされているということで、安心とは言えませんが、村長の先ほど答弁の中にもありましたとおりですね、慎重に日常生活を送っていただければと思います。

次に、今後のですね、この施設の老朽化に伴って、修繕の維持管理費等を考えなければ、施設の民営化も大変だと思いますので検討していくべきだと思いますけど、将来的な今後のですね、運営方向について伺いたいと思います。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

章鹿倉保育園、万江保育園の両保育園につきましては、土地及び建物等は期間を定め、無償貸与において、平成20年4月1日より民設民営を行っております。修繕等につきましては、随時協議を行っており、保育園施設利用による破損等による修繕につきましては私立保育園で、建物等の修繕につきましては村で行っております。修繕要望に全て対応することは、時間的、予算的な制約から難しい面もありますが、保育所は安心して子どもを預けられる場所であるためにも、不具合箇所への対応は迅速に行うとともに、できる限り修繕に向け必要な予算の確保に努めているところでございます。今後、長寿命化の改修工事を実施した場合にはかかる費用、施設を改築した場合にはかかる費用、財源の確保の状況、また譲渡も含め、これまで国・県等補助金、起債を活用していることから、協議、検討しながら中・長期的に検証することが必要と考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） いろいろですね、修繕あたりも、大変これから出てくると思います。いろいろ一般財源から、補助事業があればいいんですけど、そういうのも今後検討して、将来どのような方向にいくか、将来のビジョンを考えていただければと思います。

それでは、次の質問に入りたいと思います。避難所についての質問でございますけど、現在は避難所は役場隣の農村環境改善センターのみであります。この場所でもですね、山田川が判断した場合は浸水する可能性が大であると思います。高台にある山江中学校体育館、また山田小学校体育館を正規のですね、避難所にする考えはないか伺いたいと思います。

○議長（中竹耕一郎君） 白川総務課長。

○総務課長（白川俊博君） 現在、本村の避難所は、災害発生や災害の危険性があり、滞在が可能かつ適切な規模となる施設等7カ所を指定避難所として指定をしているところでございます。その避難所の中で、農村環境改善センターも指定避難所として位置づけております。役場に隣接していることから、現在は高齢者等の避難や避難指示の際の避難所として、主に開設をしているところでございます。

議員ご質問の河川が氾濫する恐れのある山江村役場周辺でございますけれども、この周辺は熊本県が発表しましたL2の浸水想定区域50センチ未満の浸水と想定されている浸水する可能性がある地域でもございます。そのことから、高台となります山江中体育館、それから山田小学校体育館も、村内7カ所指定をしました指定避難所として指定をしておりますので、緊急時の避難所としての対応が可能となります。

現在のところ、指定避難所の優先順位としまして、役場隣の施設が避難所設営や人員配置も早めの対応が可能ということでございます。避難所への情報も伝わりやすいことから、主に農村環境改善センターを避難所として利用しているのが現状でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） 気象状況をみながら判断されるということですけど、まずですね、こちらに環境改善センターで避難している方たちがですよ、万が一、大洪水がですね、避難しているときに来た場合、車とか何かですね、流される可能性もありますので、その辺は行政の判断でどちらに行くかというのは判断されると思いますけど、くれぐれもですね、その辺は臨機応変に対応をしていただければと思います。それがちょっと心配な方も、村民の方もいらっしゃると思いますので、車が流された場合ですね、責任は誰にあるかということも出てきますので、その辺は行政のほ

うも、しっかりとですね、使用状況を把握しながら避難所選定もお願いしたいと思います。

それでは、最後の質問になりますけど、復興むらづくりの推進についてということで、本年度のですね、一般会計予算の中に、復興むらづくり推進費として、事業推進委託料1,000万円の予算があります。1に親水公園ですか、（かがまちづくり）、2点目に教育の森、学校林の指定整備、森林学習、3点目に山の神トレッキングコースマップ作成整備、4点目に緊急時情報伝達システム作り、5に子ども八代海交流、海・山交流ですね、と五つの事業がありますが、この各事業のですね、現在までの活動報告を伺いたいと思います。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

まず、令和年7月豪雨により、土砂災害ですね、とか河川氾濫によります。浸水被害、山腹崩壊などが発生しまして、人的被害はなかったものの、住宅や道路、水道施設などのですね、生活基盤、基幹産業であります農林業の地場産業などに甚大な被害を受けました。災害ら一日も早い復興復旧をですね、図るためには、今回の災害の過去の災害からの教訓や課題を把握し、将来の村づくりの認識を共有した上で、行政だけではなく、地域住民や関係団体等がですね、一体となって取り組むことが必要であります。

このため、令和3年3月に復興に向けた基本的な考え、今後取り組むべき施策を示すものとして、山江村復興計画が策定されました。本計画は、村の目指す将来像、人、資源、暮らしにつながる活力、魅力生まれる山江村や取り組む内容を示した第6次山江村総合振興計画、第2期山江村まち・ひと・しごと総合戦略の下、整合性を図りながら、災害からの単なる復興ではなく持続可能な村づくりの実現を目指すものでございます。

この復興計画の基本理念として、親山鎮水としており、自然との共生意識や畏敬の念を持ち、自然と親しむと同時にこわさを知り、自然との関わり方を見直す、人と自然の調和を進めていくものでございます。この復興計画の推進にあたりまして、みんなでつなぐ自己治癒力の高い村づくりを目指すため、住民と取り組む山江村を次世代へ継承する六つのプロジェクトを挙げておりまして、今年度より実施に向けて各担当分野で活動を始めているところでございます。

六つのプロジェクトは、山江の森維持管理システムとして、山江の森人材育成プロジェクト、それから山江の森水管理推進プロジェクト、災害時緊急避難システムとして、いざというときのプロジェクト、災害に遭わない家づくりプロジェクト、山幸・海幸交流推進システムとして、村内の上下流交流プロジェクト、海幸・山幸

交流プロジェクトの六つがあり、住民とともに取り組んでいくということでございます。

先ほど議員が申されました事業につきましても、この中のですね、事業を推進するということで、各プロジェクトの推進の状況ではありますが、現在まで27事業中12事業で着手済み、または着手として動いているところでございます。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） ちょっと内容、当初の5項目とまた深く入っているような感じですけど、ちなみにこのコロナ禍の中で、この活動が、一応予算が1,000万円ありますけど、もし1,000万円使い切れないといえはいかんですけど、活動ができなかった場合は、繰り越しとか何かは考えられているんですか。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

まずですね、ちょっとまだ内容をちょっと若干説明させていただきますけれども、まず一つに、公有林などを活用した森林環境整備の事業ということで、実施ということです。これは万江川水源の森づくり植樹活動ということで、ちょっと予定をしておりましたけれども、来年の1月22日に開催を予定というような事業も行うところでございます。

それから、国や県制度、森林環境譲与税を活用した民有林整備事業ということで、意向調査を踏まえて、現在確認をですね、現地確認等の実施をしているところでございます。

それから、マイタイムラインなどを活用した防災無線の実施ということで、これにつきましては、区長への説明会、5月31日に実施しておりますけれども、また13区ですね、のほうでは作成の研修会を7月11日に行ったところでございます。

それから、高齢者などの災害弱者への支援体制の強化ということでございますが、有事の際の災害弱者の安否確認など、連絡体制の整備をですね、これはまた介護支援専門員会等で開催をしているところでございます。

それから、防災行政無線を活用した情報伝達訓練の実施ということでございますが、これにつきましては、区長によります防災行政無線訓練等をですね、遠隔放送を実施、これは7月2日のほうに実施をしたところでございます。

それから、地域防災計画、防災マップの見直しということでございますけれども、防災マップを最新の情報へ更新をして、全世帯へ配布済みでございます。

それから、七夕祭りを活用した令和2年7月豪雨の浸水の表示ということで、これにつきましては、淡島地区にですね、6月24日から7月7日までの14日間、浸水域を示しました七夕飾りをですね、設置をしまして、短冊に復興のですね、願

い等をしたところでございます。

それから、平時には交流施設やサテライトオフィスなどを活用でき、非常時には避難場所など、空き家の調査を整備ということでございますが、これは4月から5月にかけて調査をしております。GISをですね、システムを活用しまして、情報の可視化を図りまして、対象となる場所等の選定をしたということでもあります。

ほかにもですね、また後四つほどいろいろ事業がございますけれども、こういう事業をですね、進めながら、今後また各交流のですね、推進にあたりましては、山江村交流プロジェクト推進事業のですね、業務委託としまして、これはNPOのかちやリンクやまへのほうに委託しておりますけれども、契約をしながらですね、交流会等の企画運営もまた行っていただくような動きをしております。

それから、9月末には山江村復興むらづくり推進委員会というのですね、開催を予定しております。これにつきまして、各種団体、地域の代表、議会からもお願いをしておりますけれども、というところですね、動かしていきたいというふうに考えておりますが、内容によってはですね、若干繰り越す可能性もあるかと思っております。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） この点について、村長の見解は、補足はありませんか。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） それでは、復興の計画についてはですね、先ほど課長が言いましたとおり、昨年来、議員の3名の皆様方もご協力いただきながら、委員会で復興計画を作っていただきました。復旧については、もちろん工事がですね、村工事が40億円、県工事が20億円と多額に上りますので、長期にかかるなということですが、優先順位をつけながらですね、着実に確実にやっていきたいということでもあります。

それから、復興につきましては、村民の方々と今次水害をしっかりと認識し、次の世代へ語り継ぐ、またいろんな身を守る活動していくということで、今、企画調整課長が申したとおりでありまして、いろんなソフト事業を動かしていきたいと思っております。

東北の震災から10年がたったというテレビ番組が出ておりました。見ておりましたら、随分復旧の工事は済んでいるんですが、復興たる人の心はまだ戻ってきていないというようなことを感じたわけであります。そういうことを思いながら、山江の復興計画、しっかり村民の皆さん方と一緒にですね、そういう事業を進めていきたいと。全部で27事業がありますけれども、進めていきたいと思っております。

コロナ関係で、なかなかスタートが遅くなったということでもありますけれども、9月末にはですね、その推進委員会開催いたしまして、またいろんな協議をしていきたいと思っておりますし、議員の中からのお一人推薦をいただいたところでもありますので、その方を通じてでも議員の皆さん方にもいろんな形で意見を聴取させていただくというようなことにもなろうかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それから、繰り越し関係ですけれども、もちろん今は、昔はですね、立てた予算は全て使ってしまうというのが大原則でありましたけれども、使わなかった予算は「理由書を書け」とまで言われながらですね、我々やった思いありますけど、今は無駄な予算は、しっかり使って、あとは繰り越すと、次年度に繰り越しながら有効に使うというようなことが大原則として、財政のほうにも申しておりますので、そのような財政の使い方、予算の使い方もしっかりとやっていきたいと思っております。

○議長（中竹耕一郎君） 立道徹君。

○7番（立道 徹君） これからということで、大変なやっぱり、将来を見つめてもむらづくり推進だと思ひます。いろいろですね、地域、地形によって、無理な課題もあると思ひますので、その辺はですね、村民の方々といろいろ話し合いながら推進をしていただければと思ひます。

これで一般質問を終わります。

○議長（中竹耕一郎君） 次に、2番、久保山直巳議員より、1、災害地域の現況について、仮設住宅入居されている地域、2、災害発生から1年、仮設住宅入居されている方々への支援について、3、令和2年7月豪雨後のボランティアセンター運営についての通告が出ております。

久保山直巳議員の質問を許します。2番、久保山直巳君。

久保山直巳君の一般質問

○2番（久保山直巳君） 議長のお許しをいただきましたので、通告に従ひまして、2番、久保山の一般質問を行います。

まず、災害地域の現況について。仮設住宅入居されている地域ということで、令和2年7月熊本豪雨から1年が経過、本村においても万江川流域を中心に家屋や道路、河川、橋梁など、村内各所に多くの被害をもたらしましたが、復旧が着実に進んでいるところであります。その中でも、生活地域が被災され、仮設住宅での生活をされております。また、生活再建する上でも、地域の最新の復旧見通しを知りたいと思っておられるのではないのでしょうか。入居されている被災地域などの復旧、

スケジュールについて伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 清永建設課長。

○建設課長（清永弘文君） それでは、お答えいたします。

令和2年7月豪雨に伴い、家屋被災によって入居している方、またライフラインの被災によって長期避難となった15区、尾寄崎地区、16区、大川内地区から上流の方には、主に中央グラウンドの仮設団地での生活をお願いしております。

発災地域の道路河川の復旧スケジュールにつきましては、まず14区、淡島地区につきましては、2月に説明会を開催しており、県道のかさ上げや村道橋の架け替えについて説明を行っております。スケジュールとしましては、令和3年度から令和5年度の3カ年での復旧工事を進める予定でございます。

次に、15区、尾寄崎地区におきましては、現在、宇那川の河川掘削工事を進めております。併せて、吐合宇那川線の支線となる一子野線の災害復旧、並びに迂回路となる横手地区から戸屋地区までの災害復旧にも取り組んでおります。引き続き、宇那川や弥七橋周辺の工事を予定しており、尾寄崎地区の復旧には令和5年度までかかる見込みでございます。

最後に、16区、大川内地区から合子俣地区の復旧スケジュールとなりますが、まず、大川内地区の水道施設につきましては、今年度中に復旧を目指しております。次に、水無出口から山口地区までの県道につきましては、現在、熊の原地区の工事を熊本県が進めております。県道の復旧スケジュールとしましては、令和5年度までの完了を目指しているとの情報でございます。

村道におきましては、県道の先にある山口吐合今村線の災害復旧工事に現在取り組んでおります。本年度中に、合子俣地区までの復旧を目指しております。その後、今村地区までの災害復旧に取り組む予定でございます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 久保山直巳君。

○2番（久保山直巳君） 今、説明がありましたようにですね、スケジュールが進んでいるというふうにお伺いしました。

ところで、8月11日に村営住宅、城内団地の仮設住宅入居者への再建築の方向性の説明会がされたと聞いておりますが、その内容についてお聞かせください。また、今後も地域ごとに説明会の計画はあるのでしょうか。

○議長（中竹耕一郎君） 清永建設課長。

○建設課長（清永弘文君） それでは、お答えいたします。

まず、村営住宅、城内団地についてでございますが、8月11日に2回目の意見交換を行ったところです。2回目の意見交換では、現在の建設地の安全度や対策に

ついてご説明しております。参加者からは、「再建の場所として、ほかの土地を含めて検討してほしい」などのご意見を伺っております。

村としましては、引き続き、建設地の検討をしながら、令和4年度末までの再建ができるよう計画を進めております。そのほか、9月9日には、16区の大川内地区につきまして、水道の復旧の説明会を行っております。また、今年9月22日には、15区を対象に復旧の説明会を予定しております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 久保山直巳君。

○2番（久保山直巳君） 地域ごとの説明会もですね、実施をされているということでございますので、ぜひ地域の方々への情報提供をお願いをいたします。

次に、先日の全員協議会で、建設課長から年内が工事発注の山場とありましたが、懸念される復旧の遅れであります。行政報告の中で、村長も触れられておられましたが、入札不調、不落、業者の諸事情による入札不参加など、このことについて建設課長はどのような対策などを考えておられるか伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 清永建設課長。

○建設課長（清永弘文君） それでは、お答えいたします。

今後の発注についてでございますが、令和2年7月の豪雨から約1年が経過し、10月頃から渇水期を迎えるにあたり、河川内の作業が必要となる道路、河川、橋梁の大型工事の発注計画をしております。しかしながら、球磨管内でも、同様の工事が多数発注されていることから、9月3日に山江村で行われた入札会では不調となった案件もございますので、今後も県の発注状況を注視しながら、早期復旧に向けて発注の再調整が必要かと思っております。

なお、不調、不落の状況が長期化すれば、今後の復旧スケジュールにも影響が懸念されているところでございます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） 今後の発注ということでもありますけれども、ご心配の不調、不落がですね、今まで山江はなかったわけですがけれども、先般の入札会で13本中6本が不調、不落でございました。特に、産業振興課関連がなかなか難しいというようなことでありました。ただ、このことはですね、山江村に限ったことではなく、人吉球磨全市町村にまたがっておりますし、加えて県の発注もですね、不調、不落が相次いでいるということでもあります。特に、今A1が抱えている事業については、もう目一杯のようでありまして、いわゆる大型の工事の入札が難しくなってきているということでもありますから、どのように対応するかということについては、県の

土木と総合的に、その不調、不落の問題について、計画的に動かしていくにはどうするかということをしつかり協議しなくちゃいけないというふうにも思っておりますし、特に球磨村の219がですね、復興の、国が積極、まで造って、一挙にやっておりますから、本当に業者が足りないというような状況であります。

県によると、熊本県全体の建設業のほうに呼びかけをしなくちゃいけないとかいろんな意見がありますけれども、いずれにしましてもですね、遅れなきようしつかり対応したいとは思っておりますので、よろしくご理解をお願いをしたいと思えます。

以上であります。

○議長（中竹耕一郎君） 久保山直巳君。

○2番（久保山直巳君） 今、説明をいただきました。関係機関とですね、ぜひ復旧の遅れが復興の遅れとなりますので、できる限りの不落対策をお願いしたいというふうに思います。

続きまして、災害発生から1年、仮設住宅で入居されている方々への支援ということで、これは新聞の令和3年7月20日の分でございます。県のまとめということで、再び被災を懸念と。昨年の7月豪雨で被災し、仮設住宅に入居する世帯の半数超、65%が住まいの再建場所、方法を決めていないということが、県のまとめでわかったと。具体的な治水対策が確定しない中、被災者の生活再建への道が険しい状況にあることが浮き彫りになったとありました。調査機関は、令和3年3月から5月、調査対象は球磨川流域を中心に県北地域を含む12市町村1,344世帯が対象で、1,165世帯回答率ということで、87%とあります。人吉球磨地域については、人吉と球磨村が調査対象になったということでございます。

そこで、本村の仮設住宅入居者世帯の方々への生活再建に関わる調査を、今年の7月1日から15日まで実施されていますが、住まいの再建場所、方法を決めておられない世帯は何パーセントか、また今回、実施された理由と支援のお考えを伺います。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

現在、入居者の方ができる限り快適に生活が送れるよう、仮設団地の施設の環境につきましてもは県、入居者の見守りや生活支援、地域交流など、地域支え合いセンター及び村で支援を行っております。現在、山江村仮設団地で避難生活を送られている世帯は、全部で25世帯52名となっております。その内訳としまして、道路の寸断等、インフラが破壊されたことによる長期避難者が10世帯、住居に被害があり何らかの罹災判定がある世帯が15世帯となっており、またこの中には、村営

住宅、城内団地入居中に被災された8世帯が含まれております。また、地域支え合いセンターでは、仮設団地以外にも在宅被災者への訪問も行っております。在宅被災者25世帯、現在は問題なく生活をされております。気になる在宅被災者の方には、必ず月1回程度、支え合い支援センターから訪問を行っております。

令和2年8月の仮設団地入居開始から1年が経過しており、国の基準に定められた仮設団地入居期限が2年間ですので、現時点で残る期限は1年を切ったこととなります。7月中にアンケート調査票の配布、回収を終え、8月の初旬には単純集計が完了いたしました。調査結果、生活再建する住まいの場所につきましては、20世帯の方が万江地区、5世帯の方が山田地区を予定されておられます。住まい再建の形態につきましては、19世帯が発災前と同じ住居を予定されております。発災前と同じ住居を選択された19世帯をお尋ねし、11世帯が「めどが立たない」と回答をされておりました。また、発災前と同じ住居で生活するにあたり、困っていることはありませんかでは、「道路がいつ復旧するかわからない」「元自宅前の県工事が始まると、住宅を建てるようにしたい」「同じ災害に遭うのではないかという不安」「お金の問題が大です」など、14世帯が困っている、心配があるという記載がされておりました。

発災前と違う住居を選択された6世帯にお尋ねし、4世帯が公営住宅を、2世帯が住宅購入を考えておられます。また、住まいはみつかりましたかでは、何もしていないが2世帯、探しているが4世帯となっています。また、めどが立たない原因としましては、「村営住宅を申し込むが、いつ空きが出て入居できるかわからない」「希望する公営団地はみつかったが、応募多数で生活開始時期のめどが立たない」など記載されておりましたが、1件の方は村営住宅入居が決定しております。

アンケートの結果では、住まいの再建場所につきましては、25世帯全戸が山江村に住みたいと考えておられました。しかし、最も重要視されるのは、安全な暮らしというご意見が多く、今後変わっていくことも想定されますが、現時点で何らかの方向性を決められない世帯はありませんでした。この結果につきましては、復興対策本部においても結果を報告したところでございます。

今回、生活再建に係る調査の実施理由についてのご質問でございますが、まずもって発災直後の混乱から1年が経過し、被災者の皆様が仮設団地での生活にも慣れ、今後の生活再建の方法等についてしっかり計画を練っていただく時期が来たと考えております。

さらには、罹災の程度、生活再建の方法、再建の場所等、それぞれのご家庭が目指す生活再建の方向性をお伺いし、再建に支障となる問題や不安を把握することで、今後どのような支援や情報の共有が必要となるかは明確にし、被災された方の生活

再建をバックアップするため、調査を実施したところでございます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 久保山直巳君。

○2番（久保山直巳君） 被災から1年経過と、現在の生活にも慣れてこられた時期ということで調査をされたということで、大変いい時期にですね、実施をされたというふうに思います。また、個別聞き取りについては、実施されたということで聞いておりますが、今後も聞き取り支援をされるのか、されるとすればどのような進め方をされるのかお聞きをします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

アンケートの内容を基に、世帯ごとの個票を作成し、8月10日から山江村地域支え合いセンター職員1名と健康福祉課担当の2名体制で、個別の聞き取り調査を実施し、8月末までに全世帯の聞き取りを完了したところでございます。また、先に答弁しましたとおり、本調査は各世帯の状況を正確に把握し、様々な生活再建スタイルに応じた支援策を講じるものでございます。

入居の方々には、住まいの再建に加え、健康、福祉、住宅ローン等、生活再建上の様々な課題を抱えている場合が少なくなく、関係機関は多岐に及びます。また、時間も必要となり、早めの生活再建に向けた支援、そして心の支援も必要と考えます。どういうふうに生活再建していきたいのか、一人ひとりに寄り添いながら、課題を一つずつ解決していくことが必要だと思っております。

再建上の課題や支援ニーズを把握し、生活再建や住まいの再建のため、支援を行っていきます。今後は、アンケート及び聞き取り調査によりお伺いした貴重な情報を基に、世帯ごとの個別支援計画を策定し、役場担当課係がそれぞれの部署からきめ細やかな支援ができるよう努めてまいります。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 久保山直巳君。

○2番（久保山直巳君） 9月8日開催の球磨水系流域プロジェクト復旧復興プランの中でも、参加者からですね、仮設住宅の延長を全世帯の方が県への要望をされているということでもあります。また、被災前と同じ場所での生活は不安という世帯の方もおられるようです。今後、生活再建、仮設住宅の延長等、関係機関と情報を共有され、また被災地域の適切な情報を基に、入居者の方々に寄り添った聞き取りと心の支援も実施していただくことを期待いたします。

続きまして、令和2年7月豪雨後のボランティアセンター運営についてということでございますが、これは令和2年の事務報告の中から最初に申し上げますが、令

和2年7月豪雨災害事務報告ということで、災害救助法適用関係事務ということで、ボランティアセンターの設置運営に関わる経費等について災害救助法の対象となる事業を実施して、その経費を救助費として請求し、交付を受けたとありました。

それでは、令和2年7月豪雨発生後、人吉球磨地域でも7市町村が被災地ボランティアセンターを開設しております。本社会福祉協議会においても、同年7月10日にセンターを開設されておられます。コロナ禍の中での活動ということで、大変な苦勞もあったのではなかったのかと思っております。

また、球磨ブロック社会福祉協議会災害総合応援協定が平成23年に締結されておりますが、人吉球磨地域10市町村のうち、7市町村が災害ボランティアセンターを開設を進める中、総合支援も厳しい状況だったと思います。本村の行政も被災地の支援活動の下で大変な状況にあったことはいまでもありませんが、災害ボランティアセンター開設にあたり、何らかの行政支援があったのかをお伺いします。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） それでは、私のほうからですが、前回の質問の中で、仮設住宅者の支援ということですが、実は9月23日に知事が来られてですね、入居者の方々と親しく意見をするというので、私も参加いたします。ぜひ、仮設住宅の方々の本音をですね、お伺いし、しっかり寄り添いたいと思いますし、帰りたいという方には、思わず道路が心配ということは、宇那川線、それから村道の山口線が、合子俣線がありますけれども、そちらを優先的にですね、やりたいと思っています。

それから、ボランティアセンターの件ですけれども、社会福祉協議会の件でありますので、健康福祉課長が常務としてですね、お答えをさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 迫田健康福祉課長。

○健康福祉課長（迫田教文君） それでは、お答えいたします。

議員申されたように、球磨管内の社会福祉協議会においては、管内で災害が発生した場合、被災地の社会福祉協議会の単独では災害救助活動が十分に実施できない場合、球磨ブロック社会福祉協議会間の応援を円滑に行うため、球磨ブロック社会福祉協議会災害時相互応援協定が締結されております。

しかし、今回の令和2年7月豪雨においては、人吉市、球磨村をはじめ、他町村も同時に被災したため、各々の町村社会福祉協議会で災害ボランティアセンターを立ち上げる必要がありました。今回、大規模な災害であったため、山江村社会福祉協議会より、熊本県社会福祉協議会へ物資及び資材等の要望を行いました。物資の到着が遅れるということだったので、足りない物資、資材等につきましては、山江村が管理する支援物資の中から、必要な物資等を提供し、開設に向けて準備を行

いました。

今後の災害ボランティアセンターの設置につきましても、社会福祉協議会がノウハウを構築しておりますので、今後も連携して、設置に対しての支援をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 久保山直巳君。

○2番（久保山直巳君） 物資等の遅れについて、行政より物資の支援をしていただいたということですね。ボランティアセンター開設には、ニーズ調査、ボランティアの募集と様々な準備が必要になると思います。また、少ない人員の中ですね、日常業務をこなしながらのセンター開設となります。そして、災害ボランティアセンターは地域支援であります。

今後も、行政からの連携支援を期待し、私の一般質問を終わります。

○議長（中竹耕一郎君） これで、本日の通告のありました一般質問は全て終了いたしました。

本日はこれにて散会といたします。ありがとうございました。

-----○-----

散会 午後 3時16分

第 3 号

9 月 1 4 日 (火)

令和3年第7回山江村議会9月定例会（第3号）

令和3年9月14日

午前10時00分開議

於 議 場

1. 議事日程

日程第 1	発議第 1号	コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書案
日程第 2	議案第 42号	山江村過疎地域持続的発展計画の策定について
日程第 3	議案第 43号	山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 4	議案第 44号	山江村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
日程第 5	認定第 1号	令和2年度山江村一般会計決算の認定について
日程第 6	認定第 2号	令和2年度山江村特別会計国民健康保険事業決算の認定について
日程第 7	認定第 3号	令和2年度山江村特別会計簡易水道事業決算の認定について
日程第 8	認定第 4号	令和2年度山江村特別会計農業集落排水事業決算の認定について
日程第 9	認定第 5号	令和2年度山江村特別会計介護保険事業決算の認定について
日程第 10	認定第 6号	令和2年度山江村特別会計後期高齢者医療事業決算の認定について
日程第 11	認定第 7号	令和2年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業決算の認定について
日程第 12	議案第 45号	令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）
日程第 13	議案第 46号	令和3年度山江村特別会計国民健康保険事業補正予算（第2号）
日程第 14	議案第 47号	令和3年度山江村特別会計簡易水道事業補正予算（第2号）
日程第 15	議案第 48号	令和3年度山江村特別会計農業集落排水事業補正予算（第1号）
日程第 16	議案第 49号	令和3年度山江村特別会計介護保険事業補正予算（第1号）

号)

日程第17 議案第50号 令和3年度山江村特別会計後期高齢者医療事業補正予算
(第1号)

日程第18 議案第51号 令和3年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業補正予算
(第1号)

日程第19 議員派遣の件

日程第20 閉会中の継続調査申出書(議会運営委員長、総務文教常
任委員長、産業厚生常任委員長)

追加日程第1 発議第2号 公共施設の在り方に関する調査特別委員会設置の決議に
ついて

追加日程第2 議案第52号 公共工事請負契約の締結について

追加日程第3 議案第53号 公共工事請負契約の締結について

2. 出席議員は次のとおりである。(10名)

1番 本 田 り か さん	2番 久保山 直 巳 君
3番 中 村 龍 喜 君	4番 赤 坂 修 君
5番 森 田 俊 介 君	6番 横 谷 巡 君
7番 立 道 徹 君	8番 西 孝 恒 君
9番 中 竹 耕一郎 君	10番 秋 丸 安 弘 君

3. 欠席議員は次のとおりである。(0名)

4. 職務のため会議に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 山 口 明 君

5. 地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

村 長 内 山 慶 治 君	副 村 長 北 田 愛 介 君
教 育 長 藤 本 誠 一 君	総 務 課 長 白 川 俊 博 君
税 務 課 長 平 山 辰 也 君	企 画 調 整 課 長 新 山 孝 博 君
産 業 振 興 課 長 松 尾 充 章 君	健 康 福 祉 課 長 迫 田 教 文 君
建 設 課 長 清 永 弘 文 君	教 育 課 長 蕨 野 昭 憲 君
会 計 管 理 者 一 二 三 信 幸 君	

開議 午前10時00分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君） おはようございます。ただいまから会議を開きます。

本日の出席議員は10名で、定足数に達しております。

本日は、会期日程、日時第8の本会議で、質疑、討論、表決となっております。なお、質疑においては、提案してある議案に対してのみ疑義をたclusようお願いをいたします。

それでは、議事日程順に質疑、討論、表決をいたします。発言については、会議規則の規定をお守りいただけますようお願い申し上げます。

-----○-----

日程第1 発議第1号 コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書案

○議長（中竹耕一郎君） 日程第1、発議第1号、コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書案を議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、発議第1号は原案のとおり承認することに決定をしました。

-----○-----

日程第2 議案第42号 山江村過疎地域持続的発展計画の策定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第2、議案第42号、山江村過疎地域持続的発展計画の策定についてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第42号は原案のとおり承認することに決定いたしました。

-----○-----

日程第3 議案第43号 山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第3、議案第43号、山江村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第43号は原案のとおり可決することに決定しました。

-----○-----

日程第4 議案第44号 山江村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第4、議案第44号、山江村手数料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とし、質疑を許します。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第44号は原案のとおり可決することに決定しました。

-----○-----

日程第5 認定第1号 令和2年度山江村一般会計決算の認定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第5、認定第1号、令和2年度山江村一般会計決算の認

定についてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

1番、本田りかさん。

- 1番（本田りかさん） おはようございます。質疑をいたします。ただいま議題となっている令和2年度山江村一般会計決算の認定について、歳入歳出決算書からの実質収支について質疑をします。

山江村監査委員から提出された令和2年度山江村一般会計、特別会計、決算審査意見書の2ページに、第1表、会計別歳入歳出決算額、8ページに第12表、標準財政規模並びに実質収支比率、9ページに第13表、財政諸支出の推移があります。第13表の標準値を見ると、実質収支比率については、3から5%が望ましいとなっておりますが、令和2年度の山江村決算では実質収支比率は31.9%と高くなっています。令和2年度山江村一般会計歳入歳出決算書の56ページには、実質収支に関する調書があり、その額は6億1,400万円です。

実質収支比率、実質収支額の大幅な増加について、執行部ではどのような認識を持っておられるのかお尋ねします。

- 議長（中竹耕一郎君） 答えられますか。白川総務課長。

- 総務課長（白川俊博君） それでは、議員ご質問の令和2年度の実質収支比率が急激に伸びたということのご質問でございますけれども、8ページですね、8ページを見ていただきますと、標準財政規模並びに実質収支比率、こちらに31.9%ということがございますけれども、ここで見ていただきますと、標準財政規模も前年伸びております。これについては、災害対応、それからコロナ禍における事業費が増額したということがございます。

特に、歳入においてはですね、普通交付税も増額しておりますし、特別交付税も増額したのが原因でございます。これについては、先ほど申しましたけれども、災害対応についての特別交付税が伸びた要因が令和2年度、実質収支比率が非常に伸び、31.9%となったのが令和2年度の決算となったところでございます。

- 議長（中竹耕一郎君） 本田りかさん。

- 1番（本田りかさん） 今、執行部より答弁がありました。先ほどの監査委員の決算審査意見書の8、9ページの表にもそれが現れていると思います。確かに、山江村では以前から経費の節約に努められ、昨年度への繰越額をできるだけ多く確保する努力をされています。

以上、終わります。

- 議長（中竹耕一郎君） ほかに質疑はありますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

- 議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を認定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、認定第1号は原案のとおり認定することに決定しました。

-----○-----

日程第6 認定第2号 令和2年度山江村特別会計国民健康保険事業決算の認定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第6、認定第2号、令和2年度山江村特別会計国民健康保険事業決算の認定についてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を認定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、認定第2号は原案のとおり認定することに決定しました。

-----○-----

日程第7 認定第3号 令和2年度山江村特別会計簡易水道事業決算の認定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第7、認定第3号、令和2年度山江村特別会計簡易水道事業決算の認定についてを議題とし、質疑を許します。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を認定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、認定第3号は原案のとおり認定することに決定いたしました。

-----○-----

日程第 8 認定第 4 号 令和 2 年度山江村特別会計農業集落排水事業決算の認定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第 8、認定第 4 号、令和 2 年度山江村特別会計農業集落排水事業決算の認定についてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を認定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、認定第 4 号は原案のとおり認定することに決定しました。

-----○-----

日程第 9 認定第 5 号 令和 2 年度山江村特別会計介護保険事業決算の認定について

○議長（中竹耕一郎君） 次に、日程第 9、認定第 5 号、令和 2 年度山江村特別会計介護保険事業決算の認定についてを議題とし、質疑を許します。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を認定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、認定第 5 号は原案のとおり認定することに決定しました。

-----○-----

日程第 10 認定第 6 号 令和 2 年度山江村特別会計後期高齢者医療事業決算の認定について

○議長（中竹耕一郎君） 次に、日程第 10、認定第 6 号、令和 2 年度山江村特別会計後期高齢者医療事業決算の認定についてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を認定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、認定第6号は原案のとおり認定することに決定をしました。

-----○-----

日程第11 認定第7号 令和2年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業決算の認定について

○議長（中竹耕一郎君） 日程第11、認定第7号、令和2年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業決算の認定についてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を認定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、認定第7号は原案のとおり認定することに決定をしました。

-----○-----

日程第12 議案第45号 令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第12、議案第45号、令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）を議題とし、質疑を許します。質疑はありませんか。

2番、久保山直巳君。

○2番（久保山直巳君） それでは、議案第45号、令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）について質問をいたします。

歳出の11ページ、款の33、持続可能なむらづくり推進費、節の12、委託料、災害アーカイブ推進委託料についてお尋ねをします。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

まず、この委託料につきましては、豪雨災害のですね、記録をしました記録史の

作成とかですね、デジタルツールを使ったホームページや動画の作成によりまして、持続可能な復興に向けて、村民自らもですね、発信できるようなシステムですね、構築をするようなことをですね、考えております。

これにつきましては、令和2年7月豪雨災害時にですね、忘れず次の世代へ語り継ぐために、災害から復旧・復興の災害記録史を残すことは重要でございます。また、その内容をですね、村内だけではなく村外から山江村を応援していただける方々へでもですね、発信するなどのことも必要であろうかと思っております。

地域住民と一体となつてですね、事業を行うにあたり、復興むらづくり推進室がですね、情報局というような形になるかと思いますが、となりながら情報を集約、管理する体制の構築をですね、まず作っていくということで考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） 内容はですね、企画調整課長が答えたとおりでありますけれども、これにつきましては、伸和コントロールズが先に用途を、使い道を指定して寄附をされたというものであります。歳入のほうにもそうしておりますけれども、従いまして、その歳入に応じて、また伸和コントロールズの森づくりと、要するに記録作りをしてくださいというようなことにのっとり、予算、歳出を組んだということでございます。内容についてはですね、先ほど企画調整課長が答えたとおりであります。

○議長（中竹耕一郎君） 2番、久保山直巳君。

○2番（久保山直巳君） 財源についてはですね、寄附のほうからということでございました。今回は、アーカイブの推進ということでございますが、実用運行は大体どれくらいめどでお考えなのかということまでちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

これはですね、もちろん情報を発信するはですね、行政もちろん、平成29年度からですね、設置しております情報化推進委員とか、100人委員会、情報発信部会のメンバーとか村民の方々ですね、の方々の応援といいますか、協力もいただかなくてはならないと思っております。どういう動かし方についてもですね、今後構築のですね、事業を進めながら、運用できれば早めに作っていきたいと考えております。

○2番（久保山直巳君） 質疑を終わります。

○議長（中竹耕一郎君） ほかに質疑ありませんか。

4番、赤坂修君。

○4番（赤坂 修君） ただいま議題になっております議案第45号について、1点質疑いたします。

ページは10ページになりますが、款2、総務費、項1、総務管理費、目が4、企画総務費になりますが、節7、報償費633万円、ふるさと応援寄附謝礼についてお伺いいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えいたします。

企画調整総務費の中ですね、報償費ということでございますけども、633万8,000円ということでございます。これにつきましては、ふるさと応援寄附謝礼ということでございますけれども、これにつきましては、昨年度ですね、ふるさと応援寄附金のほうをですね、7,000万円ほど昨年、2年度のほうでは収入として入れたところでございます。ただ、このですね、返戻金につきましては、この取り扱い上、令和3年の2月までの分をですね、前年度のほうで対応するというところで、3月分につきましては、3年度の今年度の予算からですね、歳出のほうを出すということで、昨年の7,000万円のうちのですね、残りの分、いいますと3月に返礼品を行った分に対してのですね、金額が請求のほうがきましたので、この分、ちょっと予算化をしておりませんでしたので、今回、3年度のほうの予算でですね、対応させていただいています。

これにつきましては、2年度ですね、3月の予算では前年度の分は落とさせていただいて、新しく3年度の分にあげさせていただいた分でございます。

○議長（中竹耕一郎君） 4番、赤坂修君。

○4番（赤坂 修君） 今、3月の補正で減額700万円ちょっとあったわけですが、それについてちょっと災害の応援寄附金で返礼品が足りない部分だから減額したというような説明を受けておりますが、今回の633万8,000円については、返礼は令和2年度分の謝礼ということだそうですけども、これについては寄附額の3割が総務省ですかね、原則になっておりますが、その辺はクリアできるんでしょうか。

○議長（中竹耕一郎君） 新山企画調整課長。

○企画調整課長（新山孝博君） それでは、お答えさせていただきます。

納税額ですね、約3割が返礼品ということになっております。それから、あとの2割をですね、要するにいろんな会社、企業のほうをですね、若干使いながら、ふるさと納税のほうを行っていただいておりますが、その費用が大体1割、それから送料、要するに返礼品を返すですね、送料とかが1割ということで、

大体、全体の5割、納付額ですね、5割程度を使っております。

ただ、返礼品につきましては、3割ということで対応しておりますので、問題ないかと思っております。

○4番（赤坂 修君） 質疑を終わります。

○議長（中竹耕一郎君） ほかに質疑はありませんか。

1番、本田りかさん。

○1番（本田りかさん） 一般会計の実質収支額、先ほど言いましたが、6億1,400万円のうち、既に令和3年度一般会計当初予算において、約1億5,000万円の繰越金を歳入計上してあり、それに今回の令和3年度一般会計補正予算（第5号）の1ページですが、残りの4億6,400万円を追加補正して、繰越金の総額は約6億1,400万円です。このうち積立金など、必要経費に充当した残りの約3億9,000万円、これが3ページですが、を追加補正して、繰越金の総額は約6億1,400万円となっています。このうち基金積立など、必要経費に充当した残りの約3億9,000万円。先ほど言いました、すいません、を予備費として追加し、予備費の合計は約4億700万円となっています。これが3ページですね、4億700万円となっております。この予備費について、どのようなことに使われる予定か、例えば災害復旧費ですとか、子育て支援、高齢者支援、人材育成、産業振興、基金の積み立て、どのように予算編成されるのか質疑します。

○議長（中竹耕一郎君） 白川総務課長。

○総務課長（白川俊博君） それでは、ご質問の予備費の流用ことをございますけれども、先ほど議員が2年度は確定したということで、繰越金が4億6,000万円ということで、総額は6億1,300万円となったというところをございます。

先ほど議員も申しあげましたように、それから、中で今回はですね、財政調整基金に1億2,000万円、それから減債基金へ3,000万円ということで、年々取り崩していたのを若干ですけれども積み戻しをして、財政の健全な運営に充てたということをございます。それから、そのまた財源については、予備費のほうに流用しておるところをございますけれども、今回、予備費のほうに金額が3億8,000万円ということでございますけれども、この額につきましては、一番気になりますのが、令和2年度の7月豪雨災害で受けた災害復旧、繰り越しもしておりますので、また突発的に増加もする可能性がございます。ですので、緊急時の対応ということで、臨時的に財源が必要となるということで、概ねその財政運営の財源対応ということで、予備費に計上したところをございます。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） 私からもですね、財政運営についてでありますので、補足して

答弁をいたします。

財政運営は、最初、当初の予算を組むときに、どうしても予算が足りないということで、財政調整基金を取り崩したり、減債基金を取り崩したりしながら、当初予算を編成するわけであります。ただ、5月の末日に決算を迎えますので、この9月議会にその繰り越しの金額がみえてくるということになります。

従いまして、その繰り越しの金額が多かったらですね、その基金のほうに返すというのが第一です。安定的な財政運営を今後とも図っていくために、基金を返ししながら、その残りを予備費で運用をするということになります。ただ、今回は4億円の予備費を組んでおりますけれども、ご案内のとおり、大型のですね、災害復旧工事が続いているところでありますし、またいろんな作業道をはじめですね、いろんな村民からの災害復旧の要望もあろうかと思っておりますので、そのために4億円残してもらったということでもあります。

とりあえず、災害復旧の単独で支払う経費として、今年は多めにですね、残してもらった。この中で、また繰り越しに予備費が残るということであれば、基金のほうにまた返して財政運営をしていきたいと、安定した財政運営をしていきたいということにしております。

○1番（本田りかさん） 質疑を終わります。

○議長（中竹耕一郎君） ほかに質疑ありませんか。6番、横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 議案第45号、令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）について2点お尋ねをいたします。

1点目は14ページ、温泉センターの管理運営費、商工費でございます。2点目は16ページ、災害復旧費の道路河川災害復旧費でございます。

1点目の温泉センター管理運営費、工事請負費に1,093万円計上してありますけれども、ここは現地調査等もしましたし、下之段橋ふもとから、今、温泉センターの水源を確保していると。しかし、この管路が老朽化し、水漏れをしていると。そして御溝川、県道もまたがっておりますし、将来的な維持管理を考えて自前の施設のところに新たな水源を確保したいという説明でございます。

これはこれとして、実は現地調査でちょっと村長も触られましたけれども、宅地内の里道に管路が埋設してあるというようなことを聞きました。ですから、この管路が新たな水源を確保すると、この元の管路の敷地も用途が廃止、いらなくなりますから、もしこの宅地の所有者が管路部分の里道を払い下げを申請された場合は、払い下げをしていただくのかどうか、ちょっとこのことをお尋ねをします。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） 里道のほうは、山江村のほうは今管理をしておりますので、ま

ず、あそこですね、宅地内に入っている里道は、新しくですね、今立っている宅地の所有者の方が家を新築したいというような希望がありますので、当然、役場としても今使いがたいということもありますし、そういう役場管理しているものについてはですね、住民の方に、村民の方に払い下げもしていただきたいというふうなことは常々思っているところであります。

○議長（中竹耕一郎君） 横谷巡君。

○6番（横谷 巡君） 2点目のですね、災害復旧費、道路河川災害復旧費です。これも、現地で建設課長から説明をいただいております。復旧の村ですべき工事であった淡島参道橋ですかね、これを県に委託するというようなことでもございました。

確かに、淡島地区は大規模な災害を受けて、今の道路から3メートル、4メートル近くかさ上げをしなければならぬと。それに、今度は淡島参道も密接に関係しているところから、スムーズな工事施工をするために県に委託されたなと思いますけれども、その県道分の改良とその参道橋の復旧、このあたりの概要、ちょっと説明いただければと思います。お尋ねいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 清永建設課長。

○建設課長（清永弘文君） それでは、お答えいたします。

先ほど議員が申されましたとおり、こちらは県道並びに村道橋が被災しておりますので、一連の工事として復旧工事を進めるために、県のほうに村道橋の復旧を委託する方向で、今、県と協議を進めております。内容につきましては、今年の2月に地元説明会を開催しておりますが、まず今年度、橋梁の撤去並びに県道部分の一部かさ上げを計画しております。また、来年度につきましては、藤田商店前だったり、その辺のですね、かさ上げ等も2月の段階で予定されております。

最終年度、令和5年度には、橋梁のところ、淡島裏参道橋の復旧と合わせて県道の接続部分、こちらの方が約3メートルほど上がりますので、そういったところの一体工事を3カ年で計画しているところでございます。

以上でございます。

○6番（横谷 巡君） 以上で終わります。

○議長（中竹耕一郎君） ほかに質疑ありませんか。5番、森田俊介君。

○5番（森田俊介君） ただいま議題になっております、令和3年度山江村一般会計補正予算（第5号）について、1点だけお伺いします。

ページは16ページでございます。6の文化財保護費、これは多分864万7,000円というのが、錦の藤田のところですね、あそこの山道の上のほうの石倉の4棟の解体と運搬費だろうというふうに思います。頂いて、一般財源で864万7,000円の経費がかかっていると。この石倉を頂いて、後の方法ですね、言わせれ

ば観光部門に使うか、いろいろな面で使うかの計画案があれば教えていただきたいというふうに思います。

○議長（中竹耕一郎君） 蕨野教育課長。

○教育課長（蕨野昭憲君） それでは、お答えをいたします。

今、議員も申されましたとおり、令和3年3月に藤田株式会社様から山江村に石倉4棟の寄贈がございました。その後ですね、関係課によりまして、石倉活用に係る打ち合わせ、職員ワーキンググループによる検討会、そして村長以下関係課による検討会を行い、活用構想案というものを作成したところでございます。

今、予算としましてはですね、石倉に関する予算がここにあります文化財保護費の12の委託料と14の工事請負費ということで、この需用費については、看板設置台でございまして、石倉とまた別でございまして、830万円計上したところでございます。

今後につきましてはですね、まず今年度中に活用計画書の策定を、この委託料を元に行います。それから、先ほどございましたとおり、石倉の解体及び移転をですね、今年度中、この解体についても年内にですね、行う予定でございしますが、これを解体して一時保管ということでしたす予定でございます。

その後ですね、来年度以降になります。村民代表者とか文化財関係者によるですね、協議とかご意見等をいただき、そしてまたどこに設置するかというのにも必要になってきますので、その用地の検討選定、そして実施設計、建設というところで、今、工程を組んでですね、進めていくというようなところで行っているものでございます。なので、そのためのですね、今回、3年度中の第1弾として、この委託料と工事請負費を計上させたものでございます。

以上です。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） これを頂いて、山江のほうで何かを立て直すということになれば、これは一般財源でまた立て直すという形になってくるのか、また何か交付金か補助金があればその面で公園を作るとか、そういうような村長のお考えをお願いいたします。

○議長（中竹耕一郎君） 村長。

○村長（内山慶治君） それでは、私のほうからもお答えいたします。

石倉の保存活用事業についてはですね、議員の皆さん方にも全員協議会のほうでも説明をしているところでありますが、錦の神城文化の森にあります石倉は、もともと山江村に建っていた石倉をあそこに移築されたというようなものもございまして、いわゆる里帰りの石倉として位置づけながら、活用構想を練っていくというこ

とになります。

従いまして、この使い方とか、どのような位置づけで地域振興を図っていくということについてはですね、今後、村民の方々にですね、そういうアイデアを募集をするような会議、ワークショップをしていきたいと思っております。従いまして、平成4年度に設計をして、平成5年度に工事というようなスパンで進めて、失礼しました。令和4年度ですね、来年度に設計をいろいろ協議しながら設計をして、令和5年度に工事できればなというような計画はお示ししたとおりですけれども、まさに山江村の石倉であります、その文化伝統を含めてですね、非常に価値あるものとしてですね、今後使わせていただければと思っております。

もちろん、単独予算では考えておりませんで、内閣府の地方創生の予算であったり、観光の予算であったり、また災害復旧の関連のですね、補助金あたりをあたっていききたいというふうに思っております。再度申し上げますが、全く単独で工事をしようとは一切思っておりませんし、何らかの補助金を適用しながら、その使用目的に応じてですね、適用しながら建築していけたらと思っております。

○議長（中竹耕一郎君） 森田俊介君。

○5番（森田俊介君） ほかの財源でどぎゃんかしようかという気持ちでありますので、適切なですね、補助金のほうでお願いしたいというふうに考えます。終わります。

○議長（中竹耕一郎君） ほかに質疑ありませんか。ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第45号については、原案のとおり可決することに決定いたしました。

-----○-----

日程第13 議案第46号 令和3年度山江村特別会計国民健康保険事業補正予算
(第2号)

○議長（中竹耕一郎君） 日程第13、議案第46号、令和3年度山江村特別会計国民健康保険事業補正予算（第2号）を議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第46号は原案のとおり可決することに決定いたしました。

-----○-----

日程第14 議案第47号 令和3年度山江村特別会計簡易水道事業補正予算（第2号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第14、議案第47号、令和3年度山江村特別会計簡易水道事業補正予算（第2号）を議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第47号は原案のとおり可決することに決定いたしました。

-----○-----

日程第15 議案第48号 令和3年度山江村特別会計農業集落排水事業補正予算（第1号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第15、議案第48号、令和3年度山江村特別会計農業集落排水事業補正予算（第1号）を議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第48号は原案のとおり可決すること

に決定いたしました。

-----○-----

日程第16 議案第49号 令和3年度山江村特別会計介護保険事業補正予算（第1号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第16、議案第49号、令和3年度山江村特別会計介護保険事業補正予算（第1号）を議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第49号は原案のとおり可決することに決定しました。

-----○-----

日程第17 議案第50号 令和3年度山江村特別会計後期高齢者医療事業補正予算（第1号）

○議長（中竹耕一郎君） 日程第17、議案第50号、令和3年度山江村特別会計後期高齢者医療事業補正予算（第1号）議題とし、質疑を許します。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第50号は原案のとおり可決することに決定しました。

-----○-----

日程第18 議案第51号 令和3年度山江村特別会計ケーブルテレビ事業補正予算（第1号）

○議長（中竹耕一郎君） 次に、議案第51号、令和3年度山江村特別会計ケーブルテ

レビ事業補正予算（第1号）を議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第51号は原案のとおり可決することに決定しました。

-----○-----

日程第19 議員派遣の件

○議長（中竹耕一郎君） 日程第19、議員派遣の件を議題といたします。

議員派遣については、お手元に配付してありますとおり、派遣することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。よって、お手元にはい配付してありますとおり、派遣することに決定しました。

この際、派遣場所、派遣期間などに変更があった場合、その決定については議長に委任されたいと思います。これにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。よって、そのように決定しました。

-----○-----

日程第20 閉会中の継続調査申出書

○議長（中竹耕一郎君） 日程第20、閉会中の継続調査申出書を議題といたします。

議会運営委員長、総務文教常任委員長、産業厚生常任委員長からお手元に配付してあります申出書が提出されています。よって、委員長の申し出のとおり、継続調査をしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。よって、委員長申し出のとおり、それぞれ閉会中の継続調査とすることに決定しました。

ここでお諮りします。会期中、7番、立道徹議員より、ほか1名より、発議第2号、公共施設の在り方に関する調査特別委員会設置の決議について提出されました。これを日程に追加し、追加日程第1として議題とすることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。よって、発議第2号を日程に追加し、追加日程第1として議題とすることに決定をしました。

続いて、同じく村長から議案第52号、公共工事請負契約の締結について提出がされました。これを日程に追加し、追加日程第2として議題としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。よって、議案第52号を日程に追加し、追加日程第2として議題とすることに決定しました。

同じく、村長から議案第53号、公共工事請負契約の締結について提出がされました。これを日程に追加し、追加日程第3として議題としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認めます。よって、議案第53号を日程に追加し、追加日程第3として議題とすることに決定しました。

それでは、今から議案を配付いたしますので、そのまましばらくお待ちください。

-----○-----

追加日程第1 発議第2号 公共施設の在り方に関する調査特別委員会設置の決議について

○議長（中竹耕一郎君） それでは、追加日程第1、発議第2号、公共施設の在り方に関する調査特別委員会設置の決議についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

7番、立道徹君。説明は答弁席からお願いをいたします。

○7番（立道 徹君） それでは、発議第2号。

令和3年9月10日

山江村議会議長 中竹耕一郎様

提出者 山江村議会議員

立道徹

賛成者 山江村議会議員

久保山直巳

公共施設の在り方に関する調査特別委員会設置の決議について

上記の議案を別紙のとおり、山江村議会会議規則第13条第1項の規定により提出します。

提出理由としまして、本村においては、産業建設、生活環境、文教観光等の分野に多くの公共施設を保有しています。この既存の公共施設に関しては、今後、少子

高齢化の進展、さらなる人口減少による過疎化が進行し、財政状況も厳しくなることが予想されることから、有効活用や適正管理が課題となってきます。

そこで、限られた財源の中で、将来を見通した最適な施設配置及び効率的かつ効果的な維持管理の実現が求められ、公共施設の現状とこれからの時代にふさわしい在るべき姿の調査検討を行うため、公共施設の在り方に関する調査特別委員会の設置の決議を提出するものであります。

次のページをご覧ください。公共施設の在り方に関する調査特別委員会の設置の決議。次のとおり、公共施設の在り方に関する調査特別委員会を設置するものとする。記としまして、

- 1、名称、公共施設の在り方に関する調査特別委員会、
 - 2、設置の根拠、地方自治法第109条及び山江村議会委員会条例第4条、
 - 3、目的、公共施設の状況や在り方、適正管理や有効活用、利用等の課題を明確にしていく必要から調査をするもの、
 - 4、委員の提出、10名を調査の期間、特別委員会設置の日から調査終了の日までとし、調査終了まで閉会中も継続調査とすると、
 - 6、委員の任期は調査終了までとします。
 - 7、経費、本調査に関する経費は予算の範囲内とします。
- 慎重審議の上、ご決定賜りますようよろしくお願いいたします。

-----○-----

追加日程第2 議案第52号 公共工事請負契約の締結について

○議長（中竹耕一郎君） 次に、追加日程第2、議案第52号、公共工事請負契約の締結についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第52号についてご説明を申し上げます。公共工事請負契約の締結についてでございます。次のとおり、公共工事請負契約を締結するものとするというものでございます。令和3年9月14日、本日提出であります。山江村長、内山慶治としております。

記として表を記載してありますけれども、工事名から順に読み上げさせていただきます。

工事名が、令和3年度2災補道第4019号村道吐合字那川線道路災害復旧工事でございます。

事業量については、施工延長が204.9メートル、大型ブロック積工が1153.5平方メートル、コンクリート根継工が24立方メートル、アスファルト舗装工が640平方メートル、路側防護柵工が178メートル、仮設工が一式としてお

ります。

契約金額につきましては、2億7,500万円でございます。

契約の相手方が、球磨郡山江村大字万江甲1049-1、株式会社中央設備、代表取締役、林田啓一、敬称は略しております。

入札の方法は、指名競争入札で実施しております。

提案理由でございますが、この工事請負契約の締結については、山江村議会の議決に付すべき契約及び財産の取得及び処分に関する条例第2条の規定により、議会の議決を経る必要があるために提案をさせていただくと。いわゆる5,000万円以上の契約でございます。

この中身についてはですね、令和2年7月豪雨災害によりまして、村道吐合宇那川線の六郎橋から弥七橋の区間が大きく被災をしたということでありまして。復旧計画としまして、令和3年度、4年度の2カ年間をかけて完了したいという予定をしております。今年度の施工区間は、弥七橋から下流に向けて約200メートルを計画させてもらっているということです。

災害復旧工事でありますから、事業名は公共土木災害復旧工事、財源につきましては、国庫補助率100%でございます。9月3日に入札をして、9月6日に仮契約をしております。議会承認いただきましたら、本契約の締結を行わせていただくというものでございます。

以上でございます。

-----○-----

追加日程第3 議案第53号 公共工事請負契約の締結について

○議長（中竹耕一郎君） 次に、追加日程第3、議案第53号、公共工事請負契約の締結についてを議題とし、提案者の説明を求めます。

村長。

○村長（内山慶治君） それでは、議案第53号についてご説明申し上げます。公共工事請負契約の締結についてでございます。次のとおり、公共工事請負契約を締結するものとするというものでございます。本日提出でございます。

記の下に表をあげておりますけれども、工事名が、令和3年度2災補橋第5679号でございます。村道県道柚木川内線であります。柚木川内橋の件であります。橋梁災害復旧工事下部工といたしております。

事業量につきましては、施工延長が38メートル、旧橋の撤去工が一式としております。下部工につきましては、2期でございます。土留、仮締切工が一式、工事用道路工が一式、取付道路工が一式、取付護岸工が一式としておるところです。

契約金額につきましては、2億3,650万円でございます。

契約の相手方につきましては、球磨郡山江村大字万江甲1049-1、株式会社中央設備、代表取締役、林田啓一、敬称は略しております。

入札方法は、指名競争入札により入札したものでございます。

提案理由でございますが、前議案と同様ではございまして、この工事請負契約の締結については、山江村議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定によりまして、議会の議決を得る必要があるために提案をさせていただくというものでございます。

概要でございますけれども、令和2年7月豪雨災害によりまして、村道県道柚木川内線に架かる柚木川内橋が被災を受けております。復旧計画として、架け替えを計画しておりまして、令和3年度、4年度の2カ年をかけて完了を目指すというものでございます。今年度の施工は、既設橋、現在ある橋の撤去、それから下部工の2期、そして取付道路を計画をいたしております。

災害復旧工事であります。公共土木災害復旧事業といたしておりますし、財源につきましては、国庫補助率100%であります。

この件につきましても、入札は9月3日に行わせて、仮契約を9月6日に行っております。議会承認いただきました後に、本契約の締結を行わせてもらうというものでございます。

以上、ご説明申し上げます。

○議長（中竹耕一郎君） これで提案者の説明は終わりました。ここで、審議のため暫時休憩をしたいと思います。ご異議ありませんか。

-----○-----

休憩 午前11時00分

再開 午前11時36分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君） 審議が終わりましたので、再開をいたします。

-----○-----

追加日程第1 発議第2号 公共施設の在り方に関する調査特別委員会設置の決議について

○議長（中竹耕一郎君） 追加日程第1、発議第2号、公共施設の在り方に関する調査特別委員会設置の決議を議題とし、質疑を許します。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、発議第2号は原案のとおり可決することに決定いたしました。

ここでお諮りいたします。ただいま設置されました特別委員会の委員長、副委員長を選任する必要がありますので、ここで再度、暫時休憩をしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、しばらくの間暫時休憩とします。

-----○-----

休憩 午前11時37分

再開 午前11時40分

-----○-----

○議長（中竹耕一郎君） それでは、休憩前に引き続き再開をいたします。

ただいま、公共施設の在り方に関する調査特別委員会の委員長、副委員長の互選がありましたので、報告をいたします。

委員長に立道徹議員、副委員長に中村龍喜議員が就任をされました。

-----○-----

追加日程第2 議案第52号 公共工事請負契約の締結について

○議長（中竹耕一郎君） 追加日程第2、議案第52号、公共工事請負契約の締結についてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第52号は原案のとおり可決することに決定いたしました。

-----○-----

追加日程第3 議案第53号 公共工事請負契約の締結について

○議長（中竹耕一郎君） 追加日程第3、議案第53号、公共工事請負契約の締結につ

いてを議題とし、質疑を許します。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 質疑なしと認めます。

次に、討論に入ります。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 討論なしと認めます。

採決をします。本案を可決することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議案第53号は原案のとおり可決することに決定しました。

お諮りします。本会議で議決された事件の条項、字句、数字、その他の整理を議長に委任することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、議長に委任することに決定をしました。

○議長（中竹耕一郎君） これで、本定例会の会議に付された事件は全て終了をいたしました。

お諮りします。これで本定例会を閉会したいと思います。ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（中竹耕一郎君） 異議なしと認め、令和3年第7回山江村議会定例会を閉会といたします。ありがとうございました。

-----○-----

閉会 午前11時42分

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

令和 年 月 日

山江村議会議長

会議録署名議員

会議録署名議員